

DIGITAL PIANO

SCLP-7450

SCLP-7350

取扱説明書

このたびは、ヤマハ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この楽器に搭載された機能を十分に活かし、演奏をお楽しみいただくため、本書をよくお読みになってからご使用ください。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

この楽器のお取り扱いについては、ご使用前に必ず4~7ページの「安全上のご注意」をお読みください。

組み立て説明については巻末をご参照ください。

付属品(お確かめください)

- 取扱説明書(本書)×1
- クラシック名曲50選(楽譜集)×1
- 保証書×1
- 製品登録のご案内×1
- 電源コード/電源アダプター×1
- ヘッドホン×1
- イス(高さ調節可)×1
ハンドルを時計回りに回すと高くなります(ご購入時には、ハンドルは固めに締められています)。

取扱説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。

冊子マニュアル



取扱説明書(本書)

この楽器の機能や使い方を説明しています。

- **準備編**
ご使用前の準備について説明しています。簡単な準備だけでピアノ演奏を楽しめます。さっそく音を出してみましょう。
- **本編**
内蔵曲を再生したり、演奏を録音するなど、練習に役立つ機能について説明しています。
- **詳細設定編**
この楽器をさらに便利に使いこなすための細かい設定について説明しています。
- **資料**
メッセージ一覧や音色一覧などの資料を掲載しています。

電子マニュアル(PDF)



スマートデバイス接続マニュアル

この楽器をスマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続する方法を説明しています。



コンピューターとつなぐ

この楽器とコンピューターを接続する方法や、データを送受信する方法などを説明しています。



MIDIリファレンス

この楽器のMIDIに関する資料を掲載しています。

これらのマニュアルは、下記ウェブサイトの「取扱説明書」のページからご覧いただけます。

サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>

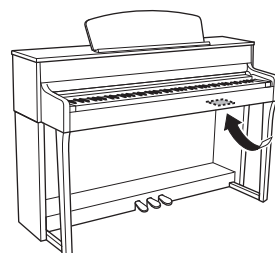
スマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」

お使いのスマートデバイスに「スマートピアニスト」(無料)をインストールすると、スマートデバイスで音色選択やメトロノームなどを直感的に操作したり、譜面を表示したりできます(76ページ)。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをおすすめします。

機種名

製造番号



銘板は、製品の底面にあります。

(bottom_ja_02)

目次

付属品(お確かめください)	2
取扱説明書について	2
安全上のご注意	4
注記(ご使用上の注意)	8
お知らせ	8
Bluetoothについて(SCLP-7450)	9
特長	10

準備編 12

各部の名前と機能	12
操作パネル	12
音を出してみましょう	14
電源を入れる/切る	14
譜面立てを使う	16
音量を調節する	17
ヘッドホンを使う	17
ペダルを使う	19
画面の基本操作	20

本編 22

ピアノ演奏を楽しむ	22
2種類のグランドピアノを選んで弾く	22
ピアノコレクションの音色を選んで弾く	23
ピアノの響きやタッチ感度を変えて楽しむ(ピアノルーム)	24
いろいろな楽器音(音色)で演奏する	27
サウンドコレクションの音色を選んで弾く	27
音に効果をかける	28
二人で一緒に弾く(デュオ)	30
メトロノームを使う	32
曲を再生する、練習する	34
音色の特徴がわかるデモ曲を聞く	35
曲を再生する	36
右手または左手パートだけを再生する(MIDI曲)	39
繰り返し再生する	40
音量バランスを調節する	43
再生に関するその他の機能	44
リズムに合わせて弾く	45
演奏を録音する	46
録音の方法	46
簡単にMIDI録音する	47
トラックを指定してMIDI録音する	49
USBフラッシュメモリーにMIDI録音する	51
USBフラッシュメモリーにオーディオ録音する	52
そのほかの録音方法とテクニック	53

曲ファイル进行操作する	57
曲の種類とファイル操作の制限	57
曲ファイルの基本操作	58
曲を削除する	59
曲をコピーする	59
曲を移動する	60
MIDI曲を再生しながらオーディオ曲に変換する	60
曲名を変更する	61

他の機器と接続する	62
端子について	62
USB機器を接続する(USB [TO DEVICE]端子)	64
コンピューターと接続する(USB [TO HOST]端子)	65
外部MIDI機器と接続する(MIDI端子)	66
スマートデバイスと接続する	67
Bluetoothオーディオ機能を使う(SCLP-7450のみ)	74
スマートデバイスアプリを使う	76

詳細設定編 77

基本操作	77
音色メニュー	78
曲メニュー	82
メトロノーム/リズムメニュー	85
録音メニュー	86
システムメニュー	87

資料 93

音色一覧	93
曲一覧	95
音色デモ曲	95
クラシック50選	95
名曲セレクション	96
レッスン曲	96
リズム一覧	97
メッセージ一覧	98
困ったときは	101
楽器を組み立てる	103
組み立て時の注意	103
仕様	107
別売ミュージックデータ紹介	110
ミュージックデータのご使用にあたって	110
索引	111

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



注意喚起を示す記号



禁止を示す記号



行為を指示する記号

■ 「警告」「注意」「注記」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。



警告

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

注記

「故障、損傷や誤動作、データの損失の発生が想定される」内容です。

電源アダプターについて



警告



禁止

ヤマハ製電子楽器以外に使用しない。
電源アダプターは、ヤマハ製電子楽器専用です。他の用途には、ご使用にならないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。



禁止

電源アダプターは、室内専用のため屋外および水滴のかかる環境では、使用しない。また、水の入った物、花瓶などを機器の上に置かない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。



注意



必ず実行

製品は電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに製品の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

楽器本体について

警告

電源 / 電源アダプター



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの(108ページ)を使用する。

異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源コード/プラグは、必ず付属のものを使用する。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しない。

故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。感電やショートのおそれがあります。

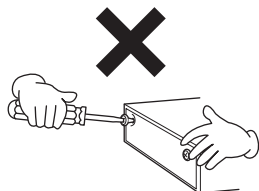
分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上にもうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

医療用電気機器への影響 (SCLP-7450)



禁止

医療機器の近くなど電波の使用が制限された区域で使用しない。

心臓ペースメーカーや除細動器の装着部分から15cm以内で使用しない。

本体が発する電波により、動作に影響を与えるおそれがあります。

イス



禁止

不安定な場所に置かない。

イスが転倒して、お客様やほかの方々けがをする原因になります。



禁止

イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様けがをする原因になります。



禁止

イスには二人以上ですわらない。
イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



必ず実行

イスのネジを定期的に締め直す。
イスを長期間使用すると、イスのネジがゆるみ、お客様がけがをする原因になります。ネジがゆるんだ場合は、工具で締め直してください。



必ず実行

小さなお子様の後方への転倒に注意する。
背もたれがないため、後方へ転倒してけがをするおそれがあります。

異常に気づいたら



電源プラグを抜く

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合
- ・製品に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源アダプター



禁止

たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



電源プラグを抜く

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

組み立て



必ず実行

本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。また、定期的にネジを締め直す。

楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

地震のときは、本体から離れる。
地震による強い揺れで本体が動いたり転倒したりして、けがをするおそれがあります。



必ず実行

この製品を持ち運びする場合は、必ず2人以上で行なう。
この製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この製品が落下して破損したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。



この製品を電源コンセントの近くに設置する。

必ず実行

電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

必ず実行

感電、聴覚障害または機器の損傷の原因になります。



演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

必ず実行

聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



キーカバーや本体のすき間に手や指を入れない。また、キーカバーで指などをはさまないように注意する。

禁止

お客様がけがをされるおそれがあります。



キーカバーやパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

禁止

感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

禁止

本体が破損したり、お客様やほかの方々がかがをしたりする原因になります。



小さな部品は、乳幼児の手の届くところに置かない。

禁止

お子様が誤って飲み込むおそれがあります。



大きな音量で長時間使用しない。

禁止

聴覚障害の原因になります。特にヘッドホンを使用する場合はご注意ください。万一、聴力低下や耳障りを感じた場合は、専門の医師にご相談ください。



イス



イスにすわったままでイスの高さを調節しない。

禁止

高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がかがをしたりする原因になります。



可動部のすき間に手を入れない。

禁止

手をはさんでけがをすることがあります。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

[o](スタンバイ/オン)スイッチを切った状態(電源ランプが消えている)でも微電流が流れています。[o](スタンバイ/オン)スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- 本製品をインターネットに接続する場合は、セキュリティを保つため必ずルーターなどを経由し接続してください。経由するルーターなどには適切なパスワードを設定してください。電気通信事業者(移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど)の通信回線(公衆回線LANを含む)には直接接続しないでください。
- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスのアプリと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためスマートデバイスの機内モードをオンにしてからWi-FiまたはBluetoothをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5℃~40℃の範囲で動作することを確認しています)。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。
- つや出し仕上げのモデルの場合、本体の表面に金属、陶器、その他硬い物を当てないでください。表面にひびが入ったり、はがれたりする原因になります。
- イスの脚で床やたたみを傷つけないよう注意してご使用ください。イスの下にマットを敷くなどして、床やたたみを保護することをおすすめします。

■ 製品のお手入れに関する注意

- お手入れの際は、乾いた柔らかい布、または水を含ませた柔らかい布を固くしぼってご使用ください。鍵盤の頑固な汚れには「ヤマハ鍵盤クリーナー」をお使いください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質の原因になりますので、使用しないでください。
- つや出し仕上げのモデルの場合、本体のほこりや汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。強く拭くと、ほこりの粒子で本体の表面に傷がつく場合があります。つやを保つためには、ユニコンをピアノクロスに含ませてムラなく拭き、別の布で伸ばすように磨き上げます。ユニコンは楽器店などで買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。
- 極端に温湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく(結露)することがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。
- ペダルは一般的なアコースティックピアノ同様、経年変化によって変色することがあります。その際はピアノ用コンパウンドを楽器店などで買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。

■ データの保存に関する注意

- この楽器の一部のデータ(91ページ)や本体に録音して保存した曲データ(46ページ)は、電源を切っても消えません。ただし保存されたデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。曲データは、USBフラッシュメモリーに保存してください(59ページ)。USBフラッシュメモリーを使う前には、必ず64ページをお読みください。
- 保存したUSBフラッシュメモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBフラッシュメモリー/コンピュー

ターなどの外部機器にバックアップとして保存されることをおすすめします。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- この製品に内蔵または同梱されたコンテンツは、ヤマハ(株)が著作権を有する、またはヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物です。製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出し、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することについては、著作権法等に基づき、許されていません。
※上記コンテンツとは、コンピュータープログラム、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。
※上記コンテンツを使用して音楽制作や演奏を行ない、それらを録音や配布することについては、ヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。
- この製品には、XGフォーマット以外の音楽/サウンドデータを扱う機能があります。その際、元のデータをこの楽器に最適化して動作させるため、オリジナルデータ(音楽/サウンドデータ)制作者の意図どおりには再生されない場合があります。ご了承のうえ、ご使用ください。
- 本製品には株式会社リコーのBitmap Fontが使われています。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- 本製品の品番末尾のアルファベット「DA」「WH」は、外装の色や仕上げの情報を表わしています。この取扱説明書では、品番末尾のアルファベットを省略しています。
- iPhone、iPad、iPod touchは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。ヤマハ株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。



- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

■ 調律について

- 調律の必要はありません。

■ Bluetoothの扱いについて(SCLP-7450)

Bluetoothについては、9ページをご覧ください。

Bluetoothについて(SCLP-7450)

- Bluetoothとは、2.4 GHz帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行なうことができる技術です。

Bluetooth通信の取り扱いについて

- Bluetooth対応機器が使用する2.4 GHz帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。Bluetooth対応機器は、同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本機はすべてのBluetooth機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。

製品の取り扱いに関する注意

- 本製品は、日本国内でのみ使用できます。
- 本製品は、日本電波法に基づく認証を受けた無線機器を内蔵しております。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は不要です。ただし、本製品に以下の行為を行なうと法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解/改造する
 - 本体底面の銘板をはがしたり、消したりする

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。

特長

本格的なピアノ演奏を楽しみましょう



思いのままに奏でられる「グランドタッチ-エス鍵盤」

グランドピアノの鍵盤は、ゆっくりと優しく弾いたときには軽く、強く激しく弾いたときにはしっかりとした手ごたえを感じるタッチで演奏できます。この楽器には、そのグランドピアノの弾き応えを再現したグランドタッチ-エス鍵盤を搭載、ピアノシモからフォルティッシモまで多彩に表現できます。



曲のイメージにあわせて選べる 2つのコンサートグランドピアノの音

▶▶▶ 22ページ

ヤマハ最上位コンサートグランドピアノCFX と、ウィンナートーンで有名なベーゼンドルファー社のインペリアルからサンプリングした音色を収録しています。力強くきらびやかな音、豊かな低音の響きが特長のCFXと、柔らかく深みのある中音・低音の響き、美しいピアノシモが特長のベーゼンドルファーの音色を、曲想にあわせてお選びいただけます。

*ベーゼンドルファー社はヤマハのグループ会社です。



ピアノの音の響きやタッチを調節できる「ピアノルーム」

▶▶▶ 24ページ

「ピアノルーム」では、ピアノの音に関するさまざまな機能の設定ができます。グランドピアノの共鳴音を再現する機能「VRM」と、タッチによる音色の微妙な変化を再現する技術「グランド・エクスプレッション・モデリング」のデモを聞くこともできます。

• グランドピアノの豊かな共鳴音を再現する「VRM」

グランドピアノでは弾いた鍵盤の弦の振動が他の弦や響板へ伝わり、それぞれが複雑に影響しあって豊かでふくよかな共鳴音が広がります。このような弦と響板の複雑な相互作用を、仮想的な楽器(物理モデル)の上で忠実に再現する機能「VRM(バーチャル・レゾナンス・モデリング)」が搭載されています。この機能により、鍵盤を押さえるタイミングやペダルを踏むタイミングと深さに応じた、多彩な演奏表現が可能です。

• 弾き手が思い描く細やかなニュアンスまで表現できる 「グランド・エクスプレッション・モデリング」

グランドピアノでは、鍵盤を押してから離すまでのタッチを変えることにより、音を微妙に変化させることができますが、その微妙な音の変化を再現する技術が「グランド・エクスプレッション・モデリング」です。強めのタッチでアクセントを付けたり、やわらかなタッチで輝かしい響きを付けたりと多彩な音色を奏でることができます。



ヘッドホンから流れる、包み込まれるような響き

▶▶▶ 18ページ

ヘッドホンを接続すると、CFXとベーゼンドルファーの音色では、ヘッドホン専用サンプリング(バイノーラルサンプリング)された音に切り替わり、ピアノ本体から音が響いてくるような臨場感が楽しめます。また、ピアノコレクション(93ページ)の内、コンサートグランドからモダンピアノまでの音色ではステレオフォニックオプティマイザーの機能(エフェクト)により、自然な音の広がりが再現されます。

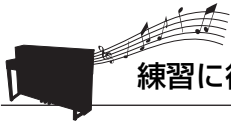
便利な機能を使ってみましょう



シンプルなリズムとベース音で演奏を華やかに演出

▶▶▶ 45ページ

この楽器には、よく使われるシンプルなリズムが20種類搭載されています。ご自分の演奏に打楽器音とベース音の自動演奏をつけられるので、演奏が華やかになります。お好みのリズムを鳴らしながら、一緒に鍵盤演奏をお楽しみください。



練習に役立つ内蔵曲

▶▶▶ 34ページ

この楽器には有名なクラシック曲を含む「クラシック50選」、ピアノの名曲としてなじみの深い「名曲セレクション」、さらに練習に役立つ「レッスン」が内蔵されています。聞いて楽しむのはもちろん、右手部分をオフ(消音)にして、左手部分だけをオン(再生)にし、オフにした部分をご自分で弾いて練習することも可能です*。レッスン用の303曲には、ピアノの代表的な教則本であるバイエルやハノンなどを収録しています。ぜひ活用ください。

*この機能は、右手パート、左パートに分かれているMIDI曲を選んだ場合にのみ使えます。



目的に応じて使い分けできる2つの録音方式

▶▶▶ 46ページ

ご自分の演奏を楽器本体やUSBフラッシュメモリー(別売)に保存できます。録音はMIDI録音とオーディオ録音の2通りの方式がありますので、それぞれ用途に応じて使い分けましょう。たとえばMIDI録音はトラックごとの録音にも対応していますので、両手で弾くのが難しい曲は、右手の演奏を録音してから、左手の演奏を重ねて録音することで、1つの曲に仕上げることができます。オーディオ録音の場合、データは一般的なCD音質でUSBフラッシュメモリーに保存されますので、コンピューターを使ってお手持ちの携帯音楽プレーヤーに転送して、演奏を聞くこともできます。



スマートデバイスと接続して広がる楽しみ方

▶▶▶ 67ページ

スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続して楽器に対応のアプリを楽しめます。また、Bluetooth対応のスマートデバイス内のオーディオデータを、この楽器のスピーカーで再生できます*。

*SCLP-7450のみ

クラシックの名曲が作られた当時の響き —ロマンティックピアノ、クラシカルピアノ

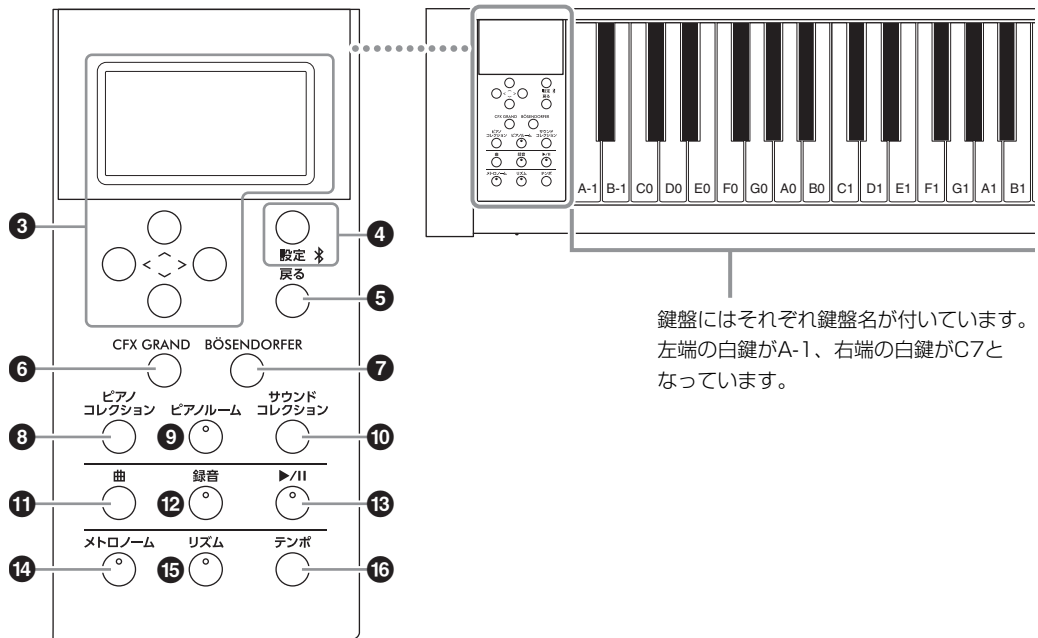
モーツァルトやベートーヴェン、ショパンが活躍していた時代のピアノからサンプリングした音を収録しています。個性あふれる音色で、作曲当時の雰囲気をお楽しみください。音色の選び方は27ページをご覧ください。



*写真のピアノは浜松市楽器博物館の所蔵楽器です。

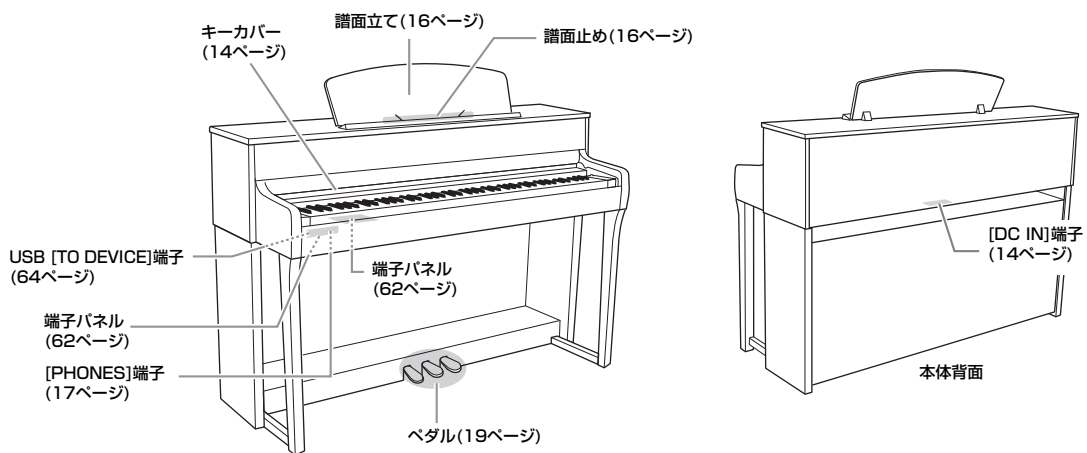
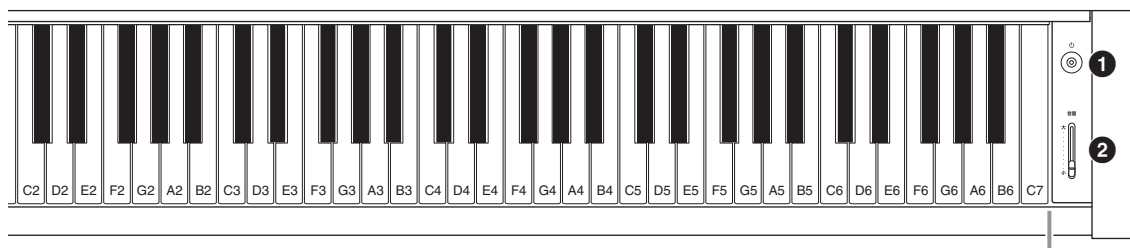
各部の名前と機能

操作パネル



鍵盤にはそれぞれ鍵盤名が付いています。左端の白鍵がA-1、右端の白鍵がC7となっています。

- ① [⏻] (スタンバイ/オン) スイッチ 15ページ
電源のスタンバイ/オンを切り替えます。
- ② [音量] スライダー 17ページ
楽器全体の音量を調節します。
- ③ [⏪]/[V]/[<]/[>] ボタン、画面 20ページ
画面内の項目を選んだり、選んだ項目の値を変更するときに使います。
- ④ [設定] ボタン 77ページ
押すたびに音色メニュー、曲メニュー、メトロノーム/リズムメニュー、録音メニュー、システムメニューの5つの画面が切り替わります。各画面で、関連する機能の詳細な設定ができます。
- ✳ (SCLP-7450) 74ページ
Bluetoothのロゴマークです。
[設定] ボタンを使ってBluetooth対応のスマートデバイスを登録(ペアリング)できます。
- ⑤ [戻る] ボタン 20ページ
現在の画面から抜けて、音色画面や曲画面に戻りたいときに使います。
- ⑥ [CFX GRAND] ボタン 22ページ
音色を「CFX グランド」に切り替えます。
- ⑦ [BÖSENDORFER] ボタン 22ページ
音色を「ベーゼンドルファー」に切り替えます。
- ⑧ [ピアノコレクション] ボタン 23ページ
「CFXグランド」「ベーゼンドルファー」以外のピアノ音色のリストを表示します。
- ⑨ [ピアノルーム] ボタン 24ページ
ピアノの響きやタッチ感度を変更するピアノルーム画面を表示します。
- ⑩ [サウンドコレクション] 27ページ
ピアノ以外の音色リストを表示します。
- ⑪ [曲] ボタン 34ページ
曲リストを表示します。デモ曲や再生/編集する曲を選ぶときに使います。
- ⑫ [録音] ボタン 46ページ
ご自身の演奏を録音します。
- ⑬ [▶/||] (スタート/一時停止) 36ページ
楽器本体に入っている曲や録音した演奏などを、再生したり、一時停止したりします。
- ⑭ [メトロノーム] ボタン 32ページ
メトロノームを鳴らします。
- ⑮ [リズム] ボタン 45ページ
リズムを鳴らします。
- ⑯ [テンポ] ボタン 32ページ
テンポを設定します。



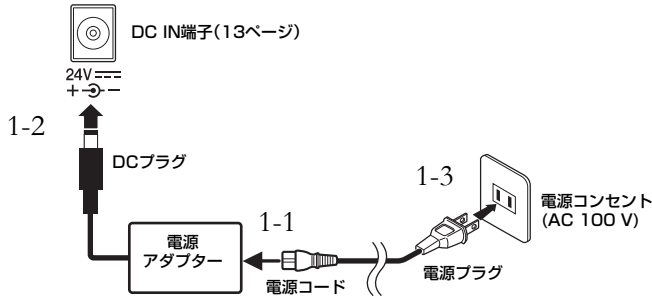
音を出してみましょう

簡単な準備だけでピアノ演奏を楽しめます。さっそく音を出してみましょう。

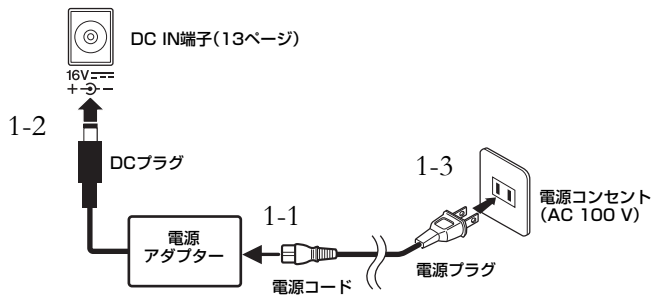
電源を入れる/切る

1. 図の順序で電源アダプターを接続します。

(SCLP-7450)



(SCLP-7350)



2. キーカバーを開けます。

少し持ち上げて奥へ押し込むと、鍵盤の左側に操作パネルが見え、キーカバーが完全に開いた状態になります。鍵盤演奏だけでなく、操作パネルを使って、音色を選んだり、曲を再生/録音したりできます。



注意
手や指をはさまないように注意

注意

本体はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

警告

電源コード/プラグは、必ず付属のものをご使用ください。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。

警告

電源アダプターは、必ず指定のもの(108ページ)をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねる場合がございますので、十分にご注意ください。

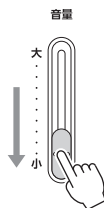
NOTE

電源コード/電源アダプターを外すときは、電源を切ってから、逆の手順で行なってください。

注意

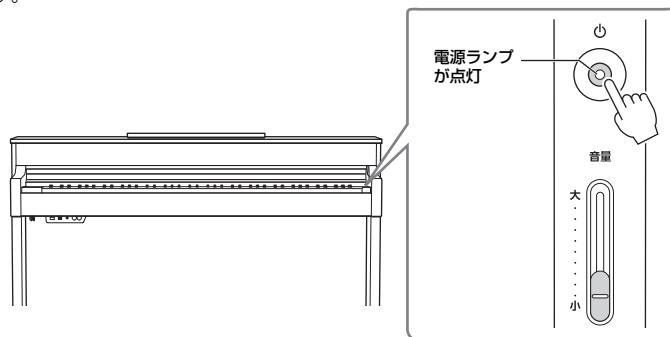
- キーカバーを開閉するときは、両手でゆっくりと行なってください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの縁と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。
- キーカバーを開けるとき、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。

3. 鍵盤右の[音量]スライダーで音量を最小(小)にします。



4. 鍵盤右の[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して、電源を入れます。

鍵盤左の画面に表示が現れ、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチにある電源ランプが点灯します。



5. 鍵盤を弾きながら音量を調節します。

鍵盤を弾いて音を出しながら[音量]スライダーで音量を調節します。詳しくは、「音量を調節する」(17ページ)をご参照ください。



6. 楽器を使い終わったら、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを1秒押し続けて電源を切ります。

画面の表示が消え、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチにある電源ランプも消灯します。



注意

電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

7. キーカバーを閉めます。

手前に引いて、静かに降ろします。



注意

手や指をはさまないように注意

オートパワーオフ機能

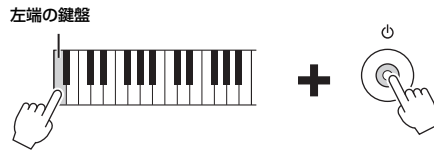
この楽器は、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、オートパワーオフ機能を搭載しています。これは、本体が一定時間操作されないと自動的に電源が切れる機能です。電源が切れるまでの時間は、初期設定では30分ですが、変更することもできます(90ページ)。

注記

- オートパワーオフ機能により電源が切れると、保存していないデータは失われます。ご注意ください。
- 本体の状態によっては、一定時間操作せずにオートパワーオフの設定時間が経過しても電源が切れない場合があります。使用後は、手動で本体の電源を切ってください。

オートパワーオフ機能の簡単解除

左端の鍵盤を押したまま電源を入ると、オートパワーオフ解除を知らせるメッセージが表示され、オートパワーオフ機能が解除された状態で電源がオンになります。

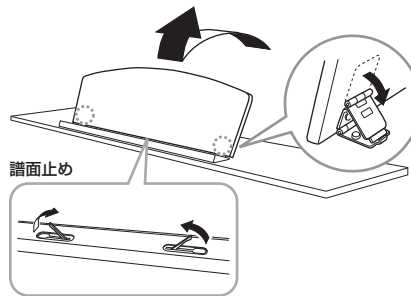


譜面立てを使う

立てるとき

1. 譜面立てを、止まる位置まで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を下ろします。
3. 金具が固定される位置まで、譜面立てを戻します。

譜面止めを使うと、譜面立てに置いた楽譜のページを固定できます。



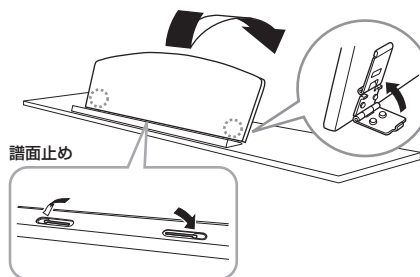
⚠ 注意

金具が固定されていない位置で譜面立てを使用したり、放置したりしないでください。また、譜面立てを立てたり倒したりするときは、途中で手を離さないでください。

倒すとき

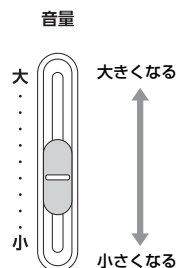
譜面止めを使っている場合は、譜面止めを下ろしてから、以下の手順で譜面立てを倒します。

1. 譜面立てを、止まる位置まで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を上げます。
3. 譜面立てに手を添えて、ゆっくり戻します。



音量を調節する

鍵盤右端の[音量]スライダーで調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。



[音量]スライダーを動かすと、[PHONES]端子や[AUX OUT]端子の出力レベルも変更されます。

⚠ 注意

大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)

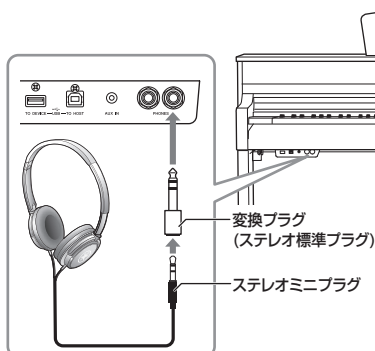
IACとは、楽器の全体音量の大小に応じて、自動的に音質を補正する機能です。音量が小さい場合でも、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。

IACは、この楽器のスピーカーからの出力音のみに有効です。

この機能のオン/オフはシステムメニュー画面で設定できます。[設定]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を選び、「音響」→「IAC」(88ページ)で設定してください。初期設定はオンです。

ヘッドホンを使う

ヘッドホン^{フォーンズ}を[PHONES]端子に接続して使います。[PHONES]端子は2つありますので、ヘッドホンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。



⚠ 注意

大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

NOTE

- ・ 変換プラグを使っている場合は、ヘッドホンのプラグを抜くとき、変換プラグも抜いてください。変換プラグが端子に残ると楽器のスピーカーから音が出ません。
- ・ ヘッドホンを接続していてもスピーカーから音を出すこともできます。詳しくは90ページの「スピーカー」をご覧ください。

ヘッドホンでも自然な音の広がりを再現する(バイノーラルサンプリングとステレオフォニックオプティマイザー)

この楽器では、ヘッドホン使用時に臨場感のある音をお楽しみいただくため、以下の2つの方式を採用しています。

バイノーラルサンプリング

バイノーラルサンプリングとは、演奏者の耳と同じ位置に専用のマイクを備え付け、聞こえてくるピアノの音をそのままサンプリングする方式です。ヘッドホンを通して聞いても、あたかもピアノ本体から音が響いてくるような臨場感をお楽しみいただけます。ヘッドホンの圧迫感も少なく、長時間の演奏でもストレスなくお楽しみいただけます。「CFX グランド」または「ベーゼンドルファー」(22ページ)を選んでいるときにヘッドホンを接続すると、バイノーラルサンプリングの音に切り替わります。

ステレオフォニックオプティマイザー

ステレオフォニックオプティマイザーは、ヘッドホン使用時に自然な音の広がりを再現するエフェクトです。ピアノコレクション(93ページ)の内、コンサートグランドからモダンピアノまでの音色を選んでいるときにヘッドホンを接続すると、ステレオフォニックオプティマイザーがかかります。

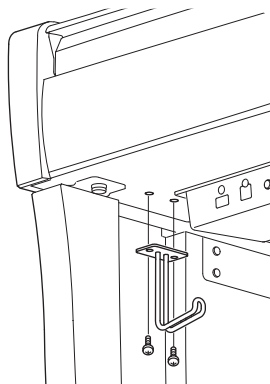
初期設定では、ヘッドホンを接続すると、音色によってバイノーラルサンプリングまたはステレオフォニックオプティマイザーの音に自動的に切り替わります。これらは、ヘッドホンで聞いたときに最適になるよう作られているため、以下のような場合は機能をオフにすることをおすすめします。

- 外部オーディオ機器とこの楽器を接続し、外部スピーカーで楽器の音を再生しながら、本体に接続したヘッドホンで楽器の音をモニターする場合。
- ヘッドホンを使用しながらオーディオ録音(46ページ)し、その曲をこの楽器のスピーカーで再生したい場合(録音した曲をあとでスピーカーで再生したい場合は、録音前から機能をオフにしておきます)。

オン/オフはシステムメニュー画面で切り替えられます。[設定]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を選び、「音響」→「バイノーラル」(88ページ)で設定してください。

ヘッドホンハンガー

付属のヘッドホンハンガーを取り付けると、本体にヘッドホンを掛けられます。付属のネジ(4×10mm) 2本で、図のように取り付けてください。



サンプリングとは

アコースティック楽器の音を録音して電子ピアノに組み込む技術のことです。

NOTE

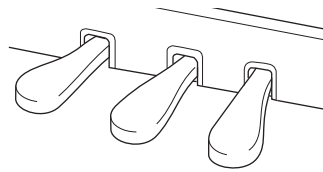
外部オーディオ機器などをこの楽器に接続する場合は、必ず「他の機器と接続する」(62ページ)をお読みいただき、機器を正しく接続してください。

注記

ヘッドホンハンガーにヘッドホン以外のものを掛けしないでください。本体またはヘッドホンハンガーが破損する場合があります。

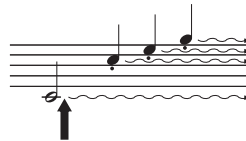
ペダルを使う

この楽器には、3本のペダルが付いています。



右のペダル(ダンパーペダル)

このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても音が長く響きます。また、「音色一覧」(93ページ)のCFXグランドからモダンピアノまでの音色を選択して踏んだ場合は、VRM (26ページ)の効果によりリアルな共鳴音(レゾナンス)を付加できます。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とその後弾いた音すべてが長く響く

NOTE

音色メニュー画面の「ペダル割り当て」を使って、各ペダルへ別の機能を割り当てることができます(80ページ)。

ハーフペダル機能

ダンパーペダルを踏んでいない状態と、完全に踏み込んだ状態の中間の状態を「ハーフペダル」といい、グランドピアノのダンパーが弦に触れるか触れないかの微妙な状態を指します。この楽器のダンパーペダルはハーフペダルに対応しており、どの程度踏み込んだらハーフペダル効果がかかるか(ハーフペダルポイント)を、システムメニュー画面で設定できます。

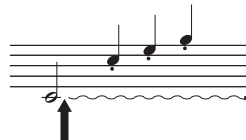
[設定]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を選び、「ペダル」→「ハーフペダルの位置」(88ページ)で設定してください。

NOTE

ペダルには、工場出荷時にビニール袋をかぶせてあります。ご使用前に、ビニール袋を外してください。

まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけが、鍵盤から指を離しても長く響きます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

NOTE

サウンドコレクションの一部の持続音では、まん中のペダルを踏むと、音が減衰せずに持続して鳴り続けます。

まん中のペダルと左のペダルのスタート/ストップ機能切り替え
システムメニュー画面で設定できます。[設定]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を選び、「ペダル」→「再生/一時停止」で、まん中のペダルか左のペダルをパネルの▶/■(再生/一時停止)ボタンと同じ機能に切り替えることができます(88ページ)。

左のペダル(ソフトペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた鍵盤の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくします。ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい場合は、ペダルを踏んでから鍵盤を弾きます。

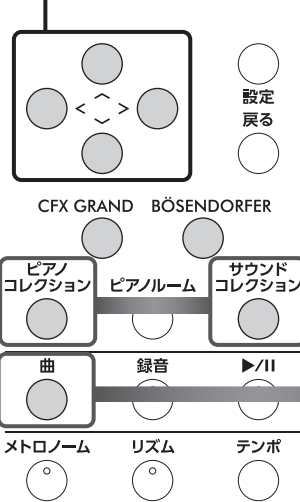
ただし、「メローオルガン」音色を選ぶとロータリースピーカーの回転の速い/遅いの切り替え(ロータリースピード)、「ピブラフォン」音色を選ぶとピブラートのオン/オフ(パイプローター)機能に切り替わります(79ページ)。

画面の基本操作

この楽器は、画面を見ながら主な操作を行ないます。音色や曲の選択といった基本操作はもちろん、楽器の詳細設定をして、さらに楽しく便利に楽器を使いこなすことができます。

音色、曲の選択

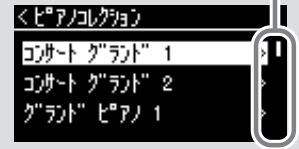
リストの項目を選んだり、表示を切り替えたりします。



音色の選択

表示される場合は画面を上下に切り換えできます。

1. [ピアノコレクション] または [サウンドコレクション] ボタンで音色を表示します。

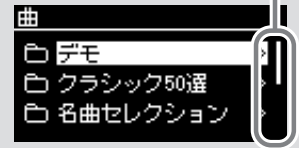


2. [↑]/[↓] ボタンで音色を選びます。

曲の選択

表示される場合は画面を上下に切り換えできます。

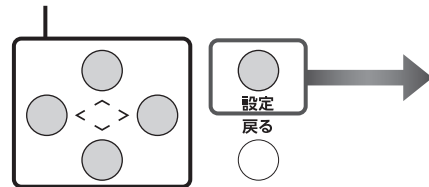
1. [曲] ボタンで曲カテゴリーを表示します。



2. [↑]/[↓] ボタンで曲カテゴリーを選びます。

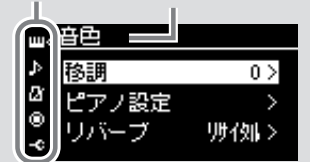
詳細設定

メニューの項目を選んだり、表示を切り替えたりします。



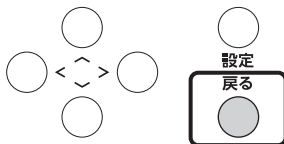
メニューアイコン メニュー名

1. [設定] ボタンを何度か押して、設定するメニューを選びます。



2. [↑]/[↓] ボタンでメニュー項目を選びます。

音色画面 / 曲画面に戻る




[戻る] ボタンを押すと、直前に表示していた音色画面または曲画面が表示されます。ポップアップ画面が表示されている場合は、[戻る] ボタンを押すと1つ前の画面に戻ります。

音色： 鍵盤を弾いたときに鳴る楽器音です。ピアノ以外にもさまざまな音で演奏を楽しむことができます。
曲： 曲データのことです。聞いて楽しんだり、曲に合わせて演奏したりできます。
デモ曲： 音色の特徴がわかるデモ(音色デモ)です。

[>] ボタンで次へ
[<] ボタンで戻る

音色画面



コレクション内の音色の位置を表示します。



3. 鍵盤を演奏します。
[<]/[>] ボタンで前後の音色に変更できます。同時に押すとコレクション内の先頭の音色が選ばれます。

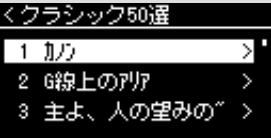
CFXグランド/ベーゼンドルファーの音色
それぞれのボタンで直接選べます。

CFX GRAND BÖSENDORFER


[>] ボタンで次へ
[<] ボタンで戻る

曲画面



3. [^]/[v] ボタンで曲を選びます。
レッスンを選んだ場合は、さらに [^]/[v] ボタンでレッスンの種類を選びます。

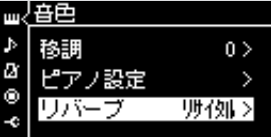
[>] ボタンで次へ
[<] ボタンで戻る



4. [▶]/[⏸] (スタート/一時停止) ボタンで、再生します。
[<]/[>] ボタンで早戻し/早送りができます。

[>] ボタンで次へ
[<] ボタンで戻る

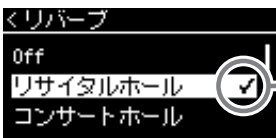
階層の深さはメニューによって異なります。



3. [^]/[v] ボタンで設定項目を選びます。

[>] ボタンで次へ
[<] ボタンで戻る

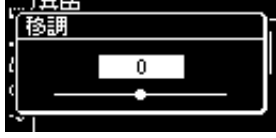
選択肢から設定を選ぶ場合



4. [^]/[v] ボタンまたは [>] ボタンで設定を選びます。
1つ前の画面に戻るには、[<] ボタンを押します。

[>] ボタンで次へ
[戻る] ボタンで戻る

ポップアップ画面で設定値を調節する場合

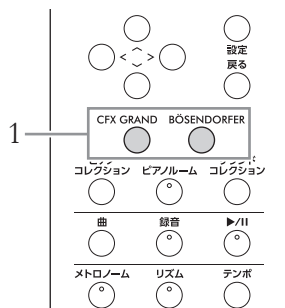


4. [<]/[>] ボタンで値を調節し、[戻る] ボタンを押してポップアップ画面を閉じます。
[<] と [>] ボタンを同時に押すと初期設定に戻せます。

ピアノ演奏を楽しむ

この楽器には、2つの本格的なグランドピアノ、ヤマハ「CFX」とベーゼンドルファー「インペリアル」の音色が搭載されています。また、近代、現代期の音色からバロック期の音色まで16種類のピアノの音色(ピアノコレクション)が搭載されています。お好みや曲調に合わせて、ピアノの音色を選んで演奏してみましょう。

2種類のグランドピアノを選んで弾く



1. **[CFX GRAND]** ボタンまたは **[BÖSENDORFER]** ボタンを押して、ピアノの種類を選びます。

ボタンに対応するピアノが選ばれ、画面に表示されます。

音色画面



CFX グランド

ヤマハコンサートグランドピアノCFXの音色です。弱く弾いた音から強く弾いた音までのダイナミックレンジが広く、表情豊かな演奏ができます。あらゆるジャンルの演奏に最適な音色です。

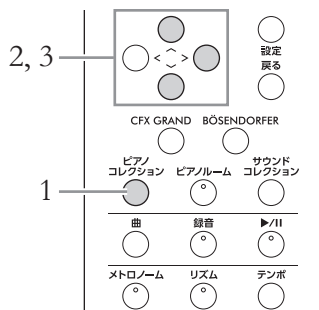
ベーゼンドルファー

ウィーンで有名なベーゼンドルファー社のコンサートグランドピアノ、インペリアル音色です。ピアノの大きさを感じさせる広がりある音の特徴で、曲の優しさを表現するのに最適です。

2. **鍵盤を弾いてみましょう。**

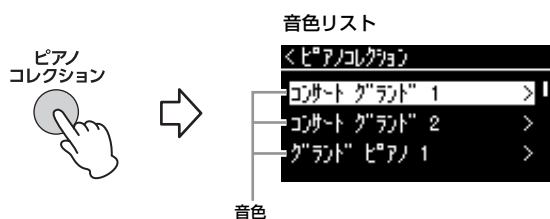
ピアノコレクションの音色を選んで弾く

この楽器にはCFXグランドやベーゼンドルファー以外にも、近代、現代期の音色からバロック期の音色まで、さまざまな時代のピアノ音色が内蔵されています。それぞれの音色の特徴については、93ページの音色一覧をご覧ください。弾きたい音色を選んで演奏してみましょう。



1. [ピアノコレクション]ボタンを押して、音色リストを表示させます。

ピアノ音色リストが表示されます。現在選ばれている音色が反転表示されています。

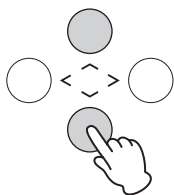


NOTE

この楽器で演奏できる音色については、「音色一覧」(93ページ)をご覧ください。

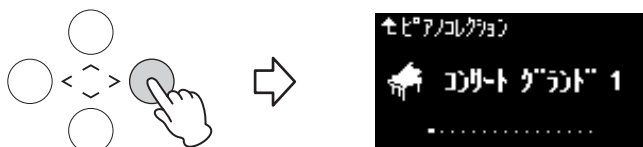
2. [△]/[▽]ボタンで音色を選びます。

選みたい音色を反転表示させます。



3. [>]ボタンを押します。

音色画面が表示されます。

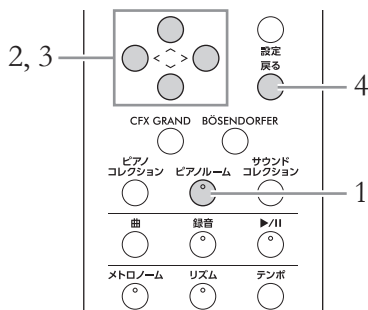


[△]ボタンを押すと、音色リストの表示に戻せます。

4. 鍵盤を弾いてみましょう。

ピアノの響きやタッチ感度を変えて楽しむ(ピアノルーム)

この楽器のピアノ音色は、弦やペダルの共鳴音や大屋根の開閉など、音の響きを調節したり、タッチ感度を調節したりできます。さまざまな要素を調節して自分の好きな音を作ってみましょう。



1. [ピアノルーム]ボタンを押して、ピアノルーム画面を表示させます。

ピアノルーム画面



2. [△]/[▽]ボタンで項目を選択します(25ページ)。
3. [<]/[>]ボタンで設定を変更します(25ページ)。
4. 設定が終わったら、[戻る]ボタンでピアノルーム画面から抜けません。






NOTE



「音色一覧」(93ページ)のロマンティックピアノ以下の音色を選んだ場合、ピアノルーム画面を表示すると自動的に「CFX グランド」に切り替わります。

NOTE

デュオは解除されます。

ピアノルーム画面でできること

項目	アイコン	説明	初期設定	設定範囲
大屋根の開閉		ピアノの大屋根を開閉します。	フル	フル、ハーフ、クローズ
ブライトネス		音の明るさを調整します。	音色による	0~10
タッチ		鍵盤を弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感度)を変更します。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。	ミディアム	ソフト2、ソフト1、ミディアム、ハード1、ハード2、固定
リバーブ		さまざまな場所で弾いているような臨場感が得られる、リバーブの種類を選びます。選んだリバーブは、鍵盤演奏、曲再生音、外部から入力されたMIDIデータすべてにかかります。	音色による	リバーブタイプリスト参照(80ページ)
リバーブの深さ		現在選択されているリバーブの深さ(かかり具合)を調整します。「リバーブ」がオフの場合や設定値が0の場合、効果はかかりません。	音色による	0~40
音の高さ (マスターチューニング)		全体の音の高さを微調整します。ほかの楽器との合奏やCDの再生に合わせて演奏するときなどに、それらのピッチ(音の高さ)と楽器本体のピッチを正確に合わせたい場合に使います。	A3=440.0Hz	A3 = 414.8Hz~466.8Hz (約0.2Hz単位)
VRM		VRMのオン/オフを設定します。VRMの機能については「VRMとは」(26ページ)をご覧ください。 デモを聞く この画面を開いているときに[▶/] (スタート/一時停止) ボタンを押すと、VRMのデモ曲が再生されます。VRMがオンのとき、オフのときのデモ曲を聞いてみましょう。  以下の5項目は、「VRM」がオンのときに設定できません。	On (オン)	On/Off (オン/オフ)
ダンパーレゾナンス		ダンパーペダルを踏んだときに加わる、VRMによる弦共鳴音のかかり具合を設定します。	5	0~10
ダンパーノイズ		VRMによるダンパーノイズのオン/オフを設定します。ダンパーノイズについて詳しくは26ページをご覧ください。ダンパーレゾナンスの設定が「0」のときは、この機能は無効です。	On (オン)	On/Off (オン/オフ)
ストリングレゾナンス		押鍵したときに加わる、VRMによる弦共鳴音のかかり具合を設定します。	5	0~10
アリコートレゾナンス		VRMによるアリコートの響きを調節します。詳しくは「アリコートとは」(26ページ)をご覧ください。	5	0~10
ボディレゾナンス		VRMによるピアノ本体(響板や側板、フレームなど)の響きを調節します。	5	0~10

項目	アイコン	説明	初期設定	設定範囲
グランド・エクスプレッション		グランド・エクスプレッション・モデリングのタイプを選びます。「ダイナミック」では、鍵盤を弾く強さやタッチに応じて、アコースティックピアノのように音が微妙に変化します。「スタティック」では弾き方を変えても、音はさほど変化しません。グランド・エクスプレッション・モデリング機能については下記「グランド・エクスプレッション・モデリングとは」をご覧ください。 デモを聞く この画面を開いているときに[▶/](スタート/一時停止)ボタンを押すと、この機能のデモ曲が再生されます。「ダイナミック」のとき、「スタティック」のときのデモ曲を聞いてみましょう。	ダイナミック	ダイナミック、スタティック
ハーフペダルの位置		右ペダルを踏み込むほど音が長く伸びる「サステイン連続」の効果が、ペダルをどのくらい踏み込めば効き始めるのかを設定します。右ペダルに「サステイン連続」が割り当てられている場合(80ページ)のみ有効です。	0	-2 (浅い位置で効く)~0~+4 (深い位置で効く)

NOTE

- グランド・エクスプレッション・モデリングの効果を付けられる音色は、ピアノグループの「CFXグランド」と「ベーゼンドルファー」のみです。
- ピアノルームでの設定を、電源が切れても保持したい場合は、バックアップ設定の「音色」と「その他」をオンにしてください。詳しくは91ページをご覧ください。
- これらの項目は、音色メニュー (78ページ) やシステムメニュー (87ページ) でも設定できます。ピアノルーム画面でこれらの設定を変更すると、メニュー画面での設定も変更されます。逆に、メニュー画面で設定を変更すると、ピアノルーム画面での設定も変更されます。

VRM (Virtual Resonance Modeling/バーチャル・レゾナンス・モデリング)とは

アコースティックピアノでは、ダンパーペダルを踏んで演奏すると、弾いた鍵盤の音が伸びるだけでなく、その鍵の弦の振動が他の弦や響板へ伝わっていき、それぞれが影響しあって豊かで華やかな共鳴音が広がります。この楽器に搭載されたVRMは、そのような弦と響板の複雑な相互作用を、仮想的な楽器(物理モデル)の上で忠実に再現することで、よりアコースティックピアノに近い響きを作り出します。鍵盤やペダルの状態に合わせて、瞬間瞬間の共鳴音を作り出しているため、鍵盤を押さえるタイミングや、ペダルを踏むタイミングと深さを変えることで、多彩な響きが得られます。

アリコートとは

他の弦と共振する、共鳴専用の弦をアリコートといいます。他の弦と共振することで、倍音を響かせるので、豊かな響きが得られます。アリコートにはダンパーがなく消音されないため、鍵盤から手を離しても、アリコートの響きが残ります。

ダンパーノイズとは

アコースティックピアノでダンパーペダルを踏んだ時に生じるノイズ音です。ダンパーノイズは、ダンパーペダルを踏む速さによって、音色や音量が異なります。ダンパーペダルをゆっくり踏むと、ダンパーヘッドが弦から離れた際のノイズ音が小さく鳴ります。ダンパーペダルを勢いよく踏むと、その振動が弦に伝わり、低い大きなノイズ音が混じります。

グランド・エクスプレッション・モデリングとは

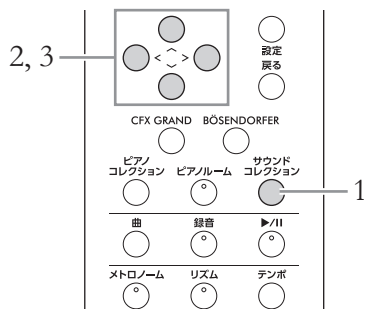
アコースティックピアノでは、鍵盤を押してから離すまでのタッチを変えることにより、音を微妙に変化させることができます。たとえば、鍵盤を底までしっかり押せば、鍵盤が棚板(鍵盤下の板)に当たってコツツと鳴り、その衝撃が弦に伝わって音がわずかに変化します。また、音が消える寸前(ダンパーが弦に触れる瞬間)の音も、鍵盤から指を離す速さにより微妙に変化します。このようなタッチによる音の微妙な違いを再現する技術がグランド・エクスプレッション・モデリングです。強めのタッチでアクセントを付けたり、やわらかなタッチで輝かしい響きを付けたり、と多彩な音色を奏でることができます。また、スタッカートで弾いたときには歯切れのいい音を、ゆっくり指を離れたときには長く余韻を残す音を表現できます。

いろいろな楽器音(音色)で演奏する

ピアノのほかに、オルガンや弦楽器などの楽器音(音色)を選んで弾くことができます。

サウンドコレクションの音色を選んで弾く

ピアノ以外の楽器音色が内蔵されています。音色を選んで演奏してみましょう。

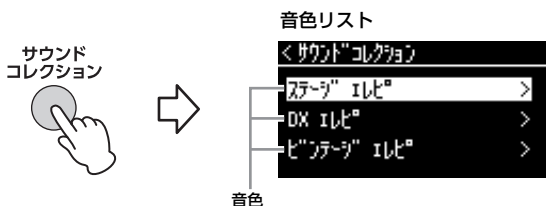


NOTE

音色によっては、鍵盤を弾く強さに応じた音の強弱が付かないものもあります。どの音色にタッチ感が付くかは、「音色一覧」(93ページ)の「タッチ感度」欄を確認してください。

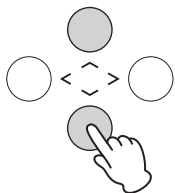
1. [サウンドコレクション]ボタンを押して、音色リストを表示させます。

音色のリストが表示されます。現在選ばれている音色が反転表示されています。



2. [△]/[▽]ボタンで音色を選びます。

選びたい音色を反転表示させます。



3. [>]ボタンを押します。

音色画面が表示されます。



音色画面で[<][>]ボタンを押すと、他の音色を選ぶことができます。
[△]ボタンを押すと、音色リストの表示に戻せます。

4. 鍵盤を弾いてみましょう。

NOTE

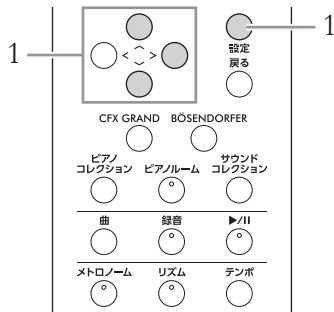
この楽器で演奏できる音色については、「音色一覧」(93ページ)をご覧ください。

音に効果をかける

効果をかけると、演奏表現に幅を出すことができます。

ブリリアンス

音の明るさを調節したり、オリジナルのEQを設定したりします。設定は、すべてのパート(手弾き/曲/MIDI)に共通です。



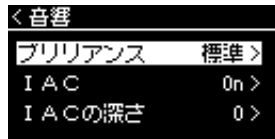
1. [設定]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



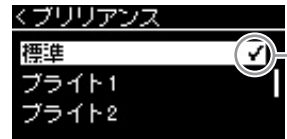
- 1-1. [∧]/[∨]ボタンで「音響」を選択
- 1-2. [>]ボタンで次へ

音響画面



- 1-3. [∧]/[∨]ボタンで「ブリリアンス」を選択
- 1-4. [>]ボタンで次へ

ブリリアンス画面



- 1-5. [∧]/[∨]ボタンで音の明るさを選択

チェックマーク

ブリリアンス画面には音の明るさのタイプが表示されますので、[∧]/[∨]ボタンで選びます。[∧]/[∨]ボタンを同時に押しと、初期設定に戻ります。

- **メロー 1～3**
柔らかくまるやかな音になります。1、2、3の順で音の柔らかさが増します。
- **標準**
標準的な明るさです。
- **ブライツ1～3**
明るい音になります。1、2、3の順で音の明るさが増します。
- **ユーザー**
オリジナルのEQを設定できる「ユーザー」画面が開きます。EQ (イコライザー)とは、音を周波数帯域(バンド)に分けて、各帯域のレベル(ゲイン)を上げ下げして、本体スピーカーやヘッドホンなどに、最適な音質を補正する機能です。操作手順は29ページをご覧ください。

初期設定：標準

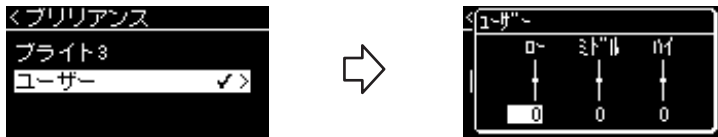
音がひずむ場合は

「ブライツ1～3」に設定すると、音量が少し大きくなります。音量が大きくなっている状態では音がひずむことがありますので、音量を少し下げてください。

ユーザー EQの設定

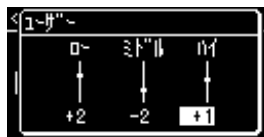
1. 28ページ手順1-5で「ユーザー」を選び、[>]ボタンを押します。

3つの周波数帯域(バンド)のゲインを設定する画面が表示されます。



2. [<]/[>]ボタンで設定する帯域を選び、[∧]/[∨]ボタンで各帯域のゲインを設定します。

各帯域のゲインを初期設定に戻すには、[∧]/[∨]ボタンを同時に押します。



初期設定: 0 dB
設定範囲: -6 dB ~ 0 ~ +6 dB

3. [戻る]ボタンを押して、「ユーザー」画面を閉じます。

リバーブ

音に残響を加えます。コンサートホールなどで演奏しているような臨場感が味わえます。音色を選ぶたびに、最適なリバーブタイプが自動で選ばれますが、ご自分で選ぶこともできます。

リバーブタイプをご自分で設定したい場合は、音色メニュー画面の「リバーブ」で設定します(79ページ)。ピアノコレクション(93ページ)の内、コンサートグランドからモダンピアノまでの音色の場合は、ピアノルーム画面(25ページ)でも設定できます。

リバーブタイプの設定は、すべてのパート(手弾き/曲/MIDI)に共通です。

NOTE

リバーブのかかり具合を音色ごとに設定したい場合は音色メニュー画面の「音色編集」→「リバーブの深さ」で設定します(79ページ)。

コーラス

音に広がり感を加えます。音色を選ぶたびに、最適なコーラスタイプが自動で選ばれますが、ご自分で選ぶこともできます。

コーラスタイプをご自分で設定したい場合は、音色メニュー画面の「コーラス」で設定します(79ページ)。

コーラスタイプの設定は、すべてのパート(手弾き/曲/MIDI)に共通です。

NOTE

コーラスのかかり具合を音色ごとに設定したい場合は音色メニュー画面の「音色編集」→「コーラスの深さ」で設定します(79ページ)。

NOTE

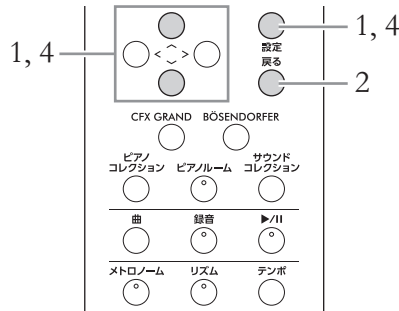
ピアノなどコーラスの初期設定がオフの音色にコーラスをかけたい場合は、コーラスタイプにオフ以外の設定を選び、「コーラスの深さ」(79ページ)を0以外に設定してください。

エフェクト

鍵盤演奏にエコーやトレモロなどの効果をかけられます。効果は音色メニュー画面の「音色編集」→「エフェクト」(79ページ)で選べます。

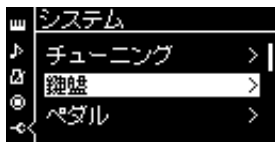
二人で一緒に弾く(デュオ)

鍵盤を左右に分けて、同時に二人が同じ音域で演奏できます。1台の楽器で二人同時に演奏したり、二人並んで座り、一人がお手本を弾き、もう一人がそれを見ながら練習する、といった使い方ができます。

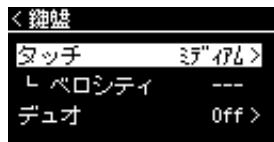


1. [設定]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



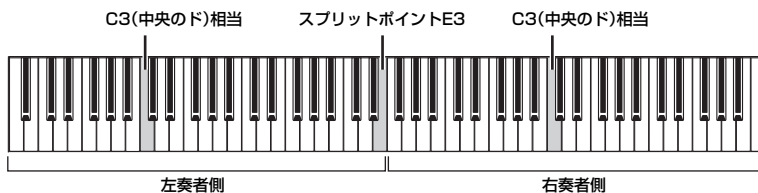
鍵盤画面



- 1-1. [^]/[V]ボタンで「鍵盤」を選択
- 1-2. [>]ボタンで次へ

- 1-3. [^]/[V]ボタンで「デュオ」を選択
- 1-4. [>]ボタンでオンに設定

E3が鍵盤の境目(スプリットポイント)となり、左奏者側と右奏者側に分かります。



ペダルの機能は次のように変わります。

右のペダル	右側領域のダンパーペダル
まん中のペダル	左右領域共通のダンパーペダル
左のペダル	左側領域のダンパーペダル

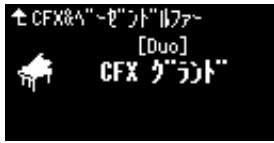
NOTE

デュオをオンにすると、VRM (25ページ)は無効になります。また「デュオ - タイプ」(88ページ)がセパレートの場合は、リバーブ(25ページ)とバイノーラル(88ページ)も無効になります。

NOTE

スプリットポイントに当たる鍵盤は、左側に属します。

2. [戻る]ボタンを押して、元の画面に戻します。



3. 鍵盤を弾いてみましょう。

左側の領域の音は左側から、右側の領域の音は右側から発音します。

4. デュオをオフにするには、手順1と同じ方法で設定します。

[CFX GRAND]、[BÖSENDORFER]、[ピアノルーム]のいずれかのボタンを押してもデュオはオフになります。

NOTE

両奏者の演奏音を両方のスピーカーから自然なバランスで鳴らすこともできます。[設定]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を選び、「鍵盤」→「デュオ - タイプ」(88ページ)で設定します。

メトロノームを使う

この楽器は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。ご利用ください。

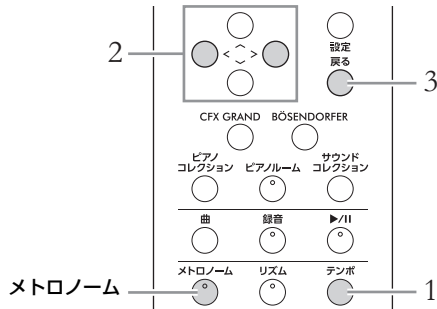
1. [メトロノーム]ボタンを押して、メトロノームを鳴らします。

テンポ画面が表示されます。テンポ画面については、次の「テンポを調節する」をご覧ください。

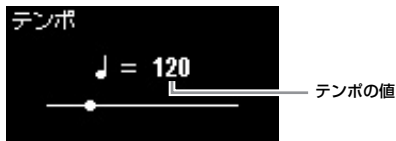
2. メトロノームを止めるときは、もう一度[メトロノーム]ボタンを押します。

テンポ画面を抜けるには、[戻る]ボタンを押してください。

テンポを調節する



1. [テンポ]ボタンを押して、テンポ画面を表示します。



2. [<]/[>]ボタンでテンポを調節します。

[<]と[>]ボタンを同時に押すと、テンポは初期設定に戻ります。

3. [戻る]ボタンを押して、テンポ画面を閉じます。

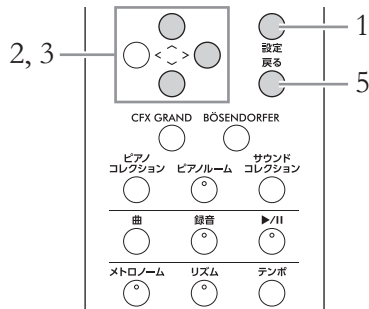
NOTE

拍子の変更方法は、33ページをご覧ください。

NOTE

メトロノームの音量は、メトロノーム/リズムメニュー画面(85ページ)で設定できます。また、BPM (画面上のテンポ表示の基準音価を、メトロノームの拍子設定に連動させるか、拍子設定に関係なく4分音符基準にするか)などもメトロノーム/リズムメニュー画面で設定できます(85ページ)。

メトロノームの拍子を設定する



1. [設定]ボタンを何度か押してメトロノーム/リズムメニュー画面を表示させます。

2. [△]/[▽]ボタンで「拍子」を選び、[>]ボタンを押します。

拍子画面



3. [△]/[▽]ボタンで拍子を選びます。

設定範囲：2/2、1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、6/4、7/4、3/8、6/8、7/8、9/8、12/8

初期設定：4/4 (MIDI曲選択時は、曲による)

テンポ表示と設定範囲

テンポは「音価=テンポ値」(例 ♩=120)の形式で表示されます。拍子を設定すると、音価と設定範囲は以下のように変わります。

音価	拍子	設定範囲
♪ 2分音符	2/2	3~250
♪ 4分音符	1/4, 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, 6/4, 7/4	5~500
♪ 付点4分音符	6/8, 9/8, 12/8	4~332 (設定可能なテンポは2の倍数のみ)
♪ 8分音符	3/8, 7/8	10~998 (設定可能なテンポは2の倍数のみ)と999

* MIDI曲のテンポが楽器で設定できる範囲外の場合、楽器で設定可能な範囲に変更されます。

* メトロノーム/リズムメニュー画面の「BPM」が4分音符に設定されている場合は、拍子の設定に関わらず音価は4分音符で表示されます。

4. メトロノームのベル音をオンにします。

詳細は、メトロノーム/リズムメニュー画面の「ベル」(85ページ)をご覧ください。選んだ拍子に従って、1拍目でチーンと鳴り、それ以外の拍ではカチ、カチと鳴ります。

5. [戻る]ボタンを押して、メトロノーム/リズムメニュー画面を閉じます。

音価

1拍の基準となる音の長さ

メトロノームの詳細設定

メトロノーム/リズムメニュー画面で、メトロノームの音量、BPM (画面上のテンポ表示の基準音価を、メトロノームの拍子設定に連動させるか、拍子設定に関係なく4分音符基準にするか)などを設定できます(85ページ)。

曲を再生する、練習する

この楽器では、内蔵曲や録音した曲を総称して「曲」と呼んでいます。単に再生して楽しむだけでなく、曲を再生しながら演奏の練習ができます。

ミディ MIDI曲とオーディオ曲

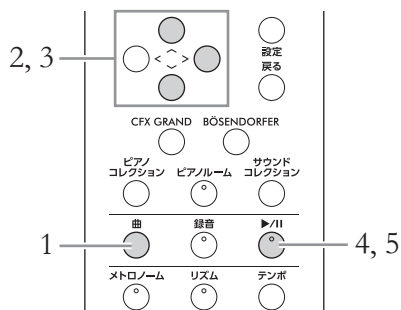
この楽器で再生/録音できる曲には、MIDI曲とオーディオ曲の2種類があります。MIDI曲は、鍵盤を押す/離すといった演奏の動きを記録したデータです。楽譜と同じように、どの鍵盤をどのくらいの強さでどのタイミングで弾いた、といった演奏情報が記録され、音そのものは記録されません。記録された演奏情報にもとづいて、(電子ピアノなどの)音源部が鳴ることではじめて音になります。データ容量が小さく、また、音色の変更などの編集がしやすいのが特長です。オーディオ曲は、演奏した音そのものを記録したデータです。ボイスレコーダーなどに録音するのと同じくみで記録したものです。スマートフォンや携帯音楽プレーヤーなどで再生するのと同じように、WAV形式のデータをこの楽器で再生できます。MIDI曲とオーディオ曲では、使える機能が異なります。

この楽器では、以下の曲が再生できます。

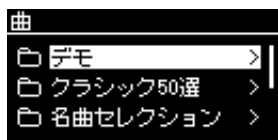
- 楽器に内蔵されている音色のデモ曲
- 楽器に内蔵されている曲(「クラシック50選」、「名曲セレクション」、練習用303曲「レッスン」)
- この楽器での演奏を録音した曲(録音方法については46ページ参照)
- 市販のMIDIデータ：SMF (Standard MIDI File)形式
この楽器で再生可能なMIDIデータのサイズは、1曲につき約500KBまでです。
- 市販のオーディオデータ：WAV形式(拡張子「.wav」)ファイル(サンプリング周波数44.1kHz、量子化ビット数16bit、stereo)
この楽器で再生可能なオーディオデータは、1曲につき80分までです。

音色の特徴がわかるデモ曲を聞く

音色の特徴がわかるデモ曲が内蔵されています。どの音色にデモ曲が用意されているかは、音色一覧(93ページ)をご覧ください。



1. [曲]ボタンを押して、曲カテゴリを表示します。



2. [△]/[▽]ボタンで「デモ」を選び、[>]ボタンを押します。
3. [△]/[▽]ボタンで再生したい音色デモを選び、[>]ボタンを押してデモ画面を表示します。

現在選ばれている音色デモの名前が表示されています。

デモ画面



4. [▶/||](スタート/一時停止)ボタンを押して、再生をスタートします。
5. もう一度[▶/||](スタート/一時停止)ボタンを押して、再生をストップします。

1曲の再生が終了した場合は、自動的にストップします。

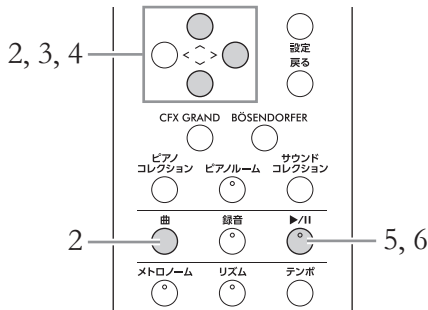
他のデモ曲を選ぶ

[△]ボタンを押して、リストに戻り、手順3~4を繰り返します。

NOTE

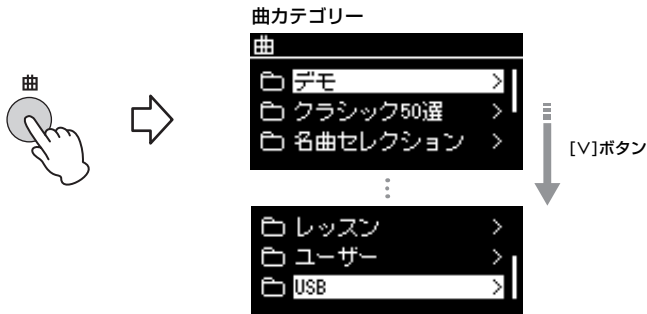
音色デモの再生中、録音操作はできません。

曲を再生する



1. USBフラッシュメモリーに入っている曲を再生したいときは、
USBフラッシュメモリーを楽器のUSB [TO DEVICE] 端子に
接続しておきます。
2. [曲]ボタンを押すと曲カテゴリーが表示されますので、[△]/[▽]
ボタンで目的のカテゴリー/フォルダーを選びます。

下記のカテゴリーの説明を参考に、「クラシック50選」、「名曲セレクション」、「レッスン」、「ユーザー」、「USB」のいずれかから選びます。



デモ	音色の特徴がわかるデモ曲です。再生の方法は35ページをご覧ください。曲名は95ページの「音色デモ曲」をご覧ください。
クラシック50選	内蔵のピアノ曲50曲です。曲名や作曲者名は、「曲一覧」(95ページ)でご確認いただけます。付属の「クラシック名曲50選」に楽譜が掲載されていますので、ご活用ください。
名曲セレクション	内蔵のピアノ曲50曲です。詳しくは96ページをご覧ください。
レッスン	内蔵の練習曲です。チェルニーやハノンなど、ピアノ練習に適した曲が303曲入っています。96ページに一覧があります。練習曲は曲集によっていくつかのフォルダーに分けられています。
ユーザー	この楽器で録音(46ページ)し、楽器本体に保存されているMIDI曲と、USBフラッシュメモリーから楽器本体へコピー/移動したMIDI曲です(57ページ)。
USB	この楽器での演奏をUSBフラッシュメモリーに録音したMIDI曲/オーディオ曲や、録音したMIDI曲をオーディオ曲に変換(60ページ)したもの、またUSBフラッシュメモリーに保存した市販のMIDI曲/オーディオ曲です。

NOTE

USBフラッシュメモリーを接続したとき、USBフラッシュメモリーのルートにある(フォルダーに入っていない)曲を自動で呼び出す機能「USB自動ロード」があります。設定方法については、90ページをご覧ください。

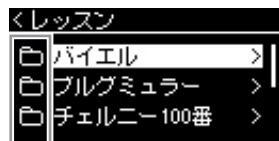
NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する(USB [TO DEVICE]端子)」(64ページ)をお読みください。

3. [>]ボタンを押して決定すると、カテゴリーの中の曲が表示されますので、[△]/[▽]ボタンで聞きたい曲を選びます。

「ユーザー」または「USB」カテゴリーを選んだ場合、曲名の左端には、曲の種類を示すアイコンが表示されます。

曲リスト



アイコン

アイコン	形式
	フォルダー
	MIDI曲
	オーディオ曲

練習曲はさらにフォルダーごとに分けられています。フォルダーを選んで[>]ボタンを押してから、曲を選んでください。

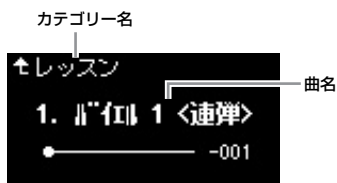
USBフラッシュメモリーに録音した曲を選ぶ

この楽器の演奏をUSBフラッシュメモリーに録音した場合、曲はUSBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーに保存されます。「USER FILES」フォルダー内の曲を選びたい場合は、手順2で「USB」を選び、手順3で「USER FILES」フォルダーを選びます。

4. [>]ボタン押して決定します。

曲画面が表示され、現在選ばれている曲名と、その曲が入っているカテゴリー名が表示されます。

曲画面：MIDI曲の場合



曲画面：オーディオ曲の場合



5. [▶/||] (スタート/一時停止) ボタンを押して、再生をスタートします。

再生位置が表示されます。

曲画面：MIDI曲の場合



再生位置

曲画面：オーディオ曲の場合



再生位置

再生しながらご自身で鍵盤を弾くこともできます。その際、手弾き音の音色も変わります。

手弾き音とMIDI曲再生音の音量バランスを調節したいときは、曲メニュー画面の「音量」項目で調節してください(43ページ)。

NOTE

カテゴリー/フォルダーのリストに戻るには、[<]ボタンを押します。

NOTE

フォルダーの中にデータが存在しない場合は「曲なし」と表示されません。

USBフラッシュメモリー内の曲が読み込めない場合

曲名に使用できない文字が含まれている場合は、曲名を変更してください。使用できる文字一覧については、90ページをご覧ください。

NOTE

曲リストに戻るには、[△]ボタンを押します。

NOTE

曲名が長くて画面に表示されない場合は、[▽]ボタンを押すと、曲名を最後まで確認できます。

NOTE

テンポは、自動的にその曲特有のテンポにセットされます。「メトロノームを使う」(32ページ)での設定は無効になります。

NOTE

再生に便利な機能を39～44ページで紹介しています。ご覧ください。

6. もう一度[▶/||] (スタート/一時停止) ボタンを押して、再生をストップします。

[▶/||] ボタンを押さない場合にも、1曲の再生が終了すると、自動的にストップします。

早戻し/早送り/曲の先頭に戻す

1. 曲画面の表示中に[<]/[>] ボタンを押して、小節番号もしくは経過時間の早戻し/早送りをします。

曲画面：MIDI曲の場合



小節番号

曲画面：オーディオ曲の場合



経過時間

ボタンを長く押すと値が連続して変わります。

曲の先頭に戻す

[<]と[>] ボタンを同時に押すと、曲の先頭に戻ります。

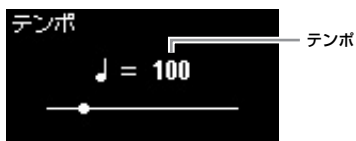
テンポの調節

曲の再生速度を変えられます。

1. [テンポ] ボタンを押してテンポ画面を表示します。

曲の再生中または曲画面表示中に[テンポ] ボタンを押してください。

MIDI曲の場合



オーディオ曲の場合



NOTE

オーディオ曲のテンポを変更した場合、曲によっては音質が変わることがあります。

NOTE

拍子によっては、設定できる数値が2の倍数のみになります。詳しくは33ページをご覧ください。

2. [<]/[>] ボタンを押して、テンポを変更します。

[<]と[>] ボタンを同時に押すと、元のテンポ(その曲固有のテンポ)に戻ります。

テンポの設定範囲は、選ばれている曲の拍子によって異なります。

MIDI曲の場合

テンポの設定範囲は、選ばれている曲の拍子によって異なります。

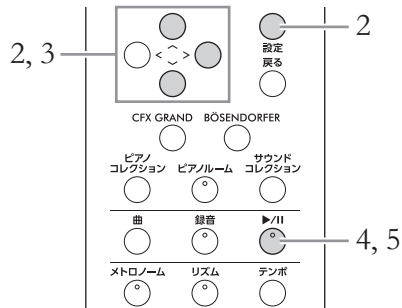
オーディオ曲の場合

設定範囲は75%~125%です。100%が曲固有のテンポです。値が大きいくほど再生速度が速くなります。

3. 設定が終わったら[戻る] ボタンを押してテンポ画面を抜けます。

右手または左手パートだけを再生する(MIDI曲)

内蔵曲などのMIDI曲には、データが右手パートと左手パートに分かれているものがあります。このような曲データの場合、右手パートだけをオンにして左手の練習を、左手パートだけをオンにして右手の練習ができます。



1. 練習する曲を選びます。

選びかたは、36ページを参照してください。内蔵の「クラシック50選」、「名曲セレクション」もしくは「レッスン」カテゴリーから選ぶのがおすすめです。

2. 練習したいパートを選んで再生をオフにします。

[設定]ボタンを何度か押して曲メニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

L/R画面では、再生をオフにしたい(練習したい)パート(トラック)を選びます。右手練習したい場合は「R」、左手練習したい場合は「L」を選びます。

曲メニュー画面



L/R画面



2-1. [^]/[V]ボタンで「L/R」を選択

2-2. [>]ボタンで次へ

2-3. [^]/[V]ボタンでトラックを選択

3. [>]ボタンを使って、選んだパートを「オフ」に設定します。

4. [▶/||](スタート/一時停止)ボタンを押して、再生をスタートします。

再生をオフにしたパートをご自分で弾いて練習します。

5. もう一度[▶/||](スタート/一時停止)ボタンを押して、再生をストップします。

[▶/||]ボタンを押さない場合にも、1曲の再生が終了すると、自動的にストップします。

NOTE

再生中にも、パートごとの再生オン/オフは切り替えられます。

NOTE

通常、「R」にチャンネル1、「L」にチャンネル2、「その他」にチャンネル3～16が割り当てられています。曲によっては異なる場合があります。「その他」のチャンネルは、チャンネルごとにオン/オフを設定できません。

NOTE

内蔵の「クラシック50選」、「レッスン」カテゴリーの一部の曲は連弾曲です。これらの連弾曲のパートの割り当てについては96ページをご覧ください。

NOTE

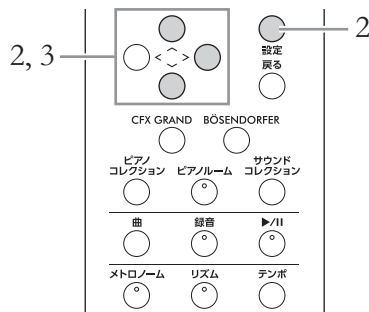
別のMIDI曲を選ぶと、両パートとも再生オンに自動的にリセットされます。

繰り返し再生する

繰り返しの項目は下記のとおり3つあります。難しいフレーズを繰り返して練習するときなどに便利です。MIDI曲の場合、「右手または左手パートだけを再生する」の機能とあわせて使うこともできます。

- **ABリピート**..... 1曲内のある範囲を指定して繰り返し再生します。
- **フレーズリピート**..... 1曲内のフレーズを繰り返し再生します。
- **曲リピート**..... 1曲または全曲を順番/順不同(ランダム)に連続再生します。

ここではABリピートと曲リピートの設定方法を説明します。フレーズリピートの詳細については詳細設定編の82ページをご覧ください。



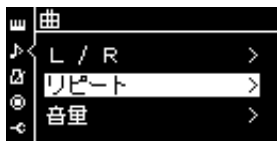
1. 再生する曲を選びます。

選びかたは、36ページを参照してください。

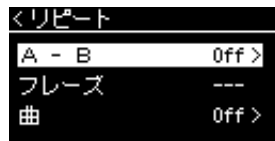
2. リピート画面を表示させます。

[設定]ボタンを何度か押して曲メニュー画面を表示させ、「リピート」を選んで[>]ボタンを押します。

曲メニュー画面



リピート画面



3. リピート画面で設定したい項目を[▲]/[▼]ボタンを使って選び、[>]ボタンを押します。

ABリピートを設定したい場合は「A - B」、曲リピートを設定したい場合は「曲」を選びます。

4. 設定画面で、設定をします。

- **ABリピート**..... 41ページをご覧ください。
- **曲リピート**..... 42ページをご覧ください。

ABリピートの設定

繰り返しの範囲を指定します。

4-1. [▶/||] (スタート/一時停止) ボタンを押して、曲の再生をスタートします。

4-2. 繰り返し再生の開始位置(A点)にしたいところで、[>] ボタンを押します。

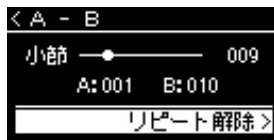
A - B画面



4-3. 繰り返し再生の終了位置(B点)にしたいところで、もう一度 [>] ボタンを押します。

カウント音が入ったあと、A点からB点までが繰り返し再生されます。

5. 繰り返し再生をやめたい場合は、画面の「リピート解除」が反転表示している状態で [>] ボタンを押すか、別の曲を選びます。



曲の先頭をA点にする

A点を指定してから曲の再生をスタートし、そのあとB点を指定します。

曲の最後をB点にする

A点だけを指定して、曲の最後まで再生します。曲の最後が自動的にB点になります。

NOTE

繰り返し範囲の設定は、以下の方法でも設定できます。

- 1 [^] ボタンを押して「小節番号」を反転表示させ、[<]/[>] ボタンを使って小節番号を増減します。
- 2 [V] ボタンを押して「A点設定」を反転表示させ、[>] ボタンを押します。
A点が設定され、B点を設定する画面になります。
- 3 同様の操作でB点も設定します。

曲リピートの設定

4-1. [△]/[▽]ボタンを使って、再生方法を下記から選びます。

設定画面






- オフ
連続再生しません。
- 1曲
現在選ばれている曲を繰り返し再生します。
- 全て
現在選ばれている曲のフォルダー内の全曲を順番に連続再生します。
- ランダム
現在選ばれている曲のフォルダー内の全曲をランダム(順不同)に連続再生します。

4-2. [▶/⏏](スタート/一時停止)ボタンを押して、繰り返し再生をスタートします。

リピートの設定は、曲画面のアイコンで確認できます。



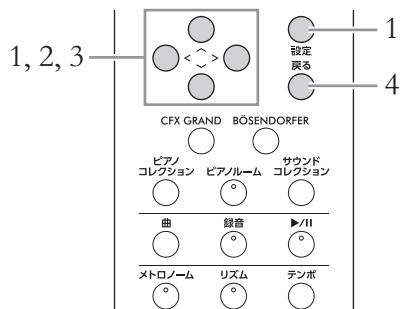
繰り返し中は、曲画面を表示すると画面右上に  (1曲)、 (全て)、 (ランダム)が表示されます。

5. 繰り返し再生をやめたい場合は、もう一度[▶/⏏](スタート/一時停止)ボタンを押して曲をストップさせてから、手順4-1の設定を「オフ」にします。

音量バランスを調節する

MIDI オーディオ

再生音と手弾き音の音量バランス、曲の右手/左手パートの音量バランスが調節できます。



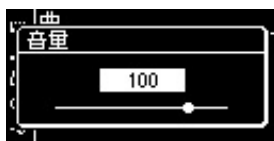
あらかじめ音量調節をしたい曲を選んでおきます(36ページ)。

1. [設定]ボタンを何度か押して曲メニュー画面を表示させ、[△]/[▽]ボタンで「音量」を選び、[>]ボタンを押します。

(MIDI曲選択時)
曲メニュー画面



(オーディオ曲選択時)
曲メニュー画面



2. (MIDI曲を選んでいる場合)
「曲 - 鍵盤」または「曲 L - R」を[△]/[▽]ボタンで選んで[>]ボタンを押し、設定画面を表示させます。

(オーディオ曲を選んでいる場合)

オーディオ再生音量を[<]/[>]ボタンで調節します。調節が終わったら手順4へ進んでください。

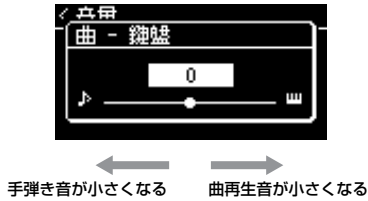
曲 - 鍵盤	MIDI曲再生音と手弾き音の音量バランスを調節します。
曲 L - R	MIDI曲の右手パート/左手パートの音量バランスを調節します。

NOTE

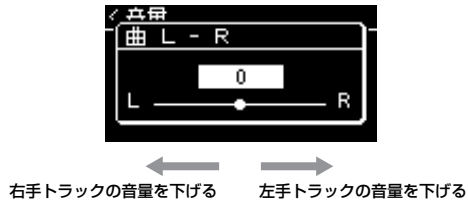
市販のミュージックデータの中には、非常に大音量のデータがあります。そのようなデータ(MIDI曲)を使用する場合、「曲 - 鍵盤」を調節してください。

3. [<]/[>]ボタンで設定します。

曲 - 鍵盤を選んだ場合



曲 L - Rを選んだ場合



4. [戻る]ボタンを2回押して、曲メニュー画面を抜けます。

別のMIDI曲を選ぶと、「曲 L - R」の設定は初期設定に戻りますが、「曲 - 鍵盤」と「オーディオ音量」の設定はそのままです。

NOTE

「曲 - 鍵盤」は、電源をオフにしても設定が記憶(バックアップ)されません。誤って音量を最小にすると、鍵盤や曲の音が鳴らなくなりますのでご注意ください。設定を記憶するか、またはしないかを変更できます。詳しくは91ページの「バックアップ設定」をご覧ください。

再生に関するその他の機能

ペダルで再生/一時停止する

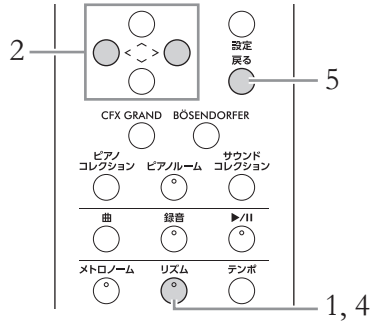
システムメニューでペダルの機能を変更すると、ペダルを使って再生/一時停止を操作できます。[設定]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示し、「ペダル」→「再生/一時停止」(88ページ)で、まん中か左のペダルの機能を、再生/一時停止(パネルの[▶/■])(スタート/一時停止)ボタンと同じ機能)に切り替えることができます。鍵盤を弾きながら、曲を再生/一時停止したいときに便利です。

曲を移調する

曲は全体を半音単位で移調して再生できます。[設定]ボタンを何度か押して曲メニュー画面を表示し、「移調」(82ページ)で設定を変更できます。

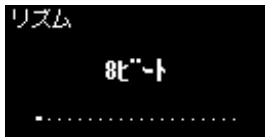
リズムに合わせて弾く

この楽器には、様々なリズムが内蔵されています。リズムに合わせて楽しく演奏ができます。なお、内蔵のリズムは打楽器音とベース音で構成されています。



1. [リズム]ボタンを押して、リズム再生をスタートさせます。

イントロが鳴り、リズム再生がスタートします。



2. [</>]/[>]ボタンを使って、使いたいリズムを選びます。

リズムの種類については、リズム一覧(97ページ)をご参照ください。

3. リズムに合わせて演奏しましょう。

演奏するだけで、楽器がその音を認識して、演奏に合ったベース音が鳴ります。ベース音を鳴らしたくないときは、オフに設定します。[設定]ボタンを何度か押してメトロノーム/リズムメニュー画面を表示し、「ベース」で設定します。詳しくは85ページをご覧ください。

4. リズムを止めたいときは、[リズム]ボタンを押します。

エンディングが鳴ったあと、リズムはストップします。

5. [戻る]ボタンでリズム画面を閉じます。

リズムのテンポ

- リズムのテンポは、メトロノームで設定したテンポと同じになります(32ページ)。
- リズムのテンポ設定後にMIDI曲を選ぶと、リズムのテンポ設定はキャンセルされ、選択した曲固有のテンポに切り替わります。

リズムの詳細設定

メトロノーム/リズムメニュー画面(85ページ)で、リズムの音量を設定したり、鍵盤を弾くと同時にリズムをスタートさせるなどの設定ができます。

NOTE

曲の再生中および録音中、リズム画面は表示されません。

イントロ/エンディングのオン/オフを設定するには

演奏を盛り上げるため、リズムの始まりと終わりには、イントロ/エンディングが流れます。イントロ/エンディングを鳴らす(オン)/鳴らさない(オフ)の設定は、メトロノーム/リズムメニュー画面(85ページ)の「イントロ」、「エンディング」の項目で設定できます。

NOTE

- 曲のアレンジによっては、演奏に合ったベース音が鳴らない場合があります。
- 9th、11th、13thのコードは認識されません。
- コードの押さえ方は、市販のコード表などをご参照ください。

演奏を録音する

この楽器では、下記2通りの方式で録音できます。用途に合った方式で演奏を録音してみましょう。

• ^{ミディ}MIDI録音 **MIDI**

録音した演奏をSMF(フォーマット0)のMIDI曲として、楽器本体またはUSBフラッシュメモリーに保存します。オーディオ曲よりデータ容量が小さく、編集しやすいのが特長です。トラックごとに録音したり、録音後に部分的に録音し直したりできます。MIDI録音で作られた曲は、あとでオーディオファイルに変換(60ページ)できるので、難しい曲をオーディオ録音したい場合などは、まずMIDI録音でパートごとに録音すると便利です。この楽器で録音できるMIDIデータのサイズは、1曲につき約500KBまでです。

• オーディオ録音 **オーディオ**

演奏をオーディオ曲としてUSBフラッシュメモリーに保存します。初期設定では、一般的なCD音質(44.1kHz/16bit)のステレオWAV形式で保存され、コンピューターを使って携帯音楽プレーヤーなどに転送して再生できます。外部機器からのオーディオ入力音*も録音されるので、オーディオ機器やパソコン、スマートフォンなどの再生音も録音できます。この楽器で録音できる時間は、1曲につき80分までです。

MIDI曲とオーディオ曲の違いについては、34ページで詳しく説明しています。

*オーディオ入力音

コンピューターやスマートデバイスなどの外部機器を[AUX IN]端子、USB [TO HOST]端子、無線LAN、Bluetooth (SCLP-7450のみ)で楽器と接続したときに、外部機器から楽器に送られるオーディオデータのことです。外部機器との接続方法は、62ページからの「他の機器と接続する」をご覧ください。

録音の方法

3通りの録音方法があります。録音したデータはMIDI曲になります。

• 簡単にMIDI録音する **MIDI** 47ページ

ピアノ曲の演奏などを、楽器本体に手軽に録音します。録音したデータは楽器本体の「ユーザー」カテゴリー内に保存されます。

• トラックを指定してMIDI録音する **MIDI** 49ページ

左手/右手パートを別々に録音したり(右手パートを再生させながら左手パートを録音できます)、アンサンブルの曲を1パートずつ録音したりできます。

• USBフラッシュメモリーにMIDI録音する **MIDI** 51ページ

空の曲ファイルに録音してUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーにある録音済みのMIDI曲に追加録音したりできます。

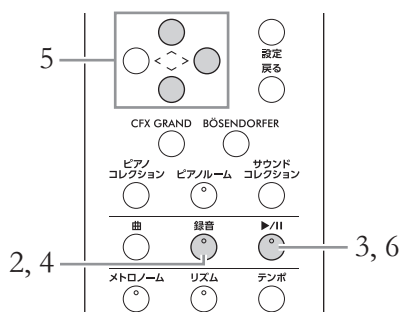
• USBフラッシュメモリーにオーディオ録音する **オーディオ** 52ページ

オーディオ録音して、USBフラッシュメモリーに保存します。

簡単にMIDI録音する

MIDI

最も簡単な録音方法です。



1. 録音に使う音色や、拍子などの設定を選びます。

録音に使う音色を選びます(23ページ)。デュオを使う場合はここでオンにします。必要に応じてメトロノーム/リズムの拍子とテンポ(32ページ)、エフェクトもここで選んでください。

2. [録音]ボタンを押して、録音モードに入ります。

録音のための空の曲ファイルが用意され、録音画面が表示されます。

録音画面

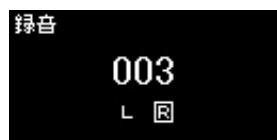


[▶/||](スタート/一時停止)ボタンがテンポに合わせて点滅します。
録音モードから抜けたいときはもう一度[録音]ボタンを押します。

3. 鍵盤を弾くと同時に録音がスタートしますので、演奏します。

曲の始めに空白の小節を録音したいときは、[▶/||](スタート/一時停止)ボタンを押して録音をスタートさせます。

録音画面(録音中)



4. 演奏が終わったら、[録音]ボタンを押して、録音を終了します。

録音モードを抜け、曲を保存するための画面が表示されます。

NOTE

右手を録音したあと左手を録音して1曲に仕上げたい場合は、「トラックを指定してMIDI録音する」(49ページ)をご覧ください。

メトロノーム/リズムを使う

メトロノーム/リズムを鳴らしながら録音することもできます。ただし、メトロノームの音は録音されません。またリズム再生は、録音モードに入ったあとに行なってください。リズム再生中に録音モードに入ると、リズムが停止してしまいます。

NOTE

音量バランス「曲 - 鍵盤」(43ページ)は記録(録音)されません。

NOTE

MIDI録音の場合、自動的に右手パート(トラック1)が指定されますが、デュオ/リズムを使った録音では、指定されたトラックと実際に録音されるトラックが異なります。詳しくは「トラックの割り当て」(49ページ)をご覧ください。

モードとは

ある機能を実行できる状態を意味します。ここでは、録音できる状態のことを「録音モード」と呼んでいます。

NOTE

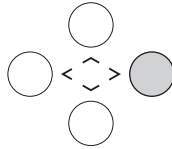
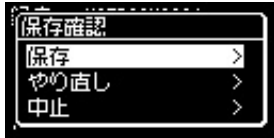
[録音]ボタンを長めに押すと、録音のための曲を選ぶリストが表示されます。この画面が表示された場合は、51ページの表をご参照のうえ、「新しい曲」を選んで[>]ボタンを押してください。

NOTE

リズムが選択されている状態で[リズム]ボタンを押して、リズム再生と同時に録音をスタートさせることもできます。

5. 録音した演奏を保存したい場合は、確認画面で「保存」が選ばれている状態で、[>]ボタンを押して決定します。

保存が終わると「保存が完了しました」のメッセージが表示され、曲画面に戻ります。新しい曲の場合は自動的に「USERSONGxxx」(xxxは数字)という名前が付けられ、楽器本体の「ユーザー」カテゴリーの中に保存されます。



- 録音をやり直したい場合は[∧]/[V]ボタンで「やり直し」を選び、[>]ボタンを押します。手順3から再スタートできます。
- 保存したくない場合は「中止」を選び、[>]ボタンを押します。

6. [▶/||] (スタート/一時停止) ボタンを押して、録音した演奏を聞いてみましょう。

MIDI録音で記録されるデータの種類

パートごとに録音されるデータ

- ノートデータ(弾いた音)
- 音色選択
- ペダル操作(ダンパー、ソフト、ソステヌート)
- リバーブのかかり具合「リバーブデプス」
- コーラスのかかり具合「コーラスデプス」
- エフェクトのかかり具合「エフェクトデプス」
- 音の明るさ「ブライトネス」
- レゾナンス効果の設定「ハーモニックコンテンツ」
- 音色のオクターブ設定
- 音色ごとの音量の設定
- 音色ごとの左右の音の位置の設定「パン」
- 音色ごとのタッチに対する音量変化度合の設定「タッチセンス」
- グランド・エクスプレッション・モデリングに関連するデータ

全パートで共通に録音されるデータ

- 音律
- テンポ
- 拍子
- リバーブタイプ
- コーラスタイプ
- エフェクトタイプ

注記

録音したMIDI曲を保存せずに曲を切り替えたり電源を切ったりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

曲名を変更する

録音した曲は自動的に名前が付けられますが、ご自分で名前を付け直すことができます(61ページ)。

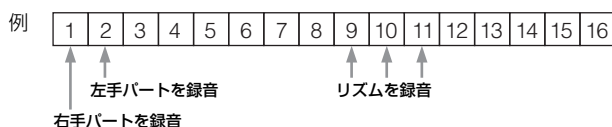
NOTE

ノートデータ、ペダル操作、オクターブ設定、および拍子は、録音後に変更できません。

トラックを指定してMIDI録音する

MIDI

MIDI録音では、全部で16トラックで構成される曲を、1トラックずつ録音して作り上げることができます。たとえば、ピアノ曲の場合、右手部分をトラック1に録音したあと、左手部分をトラック2に録音すれば、両手で弾くのが難しいピアノ曲を録音することができます。また、リズム(打楽器音のみ)を先に録音しておき、あとでリズムを聞きながらトラック1にメロディーを録音する、ということができます。このように、1回で演奏するのが難しい曲でも、パート別に重ねて録音をすることによって、1つの曲に仕上げることができます。



本体に録音済みの曲に追加録音したい場合:

追加録音したい曲を選びます(36ページ 手順1~4)。「録音」ボタンを1秒以上押しと、録音のための曲を選ぶリストが表示されます。追加録音したい曲を選んで[>]ボタン押してから、手順2へ進んでください。

1. 「簡単にMIDI録音する」(47ページ)の手順1~2と同じ方法で、録音の準備をします。

2. [<]/[>]ボタンで録音トラックを指定します。

- 右手部分を録音したいときは「R」を選びます。
- 左手部分を録音したいときは「L」を選びます。
- トラック3~16のいずれかを指定したいときは[<]/[>]ボタンを何度か押してトラック(Extra 3~16)を指定します。最初にリズムを録音した場合は、トラック9~11のいずれか、またはすべてにリズムが録音されていますので、それ以外のトラックを指定します。



トラックのデータの有無：

- :データあり
- :データなし

3. 鍵盤を弾くと同時に録音がスタートしますので、演奏します。

リズムを最初に録音する場合は、「[リズム]」ボタンを押して録音をスタートさせます。曲の始めに空白の小節を録音したいときは、「[▶/■]」(スタート/一時停止)ボタンを押して録音をスタートさせます。

4. 演奏が終わったら、「録音」ボタンを押して、録音を終了します。

録音モードを抜け、曲を保存するための画面が表示されます。

NOTE

USBフラッシュメモリーに録音したい場合や、USBフラッシュメモリー上の曲に追加録音したい場合は、「[USBフラッシュメモリーに録音する」(51ページ)をご覧ください。

NOTE

リズムは後から追加録音できません。リズムを録音したい場合は、最初に録音してください。

NOTE

リズムのベース音は、いずれかの鍵盤を弾かないと鳴らないため、ベース音を録音したい場合は、必ず鍵盤を弾きながら録音してください。

NOTE

RとLに別々の曲を録音すると、一緒に再生されてしまいます。別々の曲を録音する場合は、改めて新規録音してください。

トラックの割り当て

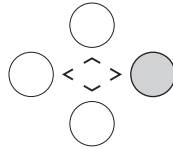
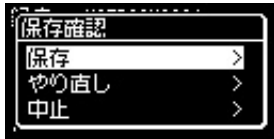
- リズムを録音するときは、トラックを指定できません。トラック9~11に録音されます。
- デュオ時の録音では、指定したトラックに入るのは右手部分のみです。左手部分は、指定したトラックに3を足した番号のトラックに入ります。16を超えた場合は折り返して数えます。

注記

データがあるトラックに録音すると、元のデータは上書きされてしまいますので、ご注意ください。

5. 録音した演奏を保存したい場合は、確認画面で「保存」が選ばれている状態で、[>]ボタンを押します。

保存が終わると「保存が完了しました」のメッセージが表示され、曲画面に戻ります。新しい曲の場合は自動的に「USERSONGxxx」(xxxは数字)という名前が付けられ、楽器本体の「ユーザー」カテゴリの中に保存されます。



- 録音をやり直したい場合は「やり直し」を選び、[>]ボタンを押します。手順3から再スタートできます。
- 保存したくない場合は「中止」を選び、[>]ボタンを押します。

6. [▶/|||](スタート/一時停止)ボタンを押して、録音した演奏を聞いてみましょう。

7. 追加録音のためにもう一度録音モードに入ります。

7-1. [録音]ボタンを1秒以上押します。

録音対象の曲がリスト表示されます。





7-2. [V]ボタンを押して、手順5で保存した曲(一番下に表示)を選び、[>]ボタンを押します。

トラックに録音済みのデータがあるかどうかは、トラック名の右上に表示されるマークで確認できます。

トラックのデータの有無：



 : データあり

 : データなし

8. 手順2~6の方法で、別の空トラックに演奏を追加で録音していきましょう。

手順2では録音していないトラックを選び、手順3では録音済みのトラックを聞きながら演奏しましょう。

注記

録音したMIDI曲を保存せずに曲を切り替えたり電源を切ったりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

曲名を変更する

録音した曲は自動的に名前が付けられますが、ご自分で名前を付け直すことができます(61ページ)。

NOTE

早送り、早戻し、曲の先頭に戻す方法は38ページをご覧ください。

注記

データがあるトラックに録音すると、元のデータは上書きされてしまいますので、ご注意ください。

NOTE

曲を削除する方法は59ページをご覧ください。トラックごとに削除する方法は、83ページの「トラック削除」をご覧ください。

USBフラッシュメモリーにMIDI録音する

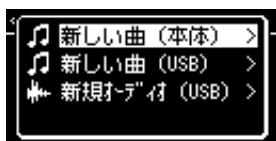
MIDI

空の曲ファイルに録音してUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーにある録音済みの曲に追加録音する方法です。

1. USBフラッシュメモリーを楽器のUSB ^{トウー デバイス} [TO DEVICE]端子に接続します。

2. 録音のための曲を選び、録音モードに入ります。

- 2-1. 録音済みの曲に追加録音したい場合は、録音済みのMIDI曲をUSBフラッシュメモリーから選びます(36ページの手順1~4)。空の曲ファイルに録音したい場合にはこの操作は不要です。
- 2-2. [録音]ボタンを1秒以上押し、録音のための曲を選ぶリストを表示させます。



- 2-3. 録音のための曲として、「新しい曲 (USB)」か、手順2-1で選んだ「xxxxxx」(リストの一番下)を[△]/[▽]ボタンで選び、[>]ボタンを押します。

録音モードに入ります。

録音のための曲	説明
新しい曲(本体)	演奏データを、本体内部に新規MIDI曲として保存する場合に選びます。
新しい曲(USB)*	演奏データを、USBフラッシュメモリーに新規MIDI曲として保存する場合に選びます。
新規オーディオ(USB)*	演奏データを、USBフラッシュメモリーに新規オーディオ曲として保存する場合に選びます。
xxxxxx (手順2-1で選んだ曲の名前)**	録音済みのMIDI曲に追加録音/上書き録音する場合に選びます。

* USBフラッシュメモリー接続時のみ選べます。

** 手順2-1で曲を選んでいない場合や、内蔵曲を選んでいた場合は表示されません。

3. 録音して保存します。

録音済みの曲に追加録音したい場合/空の曲ファイルにトラック指定をして録音したい場合：

このあとの手順は、「トラックを指定してMIDI録音する」(49ページ)の手順2~8とまったく同様です。

空の曲ファイルに簡単録音したい場合：

このあとの手順は、「簡単にMIDI録音する」(47ページ)の手順3~6とまったく同様です。

NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(64ページ)をお読みください。

NOTE

録音前に、USBフラッシュメモリーの空き容量を確認しておきましょう。
システムメニュー画面：「ユーザーリテリ」→「USBプロパティ」(89ページ)

注記

既存の曲を選んで、データがあるトラックに録音すると、元のデータは上書きされてしまいますので、ご注意ください。

NOTE

既存の曲に上書き/追加録音する場合は、選んだ曲の拍子とテンポに自動で設定されます。

USBフラッシュメモリーにオーディオ録音する

オーディオ

ここではオーディオ録音の方法を説明します。オーディオファイルはUSBフラッシュメモリーにしか保存できませんので、録音を始める前にUSBフラッシュメモリーを準備してください。

1. USBフラッシュメモリーを楽器のUSB ^{トゥー デバイス} [TO DEVICE]端子に接続します。
2. [録音]ボタンを1秒以上押して、録音のための曲を選ぶリストを表示させます。
3. [^]/[v]ボタンで「新規オーディオ(USB)」を選び、[>]ボタンを押します。
4. このあとの手順は、「簡単にMIDI録音する」(47ページ)の手順3~6とまったく同様です。

録音画面には、録音の経過時間が表示されます。



NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(64ページ)をお読みください。

NOTE

録音前に、USBフラッシュメモリーの空き容量を確認しておきましょう。

システムメニュー画面：「ユーティリティ」→「USBプロパティ」(89ページ)

NOTE

オーディオ形式での録音の場合、音色パートの音量(79ページ)が初期設定よりも大きいと、音がひずむことがあります。音色パートの音量を変更してある場合は、録音をスタートする前に初期設定の値以下にしてください。

NOTE

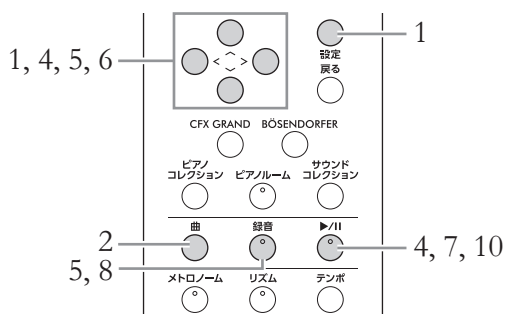
オーディオ録音の場合、[AUX IN]端子など外部からの入力音も録音されます。

そのほかの録音方法とテクニック

部分的に録音し直す

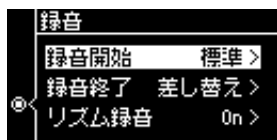
MIDI

MIDI曲は部分的に録音し直すことができます。ご自分で録音した曲の編集などにお使いください。



1. 録音開始/終了方法を選びます。

1-1. [設定] ボタンを何度か押して録音メニュー画面を表示させます。



1-2. [∧]/[V] ボタンを押して、「録音開始」(録音開始方法)を選び、[>] ボタンで設定を選びます。

- 標準
録音開始以降のデータを消します。
- 押鍵
録音開始しても最初に鍵盤を弾くまでのデータは消しません。

1-3. [∧]/[V] ボタンで「録音終了」(録音終了方法)を選び、[>] ボタンで設定を選びます。

- 差し替え
録音終了以降にあった元のデータを消します。
- パンチアウト
録音終了以降にある元のデータは消しません。

2. [曲] ボタンを押して、曲リストを表示させます。

3. 録音し直すMIDI曲を選びます。

選びかたは、36ページを参照してください。

4. 録音開始をしたい場所を指定します。

[<]/[>]ボタンを押して再生位置を移動するか、[▶/■](スタート/一時停止)ボタンを押して演奏を再生して、録音し直したい場所の手前でもう一度[▶/■]ボタンを押します。

必要に応じて、変更したい内容(音色やそのほかの設定)を選び直します。

先に録音したときと設定を変えたい場合に行なってください。

5. [録音]ボタンを1秒以上押したあと、手順3で選んだ曲を選び、[>]ボタンを押します。

6. [<]/[>]ボタンで書き換えをしたいトラックを選びます。

7. 演奏を始める、または[▶/■](スタート/一時停止)ボタンを押して、録音を開始します。

8. [録音]ボタンを押して、録音を終了します。

9. 50ページの手順5に従って、録音した演奏を上書き保存します。

10. [▶/■](スタート/一時停止)ボタンを押して、録音した演奏を再生します。

NOTE

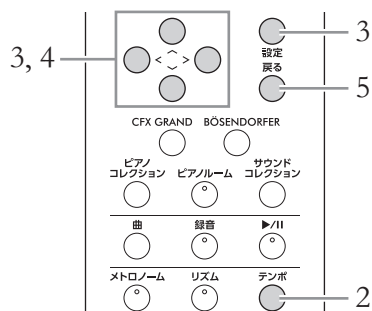
部分的に録音し直す場合、拍子は変更できません。

録音後に音色やテンポなどを変更する

MIDI

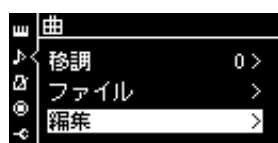
MIDI曲は、録音を終えたあとでも、演奏データの設定を変更できます。たとえば、録音したあとで音色を変更して違った雰囲気曲にしたり、適切なテンポに調節したりできます。曲の途中からの変更もできます。

テンポの変更



1. **変更する曲を選びます。**
 選びかたは、36ページを参照してください。
2. **[テンポ]ボタンを押してテンポ画面を表示させ、テンポを設定します。**
 設定方法は32ページをご覧ください。
3. **[設定]ボタンを何度か押して曲メニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。**

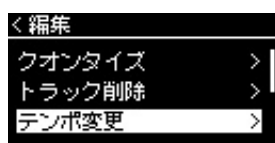
曲メニュー画面



3-1. [^]/[V]ボタンで「編集」を選択

3-2. [>]ボタンで次へ

編集画面



3-3. [^]/[V]ボタンで「テンポ変更」を選択

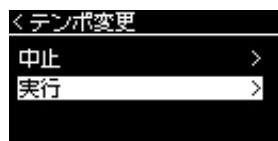
3-4. [>]ボタンで次へ

テンポ変更画面



4. **選んだテンポで上書きします。**

[V]ボタンを押して画面の「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押します。



変更が完了すると、「操作を完了しました」と表示され、数秒後にテンポ変更画面に戻ります。

5. [戻る]ボタンを押して曲メニュー画面から抜けます。

音色の変更

1. 変更する曲を選びます。

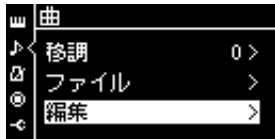
選びかたは、36ページを参照してください。

2. 変更したい音色を選びます。

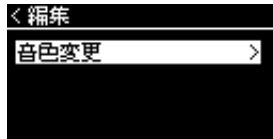
選びかたは、23ページを参照してください。

3. [設定]ボタンを何度か押して曲メニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

曲メニュー画面



編集画面



音色変更画面



3-1. [上]/[下]ボタンで「編集」を選択

3-2. [右]ボタンで次へ

3-3. [上]/[下]ボタンで「音色変更」を選択

3-4. [右]ボタンで次へ

4. [右]ボタンを押すと設定画面が表示されますので、[上]/[下]ボタンで音色を変更したいトラックを選びます。

5. 手順2で選んだ音色で上書きします。

[左]ボタンを押して1つ前の画面に戻ります。[下]ボタンを押して画面の「実行」を反転表示させ、[右]ボタンを押します。



変更が完了すると、「操作を完了しました」と表示され、数秒後に音色変更画面に戻ります。

6. [戻る]ボタンを押して曲メニュー画面から抜けます。

曲ファイル进行操作する

曲メニュー画面(82ページ)の「ファイル」項目を選ぶと、市販のミュージックデータ、ご自分で録音した曲などの既存の曲ファイルに関する操作ができます。

USBフラッシュメモリーをご使用になる場合は、事前に「USB機器を接続する(USB [TO DEVICE]端子)」(64ページ)をお読みください。

操作	表示	ページ
曲を削除する	削除	58、59ページ
曲をコピーする	* コピー	58、59ページ
曲を移動する	* 移動	58、60ページ
MIDI曲を再生しながらオーディオ曲に変換する	* オーディオ変換	58、60ページ
曲名を変更する	名前の変更	58、61ページ

* が付いている項目は、MIDI曲が選ばれているときのみ有効です。

ファイルとは

あるデータのまとまりを1つの単位として保存したものです。曲データを曲名単位で曲ファイルと言います。

曲の種類とファイル操作の制限

曲画面には、曲の種類を示すカテゴリ名やアイコンが表示されます。曲の種類によって、ファイル操作に下記のとおり制限があります。

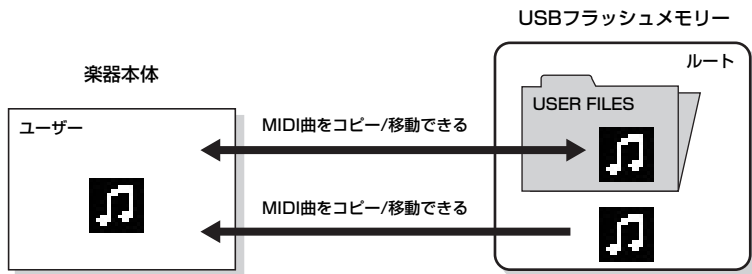


保存場所	カテゴリ	曲の種類	曲を削除する	曲名を変更する	曲をコピーする	曲を移動する	MIDI曲を再生しながらオーディオ曲に変換する
本体	デモ	本体の音色デモ	×	×	×	×	×
	クラシック50選	本体のピアノ曲	×	×	×	×	×
	名曲セレクション		×	×	×	×	×
	レッスン	本体の練習曲	×	×	×	×	×
	ユーザー	録音曲(MIDI)	○	○	○	○	○
USBフラッシュメモリー	USB	MIDI曲	○	○	○	○	○
		オーディオ曲	○	○	×	×	×

コピー / 移動できる範囲

楽器本体の「ユーザー」にあるMIDI曲は、USBフラッシュメモリーの「USER FILES」フォルダーへのみコピー / 移動できます。この場合「USER FILES」フォルダーの指定は自動的に行なわれますので、ご自分で指定する必要はありません。

USBフラッシュメモリー内のMIDI曲は、楽器本体の「ユーザー」へコピー / 移動できます。



USER FILESフォルダー

USBフラッシュメモリーをこの楽器で初期化したり、この楽器の演奏をUSBフラッシュメモリーに録音した場合、USBフラッシュメモリーの中に自動的に「USER FILES」という名前のフォルダーが作られ、その中にデータが保存されます。

NOTE

市販のミュージックデータは著作権で保護されていますので、コピー機能は個人で楽しむ範囲でご利用ください。

NOTE

フォルダーはコピーできません。

ルートとは

階層構造のいちばん上の部分を表わします。フォルダーに入っていない領域のことです。

曲ファイルの基本操作

曲ファイルの操作は以下の手順で行ないます。

1. 必要に応じて、USBフラッシュメモリーをUSB ^{トウー デバイス} [TO DEVICE] 端子に接続してください。

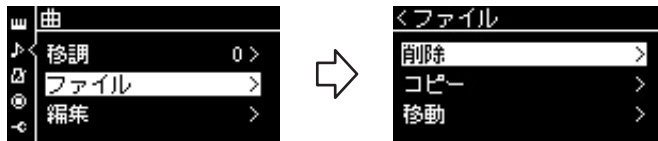
2. ファイル操作の対象となる曲を選びます。

曲の選びかたは、「曲を再生する」(36ページ)をご覧ください。

3. ファイル操作モードに入ります。

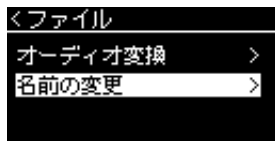
3-1. [設定] ボタンを何度か押して曲メニュー画面を表示させてから、[△]/[▽] ボタンで「ファイル」を選んで、[>] ボタンを押します。

曲メニュー画面



3-2. [△]/[▽] ボタンで設定したい項目を「削除」、「コピー」、「移動」、「オーディオ変換」、「名前の変更」のいずれかから選びます。

例 曲名を変更する場合



これ以降、操作を中止してファイル操作モードから抜けるには[戻る]ボタンを押します。

4. 操作を実行します。

ここでの操作は、該当する項目の手順を参照してください。

- 削除 59ページ
- コピー 59ページ
- 移動 60ページ
- オーディオ変換 60ページ
- 名前の変更 61ページ

操作中、画面にメッセージ(情報や確認など)が表示されることがあります。その意味や対処の方法については、98ページの「メッセージ一覧」をご覧ください。

5. [戻る] ボタンを押して、ファイル操作モードを抜けます。

注記

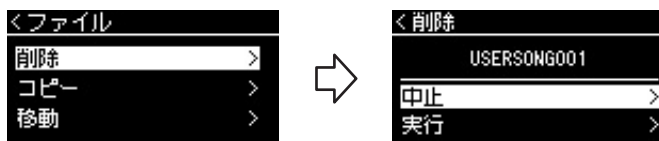
ファイル操作中やUSBフラッシュメモリーのマウント中は、USBフラッシュメモリーを外さないでください。USBフラッシュメモリーや楽器本体のデータが壊れたりするおそれがあります。

曲を削除する

削除できる曲の種類は、57ページを確認してください。

基本操作は、58ページをご覧ください。手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「削除」が選ばれた状態で[>]ボタンを押すと、設定画面が表示されます。



4-2. [V]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押して実行します。

曲削除後、曲のリスト画面が表示されます。

NOTE

複数の曲をまとめて削除することはできません。

注記

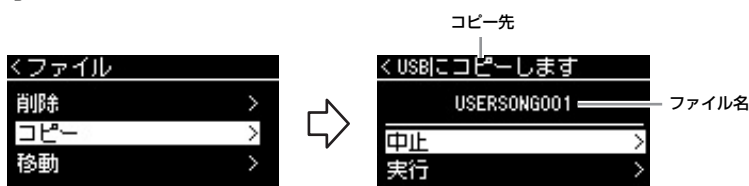
「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

曲をコピーする

コピーできる曲の種類は、57ページを確認してください。

基本操作は、58ページをご覧ください。手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「コピー」が選ばれた状態で[>]ボタンを押すと、設定画面が表示されます。



4-2. [V]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押して実行します。

曲がコピーされ、曲のリスト画面が表示されます。コピー先のファイル名は、コピー元のファイル名と同じになります。

コピー先：

コピー先がUSBフラッシュメモリーの場合は「USBにコピーします」、楽器本体の場合は「ユーザーにコピーします」と表示されます。コピー先がUSBフラッシュメモリーの場合、ファイルはUSBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへコピーされます。

NOTE

コピー先にすでに同じ名前のファイルがある場合は、メッセージが表示されます。上書きする場合は「上書き」、キャンセルする場合は「中止」を[△]/[V]ボタンで選び、[>]ボタンを押します。

注記

上書きした場合、コピー先のファイルのデータはすべて消去され、コピー元のファイルのデータで上書きされますのでご注意ください。

注記

「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

曲を移動する

移動できる曲の種類は、57ページを確認してください。

基本操作は、58ページをご覧ください。手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「移動」が選ばれた状態で[>]ボタンを押すと、設定画面が表示されます。



4-2. [V]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押して実行します。

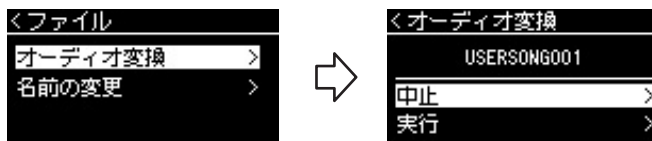
曲が移動され、曲のリスト画面が表示されます。

MIDI曲を再生しながらオーディオ曲に変換する

楽器本体の「ユーザー」や、USBフラッシュメモリーの「USER FILES」フォルダー内のMIDI曲を、オーディオ曲に変換してUSBフラッシュメモリーの「USER FILES」フォルダー内に保存できます。変換できる曲の種類は、57ページを確認してください。

基本操作は、58ページをご覧ください。手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「オーディオ変換」が選ばれた状態で[>]ボタンを押すと、設定画面が表示されます。



4-2. [V]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押して実行します。

オーディオ変換がスタートし、曲が再生されます。オーディオ変換中は、オーディオ形式での録音中と同じ状態のため、鍵盤を弾いたり、[AUX IN]端子などから入力された外部の音声も、一緒に録音されます。変換が終わると「オーディオ変換しました」と表示され、数秒後に、曲のリスト画面に戻ります。

移動先

移動先がUSBフラッシュメモリーの場合は「USBに移動します」、楽器本体の場合は「ユーザーに移動します」と表示されます。移動先がUSBフラッシュメモリーの場合、ファイルはUSBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへ移動されます。

NOTE

移動先にすでに同じ名前のファイルがある場合は、メッセージが表示されます。上書きする場合は「上書き」、キャンセルする場合は「中止」を[△]/[V]ボタンで選び、[>]ボタンを押します。

注記

上書きした場合、移動先のファイルのデータはすべて消去され、移動元のファイルのデータで上書きされますのでご注意ください。

注記

「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

NOTE

変換しても、MIDI曲は元の保存場所にそのまま残ります。

NOTE

(SCLP-7450) Bluetoothから入力されたオーディオデータ(74ページ)も、オーディオ曲として一緒に録音できます。

注記

変換中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外したりしないでください。変換中のデータが失われます。

NOTE

保存先に同じ名前のファイルがある場合は、上書き確認画面が表示されます。変換を続けるには[△]/[V]ボタンで「上書き」を選び、[>]ボタンを押します。

NOTE

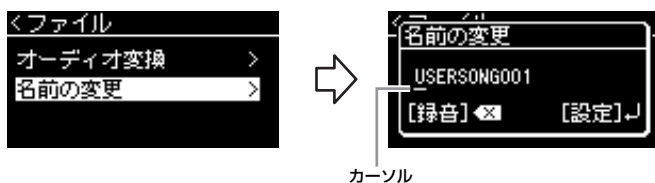
実行中に[戻る]ボタンを押すと、変換を中止します。中止した場合、変換内容は保存されません。

曲名を変更する

名前を変更できる曲の種類は、57ページを確認してください。

基本操作は、58ページをご覧ください。手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「名前の変更」が選ばれた状態で[>]ボタンを押すと、設定画面が表示されます。



4-2. 曲名を付けます。

[<]/[>]ボタンでカーソル(下線)を移動します。

[^]/[v]ボタンでカーソルの位置の文字を変更します。録音ボタンを押すと文字が消去されます。

最大46文字の曲名を付けられます。画面からはみだした文字は、[<]/[>]ボタンでカーソルを移動し、順次表示させることができます。

4-3. [設定]ボタンを押して実行します。

曲名変更後、曲のリスト画面が表示されます。名前を変更した曲が選ばれています。

NOTE

曲名に使用できない文字が含まれている場合は、曲名を変更してください。使用できる文字一覧については、90ページをご覧ください。

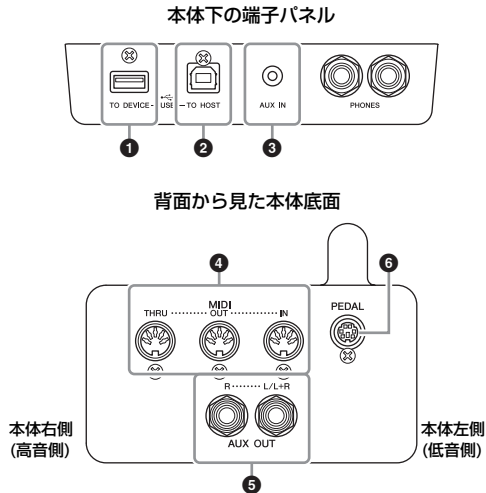
注記

「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

他の機器と接続する

端子について

端子パネルの位置は「各部の名前と機能」(13ページ)でご確認ください。



① USB [TO DEVICE] 端子

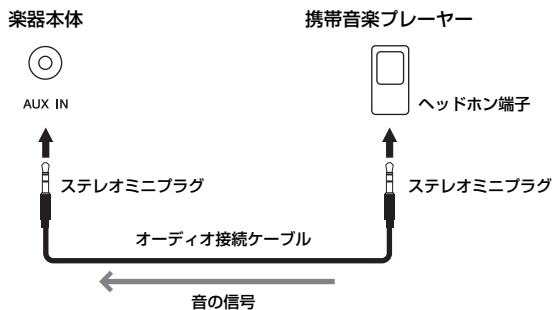
USBフラッシュメモリーを接続したり、別売のUSB無線LANアダプター (UD-WL01) を使ってスマートフォンなどのスマートデバイスを接続したりする端子です。詳しくは64ページの「USB機器を接続する (USB [TO DEVICE]端子)」と、67ページの「スマートデバイスと接続する」をご覧ください。

② USB [TO HOST] 端子

コンピューターやスマートフォンなどのスマートデバイスを接続する端子です。詳しくは65ページの「コンピューターと接続する (USB [TO HOST]端子)」と、67ページの「スマートデバイスと接続する」をご覧ください。

③ [AUX IN] 端子

オーディオ接続ケーブルを使って、[AUX IN]端子に、スマートフォンや携帯音楽プレーヤーなどのオーディオ再生機器のヘッドホン端子を接続します。接続したオーディオ再生機器で、音楽などを再生すると、この楽器のスピーカーから音を鳴らせます。



⚠ 注意

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。

NOTE

この楽器のUSB端子には、USB [TO HOST]端子とUSB [TO DEVICE]端子の2種類があります。どちらもUSB端子ですが、形状/用途が違いますので、接続するときに間違えないようご注意ください。(端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。)

注記

楽器本体のAUX INを使う場合、外部機器の損傷を防ぐため、電源を入れるときは、外部機器 → この楽器の順に、電源を切るときは、この楽器 → 外部機器の順に行なってください。

NOTE

[AUX IN]端子からの入力音は、楽器の[音量]スライダーで音量調節できます。

NOTE

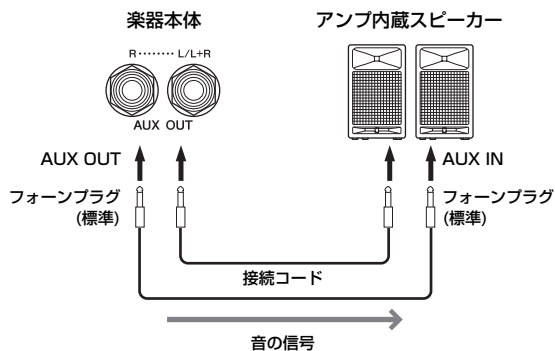
オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

④ MIDI [IN][OUT][THRU]端子

シンセサイザーやシーケンサーなどのMIDI機器を接続する端子です。
詳しくは66ページの「外部MIDI機器と接続する(MIDI端子)」をご覧ください。

⑤ AUX OUT [R][L/L+R]端子

この楽器にアンプ内蔵スピーカーなどを接続して、より大きな音を出します。
接続コードを使って図のように接続します。



AUX OUT端子に出力される音量は、楽器の[音量]スライダーで調節できます。外部スピーカー使用時、本体スピーカーからの音を消したい場合は、「スピーカー」の設定をオフにしてください。設定はシステムメニュー画面：「ユーティリティ」→「スピーカー」(90ページ)で行ないます。

⑥ [PEDAL]端子

ペダルコードを接続する端子です。詳しくは「楽器を組み立てる」の105ページをご覧ください。

NOTE

モノ出力の場合(スピーカーを1台だけ使う場合には、[L/L+R]端子をご使用ください。

注記

- 楽器本体のAUX OUT端子を使う場合、外部機器の損傷を防ぐため、電源を入れるときは、この楽器 → 外部機器(アンプ内蔵スピーカーなど)の順に、電源を切るときは、外部機器 → この楽器の順に行なってください。オートパワーオフ機能(16、90ページ)により、自動的に電源が切れることがあります。外部機器を接続した状態で、一定時間本体を操作しない場合は、この手順に従って手で電源を切るか、オートパワーオフを解除してください。
- AUX OUT端子から出力した音を、[AUX IN]端子に戻さないでください(AUX OUT端子と外部オーディオ機器を接続した場合は、その機器の音声出力をこの楽器の[AUX IN]端子に接続しないでください)。この楽器の[AUX IN]端子から入力された音はそのままAUX OUT端子から出力されますので、オーディオ系の発振が起こり、正常な再生がなされないばかりでなく、両機器の故障の原因になります。

NOTE

オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

NOTE

ヘッドホン接続してAUX OUT端子の出力音をモニターする場合は、バイノーラルサンプリング/ステレオフォニックオフティマイザーをオフにすることをおすすめします。詳しくは18ページをご覧ください。

USB機器を接続する(USB [TO DEVICE]端子)

USB [TO DEVICE]端子には、USBフラッシュメモリーや別売のUSB無線LANアダプターを接続します。楽器本体とUSBフラッシュメモリーでデータをやりとりしたり(57、91ページ)、別売のUSB無線LANアダプターを使ってiPadなどと無線通信(67ページ)したりできます。

USB [TO DEVICE]端子ご使用上の注意

本機にはUSB [TO DEVICE]端子があります。USB [TO DEVICE]端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE

USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

- USBフラッシュメモリー
- USBハブ
- USB無線LANアダプター (UD-WL01、別売)

上記以外のUSB機器(マウス、コンピューターのキーボードなどは、接続しても使えません。

動作確認済みUSB機器については、下記ウェブサイトの「資料/データ」から確認できます。ご購入の前に確認ください。

サポート・お問い合わせ：

<https://jp.yamaha.com/support/>

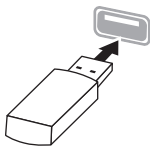
本機では、USB2.0～3.0の機器がご使用できますが、機器への保存や機器からの読み込みにかかる時間は、データの種類や本機の状態により異なりますのでご了承ください。本機ではUSB 1.1は使用できません。

注記

USB [TO DEVICE]端子の定格は、最大5V/500mAです。定格を超えるUSB機器は故障の原因になるため、接続しないでください。

■ USB機器の接続

USB [TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。



注記

- USB機器の抜き差しは、再生や録音中、ファイル操作中(保存/コピー/削除/フォーマットなど)、およびUSB機器へのアクセス中には行わないでください。楽器本体の機能が停止したり、USB機器やデータが壊れたりするおそれがあります。
- USB機器の抜き差しは、数秒間隔を空けて行ってください。
- USB機器の接続にケーブルは使わないでください。

NOTE

1つのUSB [TO DEVICE]端子に2台以上のUSB機器を同時に接続したい場合は、USBハブを使います。USBハブをパスワードでお使いください。USBハブは1台のみ使用可能です。USBハブの使用中にエラーメッセージが出た場合は、本機からUSBハブを抜き、本機の電源を入れ直した上で、再度USBハブを接続してください。

USBフラッシュメモリーの取り扱いについて

本機にUSBフラッシュメモリーを接続すると、楽器本体で作したデータをUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーのデータを楽器本体で再生したりできます。

■ 接続できるUSBフラッシュメモリーの数

同時に使用できるUSBフラッシュメモリーは、1台までです。(USBハブを使用した場合でも、同時に使用できるUSBフラッシュメモリーは1台までです。)

■ USBフラッシュメモリーのフォーマット

USBフラッシュメモリーは本機でフォーマット(89ページ)することをおすすめします。他の機器でフォーマットしたUSBフラッシュメモリーは、本機で正しく動作しない場合があります。

注記

フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

■ 誤消去防止

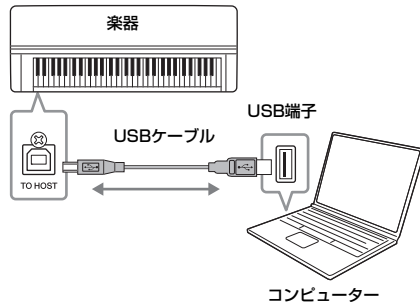
USBフラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合は、ご使用前にお使いのUSBフラッシュメモリーのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

■ USBフラッシュメモリー接続時に電源を切るには

電源を切る場合は、再生/録音やファイル操作(保存/コピー/削除/フォーマットなど)によるUSBフラッシュメモリーへのアクセス中でないことを確認してください。USBフラッシュメモリーやデータが壊れたりするおそれがあります。

コンピューターと接続する(USB [TO HOST]端子)

USB [TO HOST] 端子にUSBケーブルを使ってコンピューターを接続すると、楽器とコンピューター間でMIDIデータやオーディオデータを送受信できます。接続方法やデータの送受信について詳しくは、ウェブサイト(2ページ)上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。



注記

- USBケーブルは、ABタイプのものご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB 3.0ケーブルは、ご使用できません。
- DAW (Digital Audio Workstation)などの音楽制作アプリケーションと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオループバックをオフにしてご使用ください(下記参照)。

オーディオデータを送受信する(USBオーディオインターフェイス機能)

USBケーブルを使って、コンピューターやスマートデバイスをUSB [TO HOST]端子に接続すると、オーディオデータをデジタルで送受信できます。これをUSBオーディオインターフェイス機能といい、たとえば次のようなことができます。

- **オーディオデータを高音質で再生**
[AUX IN]端子での接続と比べて、音質の劣化が少なくクリアな音質で楽しめます。
- **録音ソフトや音楽制作ソフトを使って、楽器の演奏をオーディオデータとして録音**
録音したデータは、コンピューターやスマートデバイスで再生できます。

接続方法はウェブサイト(2ページ)上の「コンピューターとつなぐ」または「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

オーディオループバックのオン/オフ

USBオーディオインターフェイス機能による楽器へのオーディオ入力音を、楽器での演奏音とともにコンピューターやスマートデバイスに出力する(オーディオループバックする)かどうかを設定できます。出力する場合はオンに、出力しない場合はオフにします。たとえば、コンピューターやスマートデバイスを使って、楽器での演奏音だけでなく楽器へ入力したオーディオ再生音も録音したい場合はオンに、楽器での演奏音だけを録音したい場合はオフにします。

設定について詳しくは「オーディオループバック」(90ページ)をご覧ください。

NOTE

- 楽器をコンピューターとUSBケーブルで接続する場合は、ハブを経由せず直接接続してください。
- 使用するコンピューターやシーケンズソフトウェアでの必要なMIDI設定については、それぞれの取扱説明書をお読みください。
- 楽器本体は、コンピューターとの接続後しばらくしてから通信を開始します。

NOTE

グランド・エクスプレッション・モデリングに関連するMIDIデータを編集をすると予期せぬ音が生じる場合があります。

NOTE

- オーディオデータの送受信をWindows搭載のコンピューターで行なう場合は、Yamaha Steinberg USB Driverをコンピューターにインストールする必要があります。詳しくは、ウェブサイト上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。
- 楽器へのオーディオデータの入力音の音量は、コンピューターまたはスマートデバイス側で調節してください。

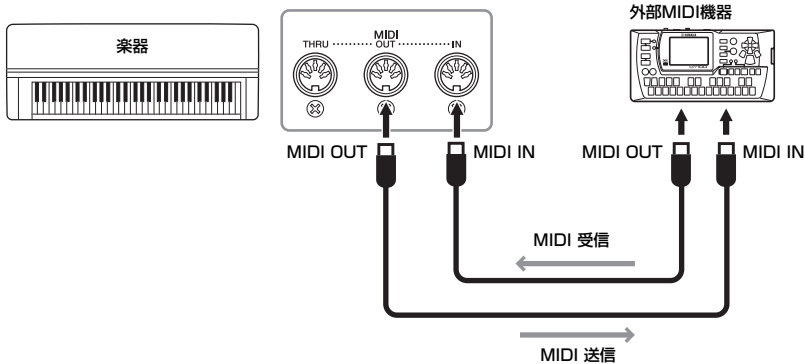
NOTE

- Bluetoothオーディオ機能(74ページ)や無線LAN接続(68ページ)によるオーディオ入力音もオーディオループバックの対象です。また[AUX IN]端子やBluetoothで接続した機器には出力されません。
- オーディオ曲(34ページ)の再生音は、この設定がオンのときは、コンピューターやスマートデバイスに出力されますが、オフのときは出力されません。
- オーディオ録音(46ページ)する時、この設定がオンのときは、コンピューターやスマートデバイスからのオーディオ入力音も録音されますが、オフのときは録音されません。

外部MIDI機器と接続する(MIDI端子)

MIDIケーブルを使って、この楽器と外部MIDI機器(キーボード、シンセサイザー、シーケンサーなど)のMIDI端子を接続すると、この楽器から外部MIDI機器をコントロールしたり、外部MIDI機器からこの楽器をコントロールしたりできます。

- **MIDI [IN]** : MIDIデータを受信する端子です。
- **MIDI [OUT]** : MIDIデータを送信する端子です。
- **MIDI [THRU]** : MIDI INから入ってきたデータをそのまま送信する端子です。複数の機器にMIDIデータを供給する場合などに使います。



⚠ 注意

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。

NOTE

ヤマハウェブサイト(2ページ)で、MIDIについての基礎知識を説明した「MIDI入門」をご覧ください。

NOTE

- MIDI機器の中でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるMIDIデータだけが送受信できることとなります。この楽器で扱えるMIDIデータについては、ウェブサイト(2ページ)上の「MIDIリファレンス」をご覧ください。
- この楽器から他の機器にMIDIデータを送信すると、グランド・エクスプレッション・モデリングに関連するMIDIデータにより、予期せぬ音が生じることがあります。

スマートデバイスと接続する

スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続すると、次のようなことができます。スマートデバイスでのオーディオ再生音を楽器のスピーカーから聞いたり、スマートデバイスアプリを使って、楽器をもっと便利に楽しんだりできます。接続方法は目的によって異なります。

• スマートデバイスアプリを使う

Bluetooth (SCLP-7450)または、その他の方法で接続します。詳しくは76ページをご覧ください。

• スマートデバイスでのオーディオ再生音を楽器のスピーカーから聞く (Bluetoothオーディオ機能) (SCLP-7450)

Bluetoothで接続します。詳しくは74ページをご覧ください。

• オーディオデータを送受信する (USBオーディオインターフェース機能)

USB [TO HOST]端子に、USBケーブルを使って接続します。詳しくは、65ページをご覧ください。

注記

- USBケーブルは、ABタイプのものでご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB 3.0ケーブルは、ご使用できません。
- スマートデバイスを不安定な場所に置かないでください。落下して破損するおそれがあります。
- 音楽制作用アプリと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオループバックをオフにご使用ください(65ページ)。

NOTE

- USB [TO DEVICE]端子を使って接続する場合は、あらかじめ「USB [TO DEVICE]端子ご使用上の注意」(64ページ)をお読みください。
- スマートデバイスを楽器の近くで使用する場合は、通信によるノイズを避けるため、機内モードをオンにしてからWi-FiまたはBluetoothをオンしてお使いいただくことをおすすめします。
- 楽器は接続後しばらくしてから通信を開始します。
- 楽器とスマートデバイスをUSBケーブルで接続する場合は、ハブを経由せず直接接続してください。

USB無線LANアダプター UD-WL01 (別売)を使った接続

別売のUSB無線LANアダプター UD-WL01を楽器のUSB TO DEVICE端子に接続し、スマートデバイスと接続して対応のアプリを使えます。接続方法については、ウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。
「スマートデバイス接続マニュアル」に沿って操作を進めると、楽器側での設定が必要になります。以下のいずれかの設定を行ってください。

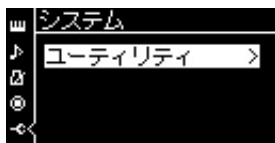
- ネットワーク一覧から選んで接続する 下記参照
- WPSによる接続 69ページ
- 手動接続 69ページ
- アクセスポイントモードによる接続 70ページ

■ ネットワーク一覧から選んで接続する

必ず別売のUSB無線LANアダプターを本体のUSB [TO DEVICE]端子に接続しておいてください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

1. [設定]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



- 1-1. [上]/[下]ボタンで「ユーティリティ」を選択
1-2. [右]ボタンで次へ

ユーティリティ画面



- 1-3. [上]/[下]ボタンで「無線LAN」を選択
1-4. [右]ボタンで次へ

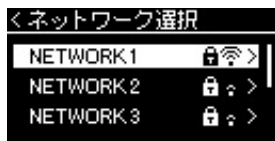
無線LAN画面



- 1-5. [上]/[下]ボタンで「ネットワーク選択」を選択

2. [右]ボタンを押して、楽器近くにあるネットワーク一覧を画面に表示させます。

セキュリティが設定されているネットワークには鍵アイコン(🔒)が表示されます。



3. 楽器本体をネットワークと接続します。

- 3-1. お使いになるネットワークを選択し、[右]ボタンを押します。
選んだネットワーク名全体が表示されますので、目的のネットワークであることを確認します。
- 3-2. [右]ボタンを押します。
- 鍵アイコンが付いていないネットワークの場合：
接続が開始されます。
 - 鍵アイコンが付いているネットワークの場合：

注記

本製品をインターネットに接続する場合は、セキュリティを保つため必ずルーターなどを経由し接続してください。経由するルーターなどには適切なパスワードを設定してください。電気通信事業者(移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど)の通信回線(公衆回線LANを含む)には直接接続しないでください。

NOTE

無線LAN画面での表示項目が異なる場合は、楽器がアクセスポイントモードになっています。70ページの手順1で、「インフラストラクチャーモード」に設定してください。

NOTE

楽器に電波が届いていない場合やSSIDを非公開にしているネットワークは、一覧に表示されません。

パスワード入力画面が表示されますので、パスワードを入力してください。入力方法は、「曲名を変更する」(61ページ)の曲名の付け方と同じです。入力が終わったら[設定]ボタンを押して確定します。すると接続が自動的に開始されます。

接続に成功すると、画面に「操作を完了しました」と表示され、数秒後に「ネットワーク選択」画面に戻ります。

4. スマートデバイスをネットワークに接続します。

スマートデバイスでの設定方法は、ウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

■ WPSによる接続

お使いのアクセスポイントがWPSに対応している場合は、パスワードなどの設定をすることなく、簡単に楽器をアクセスポイントに接続できます。

必ず別売のUSB無線LANアダプターを本体のUSB [TO DEVICE]端子に接続しておいてください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

WPSによる接続を開始するには、USB無線LANアダプター(UD-WL01 別売)のWPSボタンを3秒以上押します。楽器の画面に「アクセスポイントのWPSボタンを押してください」と表示されたら、2分以内にお使いのアクセスポイント側のWPSボタンを押します。WPSによる接続が完了すると、楽器の画面に「操作を完了しました」と表示され、数秒後に音色画面が表示されます。

そのあと、スマートデバイスをネットワークに接続します。スマートデバイスでの設定方法は、ウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

NOTE

楽器が以下の状態のとき、WPSボタンによる接続はできません。

- ・デモモード中、曲再生/一時停止/録音中。
- ・システムメニュー画面の「無線LANオプション」の「無線LANモード」がアクセスポイントモードに設定されている。

■ 手動接続

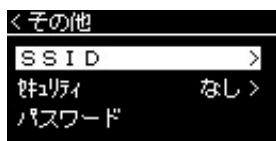
必ず別売のUSB無線LANアダプターを本体のUSB [TO DEVICE]端子に接続しておいてください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

1. 「ネットワーク一覧から選んで接続する」(68ページ)の手順1、2を行ない、楽器の画面に「ネットワーク選択」を表示させます。



2. ネットワーク一覧の一番下の「その他」を選んで[>]ボタンを押します。

3. 「SSID」、「セキュリティ」、「パスワード」を順に設定します。



NOTE

インターネットや他の無線機器と通信はできません。

NOTE

別売のUSB無線LANアダプターを本体のUSB [TO DEVICE]端子に接続してください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

3-1. 「SSID」を選んで[>]ボタンを押すと、入力画面が表示されますので、アクセスポイントとしてのSSIDを入力します。

入力方法は、「曲名を変更する」(61ページ)の曲名の付け方と同じです。
入力が終わったら、[設定]ボタンを押して確定します。自動的に「その他」画面に戻ります。

3-2. 「セキュリティ」を選んで[>]ボタンを押すと、セキュリティのリストが表示されますので、[^]/[V]ボタンでセキュリティの種類を選んでから[<]ボタンでその画面に戻ります。

3-3. 「パスワード」はSSIDと同様の方法で設定します。

4. 手順3の画面で、一番下の項目「接続」を選び、[>]ボタンを押すと、自動で接続を開始します。

接続が完了すると、楽器の画面に「操作を完了しました」と表示され、ネットワーク選択画面に戻ります。

5. スマートデバイスをネットワークに接続します。

スマートデバイスでの設定方法は、ウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

NOTE

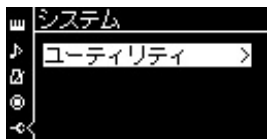
セキュリティで「なし」を選ぶと、パスワードの設定はできません。

■ アクセスポイントモードによる接続

1. 楽器をアクセスポイントモードに切り替えます。

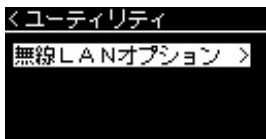
[設定]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



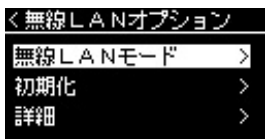
- 1-1. [^]/[V]ボタンで「ユーティリティ」を選択
- 1-2. [>]ボタンで次へ

ユーティリティ画面



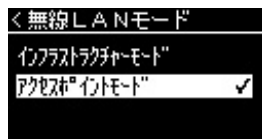
- 1-3. [^]/[V]ボタンで「無線 LAN オプション」を選択
- 1-4. [>]ボタンで次へ

無線LANオプション画面



- 1-5. [^]/[V]ボタンで「無線LAN モード」を選択
- 1-6. [>]ボタンで次へ

無線LANモード画面



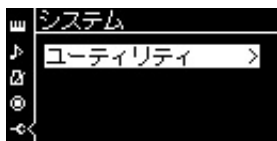
- 1-7. [^]/[V]ボタンで「アクセスポイントモード」を選択

完了すると、画面に「操作を完了しました」と表示され、数秒後に無線LANモード画面に戻ります。

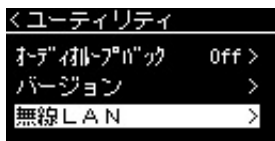
2. 無線LAN項目のSSID、セキュリティ、パスワード、チャンネルを設定します。

2-1. システムメニュー画面で、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



ユーティリティ画面



無線LAN画面



2-2. SSID、セキュリティ、パスワード、チャンネルを設定します。

それぞれ選んで[>]ボタンを押すと入力画面や選択画面が表示されますので、入力、選択を行ないます。入力方法とセキュリティの選択方法は、手動接続の手順3と同様です。それぞれの項目の設定範囲については、73ページの表をご覧ください。

3. 設定を保存します。

無線LAN画面の一番下の項目「保存」を選び、[>]ボタンを押すと、設定の保存を開始します。保存が完了すると、画面に「操作を完了しました」と表示され、ユーティリティ画面に戻ります。

4. スマートデバイスと楽器(アクセスポイント)を接続します。

スマートデバイスでの設定方法は、ウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

以下の項目は、楽器の電源を入れたあと、USB無線LANアダプターを挿すと表示されます。

* 無線LANの項目は、無線LANモードの設定がインフラストラクチャーモードか、アクセスポイントモードかで表示が異なります。無線LANモードの設定は、初期設定ではインフラストラクチャーモードです。

各項目の呼び出し方： [設定]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[△]/[▽]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。							
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
ユーティリティ	無線LAN* (インフラストラクチャーモード時)	ネットワーク選択	(ネットワーク一覧)		一覧から接続先ネットワークを選ぶことで、ネットワークへ接続します。	-	-
			その他	SSID	接続先ネットワークのSSIDを設定します。	-	最大32文字。英数字、記号
				セキュリティ	接続先ネットワークのセキュリティ種別を設定します。	なし	なし、WEP、WPA-PSK(TKIP)、WPA-PSK(AES)、WPA2-PSK(AES)、WPA/WPA2 mixed PSK
				パスワード	接続先ネットワークのパスワードを設定します。	-	最大64文字。英数字、記号
				接続	「その他」画面で設定した内容で、ネットワークへ接続します。	-	-
	詳細	DHCPサーバー	DHCPサーバー	無線LANの詳細設定をします。	On (オン)	On/Off (オン/オフ)	
			IPアドレス	IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバー1、DNSサーバー2は、DHCPがオフのときは設定できません。	0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255	
			サブネットマスク	設定範囲は0.0.0.0~255.255.255.255です。	0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255	
			ゲートウェイ	入力画面では、[<]/[>]ボタンでそれぞれのオクテットを選択し、[△]/[▽]ボタンで値を設定します。入力を確定するときは[設定]ボタンを押します。	0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255	
			DNSサーバー 1		0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255	
			DNSサーバー 2		0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255	
			保存	「詳細」画面で設定した内容を、保存します。画面の「保存」を反転表示させ、[>]ボタンを押すと保存されます。	-	-	
	無線LANオプション	無線LANモード	インフラストラクチャーモード	無線LAN接続に、アクセスポイントを使うか(インフラストラクチャーモード)使わないか(アクセスポイントモード)を設定します。	インフラストラクチャーモード	-	
			アクセスポイントモード			-	
		初期化	中止	無線LANの設定情報の初期化を行ないます。	中止	-	
実行			画面の「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押すと実行されます。		-		
詳細		ホスト名	ホスト名を設定します。	SCLP-XXX-[MACアドレス下6桁]	最大57文字。半角英数字に加え「-」と「_」も設定可能。		
		MACアドレス	USB無線LANアダプターのMACアドレスを表示します。	-	-		
		ステータス	ネットワーク機能のエラーコードを表示します。	-	-		

アクセスポイントモード時の無線LAN

各項目の呼び出し方： [設定]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[△]/[▽]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
ユーティ リティ	無線LAN* (アクセスポイ ントモード時)	SSID	アクセスポイントとしての SSIDを設定します。	ap-SCLP-XXX- [MACアドレス下6桁]	最大32文字。英数字、記号
		セキュリティ	アクセスポイントとしてのセ キュリティ種別を設定します。	WPA2-PSK(AES)	なし、WEP、WPA-PSK(TKIP)、 WPA-PSK(AES)、WPA2-PSK(AES)、 WPA/WPA2 mixed PSK
		パスワード	アクセスポイントとしてのパ スワードを設定します。	00000000	最大64文字。英数字、記号
		チャンネル	アクセスポイントとしての チャンネルを設定します。	11	1～13
		DHCP サーバー	IPアドレスに関連する項目を 設定します。	On (オン)	On/Off (オン/オフ)
		IPアドレス		192.168.0.1	192固定、168固定、0～255、 1～254
		サブネット マスク		255.255.255.0	255.255.0.0、255.255.128.0、 255.255.192.0、255.255.224.0、 255.255.240.0、255.255.248.0、 255.255.252.0、255.255.254.0、 255.255.255.0
		保存		無線LAN*画面(アクセスポイ ントモード時)で設定した内容 を保存します。	—

Bluetoothオーディオ機能を使う(SCLP-7450のみ)

スマートフォンなどのスマートデバイスや携帯音楽プレーヤーなどのBluetooth対応機器と接続すると、その機器で再生するオーディオデータをこの楽器のスピーカーから鳴らせます。Bluetoothオーディオ機能を使う前に、必ず9ページをお読みください。

スマートデバイスとペアリングする

Bluetooth機能を使って初めて接続する場合、スマートデバイスとこの楽器をペアリングする必要があります。1度ペアリングしたスマートデバイスは、再度ペアリングの必要はありません。

1. [設定]ボタンを3秒押し続けます。

画面がペアリングの待機状態になります。



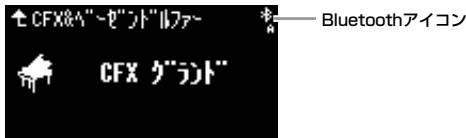
ペアリングを中止するには[戻る]ボタンを押します。

2. スマートデバイスのBluetooth機能をオンにして、接続リストから「SCLP-7450AUDIO」を選びます。

詳しい操作方法はスマートデバイスの取扱説明書をご覧ください。

ペアリングが完了すると、「Bluetoothのペアリング中です」の表示が消え、音色画面や曲画面にBluetoothアイコンが表示されます。

音色画面



3. スマートデバイスでオーディオデータを再生し、楽器から音が出ることを確認します。

次に楽器の電源を入れたとき、楽器とスマートデバイスのBluetooth機能がオンであれば、前回最後に接続したスマートデバイスと自動で接続します。自動で接続できない場合は、スマートデバイスの接続リストから再度モデル名を選択してください。

NOTE

- ここでは、Bluetoothでオーディオデータを送信できる機器のことをBluetooth対応機器とし、その一例としてスマートデバイスを使って説明します。Bluetooth対応機器は、A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)に対応している必要があります。
- Bluetoothで接続してMIDIデータを送受信したい場合は76ページをご覧ください。
- Bluetoothヘッドホンやスピーカーは、ペアリングできません。
- この楽器のBluetooth機能がオフのときは、接続できません。あらかじめオンに設定してください(75ページ)。

ペアリング

Bluetooth対応機器をこの楽器に登録し、無線通信できるように設定することをペアリングといいます。

NOTE

- この楽器は、最大8台のスマートデバイスとペアリング(登録)できますが、同時に接続できるのは1台のみです。9台目のスマートデバイスとのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古いスマートデバイスの情報が削除されます。
- スマートデバイス側の設定は、5分以内に行なってください。
- バスキーの入力を要求された場合は、数字で「0000」を入力してください。

NOTE

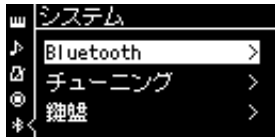
スマートデバイスの入力音は、楽器の[音量]スライダーで音量調節できますが、鍵盤演奏とバランスを調整したい場合、スマートデバイスの入力音の音量は、スマートデバイス側で調節してください。

Bluetooth機能のオン/オフを切り換える

初期設定ではBluetooth機能がオンに設定されていますが、接続を解除したいときや、もう一度接続しなおしたいときなど、楽器のBluetooth機能のオン/オフを設定できます。

1. [設定]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

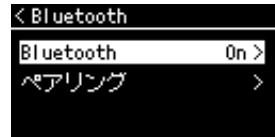
システムメニュー画面



1-1. 「Bluetooth」が選ばれていることを確認

1-2. [>]ボタンで次へ

Bluetooth画面



1-3. 「Bluetooth」が選ばれていることを確認

2. [>]ボタンを押してオン/オフを切り換えます。

設定が終わったら、[戻る]ボタンで画面を閉じてください。

スマートデバイスアプリを使う

楽器に対応したスマートデバイスアプリを使うと、楽器をもっと便利に楽しめます。特に「スマートピアニスト」(無料)を使うと、スマートデバイスで音色の選択やメトロノームなどを直感的に操作したり、内蔵曲の譜面を表示したりできます。「スマートピアニスト」などの楽器に対応のアプリや、対応のスマートデバイスに関する情報は、以下のウェブサイトにある各アプリのページでご確認ください。

<https://jp.yamaha.com/kbdapps/>

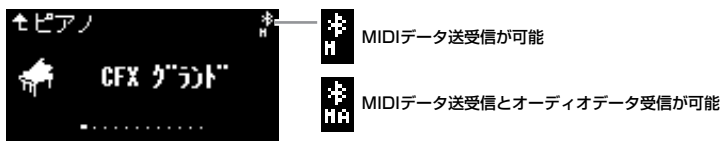
楽器とスマートデバイスはBluetoothまたはその他の方法で接続します。

Bluetoothで接続する(SCLP-7450のみ)

Bluetoothで接続する前に、必ず9ページをお読みください。

使用するアプリの設定画面で接続します。「スマートピアニスト」では接続ウィザード(下記)のガイドに沿って接続します。Bluetoothの接続先として「SCLP-7450MIDI」を選んでください。接続後は、MIDIデータの送受信ができます。これに加えてスマートデバイスのオーディオデータを楽器で鳴らしたい場合は、74ページをご覧ください。Bluetoothの接続が完了すると、楽器の画面には接続状態が表示されます。

音色画面



その他の方法で接続する

接続方法はウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。別売のUD-WL01を使って接続する場合は、「スマートデバイス接続マニュアル」に沿って操作を進めると、楽器側での設定も必要となります。詳しくは68ページをご覧ください。「スマートピアニスト」を使う場合は「スマートピアニスト」の接続ウィザード(下記)を使って接続できます。

「スマートピアニスト」接続ウィザード

「スマートピアニスト」画面左上の「☰」をタップしてメニューを開き、「楽器」→「接続ウィザードを開始する」を順にタップします。

注記

楽器とスマートデバイスを接続した状態で「スマートピアニスト」を起動すると、楽器の設定が、「スマートピアニスト」での設定に自動的に変更されます。楽器での設定を失いたくない場合は、バックアップデータとしてUSBフラッシュメモリーやコンピューターに保存しておいてください(91ページ)。

NOTE

「スマートピアニスト」の使用中は、楽器の[戻る]ボタン以外のボタンは使えません。「スマートピアニスト」を使って操作してください。楽器の[戻る]ボタンを押すと、「スマートピアニスト」との接続が解除され、楽器で操作できるようになります。

NOTE

この楽器のBluetooth機能がオフのときは、接続できません。(初期設定: オン)設定方法は75ページをご覧ください。

[設定]ボタンを押すことにより、音色、曲再生、メトロノーム、録音、楽器の全体設定に関する詳細設定画面を呼び出すことができます。

基本操作






1. 必要に応じて、音色設定または曲選択を行いません。

- 音色に関する設定をしたい場合(音色メニューを呼び出す場合は)、あらかじめ音色を選択しておきます。
- 繰り返し再生など曲再生に関する設定をしたい場合は、あらかじめ曲を選択しておきます。
- 録音した曲データを編集したい場合(曲メニューの「編集」を呼び出したい場合)、あらかじめその曲を選択しておきます。

2. [設定]ボタンを何回か押してメニューを選択します。

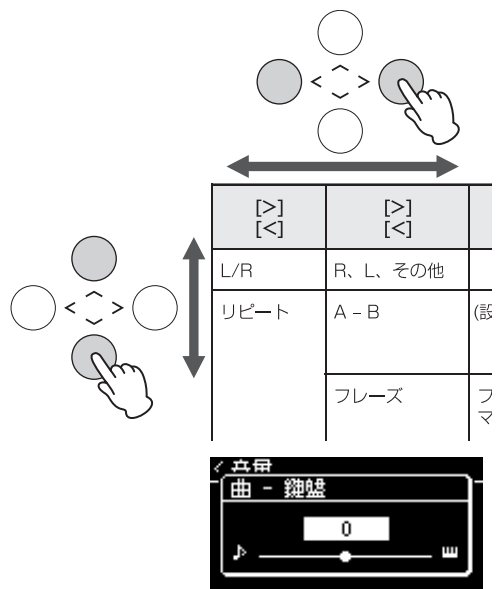
[設定]ボタンを繰り返し押すと表示されるメニューが切り替わります。選んだメニューは画面上部のメニュー名と、左側のアイコンで確認できます。



-  音色メニュー (78ページ)
-  曲メニュー (82ページ)
-  メトロノーム/リズムメニュー (85ページ)
-  録音メニュー (86ページ)
-  システムメニュー (87ページ)

3. [↑]/[↓]/[<]/[>]ボタンを使って項目を選択します。

選んだメニューに応じて内容は異なります。各メニューの一覧表は、縦方向を[↑]/[↓]ボタンで、横方向を[<]/[>]ボタンで選択/切り換えできます。



[>] [<]	[>] [<]	
L/R	R, L, その他	
リピート	A - B	(感)
	フレーズ	フマ

4. 手順3で呼び出した画面上で、設定値を選択したり、機能を実行したりします。

ほとんどの画面では設定値を選びますが、曲メニューの「編集」やシステムメニューの「バックアップ」「USBフォーマット」など一部の項目では処理を実行します。ポップアップ画面が表示された場合は、[<]/[>]ボタンで値を設定し、[戻る]ボタンで画面を閉じてください。また設定値が2つしかない場合は(オンとオフなど)、[>]ボタンを押すたびに、2つの値を切り替えられます。



5. 設定が終わったら、[戻る]ボタンでメニュー画面から抜けます。

四 音色メニュー

音色メニューでは、音色をはじめとして鍵盤演奏に関する詳細設定ができます。鍵盤を弾いて音を聞きながら数値を変更することで、好みのサウンドを設定しましょう。

NOTE

* が付いている項目は、デュオがオンの場合のみ表示されます。

各項目の呼び出し方： [設定]ボタンを何度か押して「音色メニュー」を選択し、[/]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
	(設定画面)	—	<p>鍵盤演奏音のキーを半音単位で移調します。ここでの設定により、弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせられます。たとえば、移調を「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が鳴り、「ハ長調」の弾きかたで「ハ長調」の演奏ができます。</p> <p>NOTE ここでの設定は曲再生音には関係ありません。曲再生音のキー(調)を変えたいときは、曲メニュー(82ページ)の移調で設定してください。</p> <p>NOTE 鍵盤演奏の情報(ノートオン/オフ)をMIDI送信する場合、ノートナンバーは本来の値に移調値を加えた値で送信されます。ノートオン/オフをMIDI受信した場合は、受信したままのノートナンバーで発音します(移調されません)。</p>	0	-12 (-1オクターブ)~0 (標準音程)~+12 (+1オクターブ)
ピアノ設定	大屋根の開閉	(設定画面)	ピアノの大屋根を開閉します。	フル	フル、ハーフ、クローズ
	VRM	—	VRMのオン/オフを設定します。VRMの機能については「VRMとは」(26ページ)をご覧ください。VRMの効果をつけられる音色は、「音色一覧」(93ページ)をご覧ください。	On (オン)	On/Off (オン/オフ)
	ダンパーレゾナンス	(設定画面)	ダンパーペダルを踏んだとき加わる、VRMによる弦共鳴音のかかり具合を設定します。「VRM」の設定がオンのときのみ効果があります。	5	0~10
	ダンパーノイズ	—	VRMによるダンパーノイズのオン/オフを設定します。ダンパーノイズについて詳しくは26ページをご覧ください。ダンパーレゾナンスの設定が「0」のときは、この機能は無効です。	On (オン)	On/Off (オン/オフ)
	ストリングレゾナンス	(設定画面)	押鍵したとき加わる、VRMによる弦共鳴音のかかり具合を設定します。「VRM」の設定がオンのときのみ効果があります。	5	0~10
	アリコートレゾナンス	(設定画面)	アリコートの響きを調節します。「VRM」の設定がオンのときのみ効果があります。アリコートについては「アリコートとは」(26ページ)をご覧ください。	5	0~10
	ボディレゾナンス	(設定画面)	響板や側板、フレームなど、ピアノ本体部の響きを調節します。「VRM」の設定がオンのときのみ効果があります。	5	0~10
	グランドExp. (グランドエクスプレッション)	—	<p>グランド・エクスプレッション・モデリングのタイプを選びます。「ダイナミック」では、鍵盤を強く強さやタッチに応じて、アコースティックピアノのように音が微妙に変化します。「スタティック」では弾き方を変えても、音はさほど変化しません。グランド・エクスプレッション・モデリング機能については「グランド・エクスプレッション・モデリングとは」(26ページ)をご覧ください。</p> <p>NOTE グランド・エクスプレッション・モデリングは「CFX グランド」と「ベーゼンドルファー」の音色のみに効果がかります。</p>	ダイナミック	ダイナミック、スタティック

各項目の呼び出し方： [設定]ボタンを何度か押して「音色メニュー」を選択し、[>]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
リバーブ	(設定画面)	—	リバーブタイプを選択します。リバーブは、鍵盤演奏、曲再生音、外部から入力されたMIDIデータすべてに共通にかかります。	音色による	リバーブタイプリスト参照(80ページ)
コーラス	(設定画面)	—	コーラスタイプを選択します。コーラスは、鍵盤演奏、曲再生音、外部から入力されたMIDIデータすべてに共通にかかります。	音色による	コーラスタイプリスト参照(81ページ)
音色編集	音色名*	オクターブ	鍵盤音の高さをオクターブ単位で上下にシフトします。	音色による	-2 (2オクターブ下)~0 (シフトしない)~+2 (2オクターブ上)
		音量	音色の音量を調整します。	音色による	0~127
		リバーブの深さ	現在選択されているリバーブの深さ(かかり具合)を調整します。設定値が0の場合、効果はかかりません。 NOTE VRM音色が複数パートに使用されている場合、予期しない音になることがあります。優先パートの設定が、パート間共通の設定になるためです。曲の再生中は曲パートでの設定(優先順位: チャンネル1、チャンネル2...チャンネル16)、曲の停止時は音色パートでの設定(優先順位: 音色右1、音色左、音色右2)が使用されます。	音色による	0~40
		コーラスの深さ	現在選択されているコーラスの深さ(かかり具合)を調整します。設定値が0の場合、効果はかかりません。 NOTE VRM音色が複数パートに使用されている場合、予期しない音になることがあります。優先パートの設定が、パート間共通の設定になるためです。曲の再生中は曲パートでの設定(優先順位: チャンネル1、チャンネル2...チャンネル16)、曲の停止時は音色パートでの設定(優先順位: 音色右1、音色左、音色右2)が使用されます。	音色による	0~127
		エフェクト	リバーブやコーラスとは別に、鍵盤演奏の音色に対して、個別にエフェクトタイプをかけられます。最大2つの音色にまで設定できます。	音色による	エフェクトタイプリスト参照(81ページ)
		ロータリーSP	エフェクトタイプとして「ロータリー」を選んだ音色にだけ有効です。ロータリースピーカーエフェクトの回転スピードを設定します。	音色による	速い、遅い
		パイプローター	エフェクトタイプとして「パイプローター」を選んだ音色にだけ有効です。パイプローター効果をかける/かけない(オン/オフ)を設定します。	音色による	On/Off (オン/オフ)
		スピード	エフェクトタイプに「パイプローター」を選んだ音色にだけ有効です。ピラフォン独特のビブラート(音揺れ)のスピードを設定します。	音色による	1~10
		エフェクトの深さ	エフェクト(上記)のかかり具合を、音色ごとに設定します。エフェクトタイプの中にはかかり具合の設定ができないものがあります。	音色による	1~127
		パン	各音色の音が、左右のどのあたりから聞こえてくるようにするかを、個別に設定します。	音色による	L64 (左寄り)~C (中央)~R63 (右寄り)
		ハーモニックコンテンツ	フィルターのレゾナンス値を上げることで、音に独特のクセを付けることができます。デュオがオンの場合は、音色ごとに設定できます。 NOTE 音色によっては、効果のかかり具合がわかりにくい、もしくは効果がかけられないものがあります。	音色による	-64~+63
		ブライトネス	各音色の明るさを個別に調整します。	音色による	-64~+63

各項目の呼び出し方： [設定]ボタンを何度か押して「音色メニュー」を選択し、[>]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
音色編集	音色名*	タッチセンス	鍵盤を弾いたときの強さに対する音量変化の幅/音量の出やすさを設定します。ハーブシコードやオルガンなどの音色は、鍵盤を弾いたときの強さによる音量変化がない楽器なので、初期設定は127 (音量が一定音量)になっています。	音色による	0 (音量が出にくい)~64 (音量変化幅が最大)~127 (音量が出やすく一定音量)
		右ペダル	音色ごとに、右ペダルの機能をオン/オフします。「デュオ」オン時には、右側領域、左側領域それぞれのオン/オフができ、たとえば右側にはペダル効果をかけたいが、左側にはかけたくない場合などに活用します。(「デュオ」オン時の初期設定は30ページ参照)	音色による	On/Off (オン/オフ)
		中ペダル	音色ごとに、中ペダルの機能をオン/オフします。「デュオ」オン時には、右側領域、左側領域それぞれのオン/オフができ、たとえば右側にはペダル効果をかけたいが、左側にはかけたくない場合などに活用します。(「デュオ」オン時の初期設定は30ページ参照)	音色による	On/Off (オン/オフ)
		左ペダル	音色ごとに、左ペダルの機能をオン/オフします。「デュオ」オン時には、右側領域、左側領域それぞれのオン/オフができ、たとえば右側にはペダル効果をかけたいが、左側にはかけたくない場合などに活用します。(「デュオ」オン時の初期設定は30ページ参照)	音色による	On/Off (オン/オフ)
ペダル割り当て	右ペダル	(設定画面)	右ペダルに、ダンパーペダル(サステイン)とは違う機能を割り当てます。	サステイン(連続)	ペダル機能リスト参照(81ページ)
	中ペダル	(設定画面)	中ペダルに、ソステヌートペダルとは違う機能を割り当てます。	ソステヌート	ペダル機能リスト参照(81ページ)
	左ペダル	(設定画面)	左ペダルに、ソフトペダルとは違う機能を割り当てます。	<ul style="list-style-type: none"> ジャズオルガン/メローオルガン選択時: ロータリースピード ピブラフォン選択時: バイプローター 上記以外の音色選択時: ソフト 	ペダル機能リスト参照(81ページ)
バランス*	音量 L - R*	(設定画面)	デュオがオンの場合の左手鍵域と右手鍵域の音量バランスと、左右パートの音量バランスを調節します。[<]/[>]ボタンで調整後、[戻る]ボタンでポップアップ画面を抜けます。	音色による	L+10~0~R+10

■ リバートイプリスト

オフ	効果なし
リサイタルホール	ピアノリサイタル向けの中規模ホールのクリアな響き
コンサートホール	オーケストラの公演が行なわれる大きなホールの華やかな響き
サロン	室内楽に適した、宮廷内の広間の落ち着いた響きのある響き
大聖堂	天井の高い石造りの大聖堂の荘厳な響き
クラブ	ライブハウスやジャズクラブのメリハリのある響き
プレート	録音スタジオで使用される往年のリバート装置の明るい響き

■ コーラスタイプリスト

オフ	効果なし
コーラス	豊かな広がりを加える効果
セレステ	うねりと広がりを加える効果
フランジャー	ジェット機の上昇、下降音のようなうねりを加える効果

■ エフェクトタイプリスト

エフェクトタイプ	効果
オフ	効果なし
ディレイLCR	左、中央、右の3つの位置でかかるディレイ(音を遅らせる)効果
ディレイLR	左右2つの位置でかかるディレイ効果
エコー	「こだま」のようなディレイ効果
クロスディレイ	左右2つのディレイを交差してかけた効果
シンフォニック	豊かで奥行きのある響きを作る効果
ロータリー	ロータリースピーカー(回転スピーカー)を使っているようなビブラート感が得られる効果
トレモロ	音量が周期的に変化する効果
バイブローター	ビブラフォン特有のビブラート
オートパン	音が左右、前後に揺れ動くような効果
フェイザー	位相を周期的に変化させ、音にうねりを持たせる効果
オートワウ	ワウフィルターの中心周波数を周期的に変化させる効果
ディストーション	音をひずませる効果

■ ペダル機能リスト

機能	説明	割当可能なペダル ○:可能 ×:不可		
		左ペダル	中ペダル	右ペダル
サステイン(スイッチ)	オン/オフスイッチ式のダンパー	○	○	○
サステイン(連続)	踏み込むほど音が長く伸びるダンパー(19ページ)	×	×	○
ソステヌート	ソステヌート(19ページ)	○	○	○
ソフト	ソフト(19ページ)	○	○	○
ピッチバンドアップ	音の高さを連続的に上げる機能	×	×	○
ピッチバンドダウン	音の高さを連続的に下げる機能	×	×	○
ロータリースピード	メローオルガンのロータリースピーカーの回転数の変化(踏むごとに速い/遅いが切り替わる)	○	○	○
バイブローター	ビブラフォンのビブラートのオン/オフ(踏むごとにオン/オフが切り替わる)	○	○	○

曲メニュー

曲メニューでは、曲再生に関するさまざまな設定や、曲データを一括で修正できます。

NOTE

- ・ * が付いている項目は、MIDI曲が選ばれているときのみ表示され、オーディオ曲選択時は表示されません。
- ・ ** が付いている項目はオーディオ曲が選ばれているときのみ表示されます。
- ・ 「編集」の機能を使う場合は、デモ曲、クラシック50選、名曲セレクション、レッスン以外のMIDI曲を選んでください。
- ・ 「実行」は、現在選択されている曲データを修正する機能です。[>]ボタンを押すことで曲データが書き換わるので十分ご注意ください。

各項目の呼び出し方：					
必要に応じて曲を選択したあと、[設定]ボタンを何度か押して「曲メニュー」を選択し、[^]/[v]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
L/R*	R、L、その他	—	曲再生をトラックごとにオフ(ミュート)します。詳細な手順は39ページをご覧ください。	On (オン)	On/Off (オン/オフ)
リピート	A-B*	(設定画面)	現在選択されているMIDI曲の一部(A点~B点)を、繰り返し再生する機能(ABリピート)です。詳細な手順は40ページをご覧ください。	Off (オフ)	On/Off (オン/オフ)
	フレーズ*	フレーズマーク	フレーズマークが入っているMIDI曲が選ばれている場合のみ有効です。「リピート」をオンにし、フレーズマークの番号を指定することで、曲の該当フレーズから再生したり、そのフレーズだけを繰り返し再生させたりします。「フレーズ」がオンの場合に[▶/■](スタート/一時停止)ボタンを押すと、カウント音に続いて指定のフレーズ番号から再生が開始され、もう一度[▶/■]ボタンを押すまで繰り返し再生されません。	000	000~その曲の最終フレーズ番号
		リピート			Off (オフ)
曲	(設定画面)		特定の曲だけを順に再生したり、ランダムに再生したりします。詳細な手順は40ページをご覧ください。	Off (オフ)	Off (オフ)、1曲、全て、ランダム
音量	曲 - 鍵盤*	(設定画面)	曲再生音と鍵盤演奏音の音量バランスを調節します。 NOTE 設定は電源が切れても記憶されます。設定を記憶したくない場合は、バックアップ設定(91ページ)を変更してください。	0	Key+64~0~Song+64
	曲 L - R*	(設定画面)	曲再生音の右手パートと左手パートの音量バランスを調節します。	0	L+64~0~R+64
	(設定画面)**		オーディオ曲の音量を調節します。	100	0~127
移調	(設定画面)	—	鍵盤の音の高さを変えずに、再生する曲だけを、半音単位で移調します。たとえば、移調量を「5」に設定すると、「ハ長調」の曲は「ハ長調」で再生されます。 NOTE 外部から入力されたオーディオ音声は移調されません。 NOTE MIDI曲の演奏情報(ノートオン/オフ)をMIDI送信する場合、ノートナンバーは本来の値に移調値を加えた値で送信されます。ノートオン/オフをMIDI受信した場合は、受信したままのノートナンバーで発音します(移調されません)。 NOTE オーディオ曲の移調を変更した場合、曲によっては音質が変わることがあります。	0	-12 (-1オクターブ)~0 (標準ピッチ)~+12 (+1オクターブ)
ファイル	削除	中止	曲を削除します。ファイル操作が可能な曲については、57ページをご覧ください。	—	—
		実行		—	—
	コピー*	中止	MIDI曲のコピーを別の場所に保存します。ファイル操作が可能な曲については、57ページをご覧ください。	—	—
		実行		—	—
	移動*	中止	MIDI曲の保存場所を移動します。ファイル操作が可能な曲については、57ページをご覧ください。	—	—
		実行		—	—

各項目の呼び出し方： 必要に応じて曲を選択したあと、[設定]ボタンを何度か押して「曲メニュー」を選択し、[^]/[v]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
ファイル	オーディオ 変換*	中止	MIDI曲をオーディオ曲に変換します。ファイル操作が可能な曲については、57ページをご覧ください。	—	—
		実行		—	—
	名前の変更	(設定画面)	曲名を変更します。ファイル操作が可能な曲については、57ページをご覧ください。	—	—
編集*	クオンタイズ (演奏タイミング のずれを修正)	クオンタイズ	現在選択されているMIDI曲の各音符の位置を、8分音符や16分音符などのタイミングに正確に移動することで曲データを修正する機能です。 1. クオンタイズでクオンタイズの分解能(修正する音符の単位)を設定します。 2. 強さでクオンタイズをかける効果の強さを設定します。 3. 「実行」にカーソルを合わせて[>]を押すことでデータ修正を実行します。	1/16	「クオンタイズ設定範囲」参照(84ページ)
		強さ		100%	0%~100% 「強さによる修正データの違い」参照(84ページ)
		実行		—	—
	トラック削除 (曲トラックの 削除)	トラック	現在選択されているMIDI曲のデータを、トラックごとに削除する機能です。 1. 「トラック」で削除対象のトラックを選択します。 2. 「実行」にカーソルを合わせて[>]を押すことで、指定トラックのデータ削除を実行します。	トラック1	トラック1~ トラック16
		実行		—	—
	テンポ変更 (曲データの テンポ変更)	中止	選択されているMIDI曲のテンポ値を現在のテンポ値に変更し、曲データとして修正する機能です。曲メニュー画面を呼び出す前に、テンポを変更したい値に設定しておいてください。 「実行」にカーソルを合わせて[>]を押すことで、曲データ修正を実行します。	曲による	—
実行		—		—	
音色変更	トラック	現在選択されているMIDI曲の音色を、トラックごとに現在選択されている音色に変更し、曲データとして修正する機能です。 「実行」にカーソルを合わせて[>]を押すことで、曲データ修正を実行します。	トラック1	トラック1~ トラック16	
	実行		—	—	
その他*	クイックプレイ	—	現在選択されているMIDI曲の冒頭部に無音部分がある場合、クイックプレイをオンに設定することで、音のあるところからすぐに再生開始させることができます。アウフタクト(弱起 = 小節の途中拍から曲が始まること)のMIDI曲を再生する場合に便利な設定です。	On (オン)	On/Off (オン/オフ)
	トラック試聴	トラック	トラック別の中身を確認するために、1トラックだけを選んで再生できます。実際の音が鳴るところからすぐに再生されます。トラック選択後に、「スタート」にカーソルを合わせた状態で[>]ボタンを押している間だけ、選択したトラックが再生されます。	トラック1	トラック1~ トラック16
		スタート			
再生トラック	—	この楽器で再生するトラックを設定できます。「1&2」では、トラック1と2だけが再生され、3から16トラックはMIDI送信されます。「全て」では、トラック1から16すべてが再生されます。	全て	全て、1&2	

NOTE

曲の再生テンポの変更は、[テンポ]ボタンを押して呼び出される画面で設定できます。設定方法については、38ページをご覧ください。

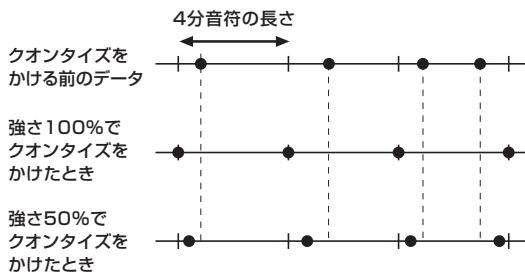
■ クオンタイズ補足説明

クオンタイズ設定範囲

1/4.....		4分音符
1/6.....		3連4分音符
1/8.....		8分音符
1/12.....		3連8分音符
1/16.....		16分音符
1/24.....		3連16分音符
1/32.....		32分音符
1/8+1/12.....		8分音符+3連8分音符*
1/16+1/12...		16分音符+3連8分音符*
1/16+1/24...		16分音符+3連16分音符*

*マークが付いた設定は、同時に異なる2つの音符のタイミングにクオンタイズできます。たとえば、8分音符と3連8分音符の両方のタイミングに録音されているトラックに「8分音符」を選択すると、そのトラックの全音符が8分音符でクオンタイズされてしまい、3連8分音符のタイミングの音がなくなってしまいます。しかし、「8分音符+3連8分音符」に設定すれば、8分音符と3連符の両方のタイミングの音をクオンタイズできます。

強さによる修正データの違い



☐ メトロノーム/リズムメニュー

メトロノーム/リズムメニューでは、メトロノーム再生時(32ページ)またはリズム再生時(45ページ)の音量/テンポ表示のしかたを設定します。また、拍子設定(33ページ)の1拍目にメトロノームのベル音を鳴らすかどうかや、リズムの再生方法に関する設定もできます。

各項目の呼び出し方： 必要に応じて曲を選択したあと、[設定]ボタンを何度か押して「メトロノーム/リズムメニュー」を選択し、[∧]/[∨]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
	(設定画面)	—	メトロノームの拍子を設定します。MIDI曲を選んだり、再生したりすると、選んだ曲の拍子に自動的に変わります。	4/4	2/2、1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、6/4、7/4、3/8、6/8、7/8、9/8、12/8
	(設定画面)	—	メトロノーム/リズムの音量を設定します。これにより、鍵盤演奏の音量とバランスをとります。	82	0~127
	—	—	画面上のテンポ表示の基準音価を、メトロノームの拍子設定(33ページ)に連動させるか、拍子設定に関係なく4分音符基準にするかを設定します。「拍子に連動」を選択した場合、拍子設定の分母値が基準音価になります。(ただし、拍子が「6/8」「9/8」「12/8」に限り、符点4分音符が基準音価になります。)	拍子に連動	拍子に連動、4分音符
	—	—	設定された拍子(33ページ)の1拍目で、メトロノームのベル音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。	On (オン)	On/Off (オン/オフ)
	—	—	リズム再生開始時にイントロを再生する(オン)か、しない(オフ)かを設定します。 NOTE イントロをオンに設定した場合でも、曲再生中にリズム再生を開始した場合は、イントロは再生されません。	On (オン)	On/Off (オン/オフ)
	—	—	リズム再生終了時にエンディングを再生する(オン)か、しない(オフ)かを設定します。	On (オン)	On/Off (オン/オフ)
	—	—	鍵盤を弾くと同時にリズムをスタートさせる(オン)か、させない(オフ)かを設定します。 この機能を使うには、以下の操作を行ってください。 1. この機能をオンにする。 2. [リズム]ボタンを押してシンクロスタート待機状態に入る。 [リズム]ボタンが点滅する。 3. 鍵盤を弾いて、リズムをスタートさせる。	Off (オフ)	On/Off (オン/オフ)
	—	—	リズムにベースの自動伴奏を付ける(オン)かつかないか(オフ)を設定します。	On (オン)	On/Off (オン/オフ)

■ テンポを設定する

メトロノーム/リズムのテンポは、[テンポ]ボタンを押して呼び出される画面で設定できます。詳しくは32ページをご覧ください。

🔍 録音メニュー

録音メニューでは、MIDI録音(46ページ)の詳細な条件を設定します。

各項目の呼び出し方： 必要に応じて曲を選択したあと、[設定]ボタンを何度か押して「録音メニュー」を選択し、[^]/[v]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
	—	—	既存MIDI曲への上書き録音時のための設定で、MIDI録音開始の操作後に実際に録音が始まるタイミングを指定します。「標準」を選択した場合、録音開始の操作と同時に、実際の録音も始まります。鍵盤を弾いていなくても無音部分として録音されます。「押鍵」を選択した場合は、録音開始の操作をしたあと、鍵盤を弾いたときに初めて実際の録音が始まります。	標準	標準、押鍵
	—	—	既存MIDI曲への上書き録音時のための設定で、MIDI録音終了の操作後に、終了したタイミング以降の曲データを消す(差し替え)か残す(パンチアウト)かを設定します。	差し替え	差し替え、パンチアウト
	—	—	リズム再生をMIDI録音する(オン)/しない(オフ)を設定します。オンにした場合は、トラック9~10に演奏が録音されます。	On (オン)	On/Off (オン/オフ)

🔊/🔊 システムメニュー

システムメニューでは、楽器全体にかかわる設定を行ないます。

システムメニューのアイコンは、Bluetoothに対応しているかどうかで表示が異なります。

🔊 : SCLP-7450

🔊 : SCLP-7350

NOTE

* が付いている項目は、デュオがオンの場合のみ表示されます。

各項目の呼び出し方： [設定]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[△]/[▽]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
Bluetooth (SCLP-7450)	Bluetooth	(設定画面)	Bluetooth機能のオン/オフを設定します(75ページ)。	On (オン)	On/Off (オン/オフ)
	ペアリング	(設定画面)	Bluetooth機器の登録(ペアリング)を行ないます(74ページ)。 NOTE この項目はBluetooth(上記)がオンの場合のみ表示されます。	—	—
チューニング	音の高さ (マスターチューニング)	(設定画面)	楽器全体の音の高さを微調整します。ほかの楽器との合奏やCDの再生に合わせて演奏するときなどに、それらのピッチ(音の高さ)と楽器本体のピッチを正確に合わせたい場合に使います。 NOTE ここでの設定は、ドラムキットやオーディオ曲再生音のピッチには影響しません。また、MIDI曲には記録されません。	A3 = 440.0Hz	A3 = 414.8Hz ~466.8Hz (約0.2Hz単位)
	音律	(設定画面)	現代のピアノはほとんどの場合、「平均律」と呼ばれる12オクターブを12分割した音律で調律(チューニング)されています。デジタルピアノでも初期設定は「平均律」ですが、16~19世紀に使われていた音律をワンタッチで呼び出し、当時の音律で演奏することも可能です。	平均律	「音律リスト」を 参照(90ページ)
	基音	(設定画面)	上記で選択した音律の基音(演奏する曲の調の主音)を設定します。上記で「平均律」以外を選んだときは、基音の設定が必要です。 NOTE 音律で「平均律」を選んでいる場合は、「--」表示となり、値の変更はできません。	C	C、C#、D、 E♭、E、F、 F#、G、A♭、 A、B♭、B
鍵盤	タッチ	(設定画面)	鍵盤を弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感度)を選びます。 ・ ソフト2 : 弱いタッチで大きい音を出すことができます。 ・ ソフト1 : ソフト2とミディアムの間です。 ・ ミディアム : 標準的なタッチです。 ・ ハード1 : ハード2とミディアムの間です。 ・ ハード2 : 強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。 ・ 固定 : タッチによる強弱は付かず一定のボリュームが出ます。 NOTE ここでの設定は、MIDI録音されたりMIDI出力されたりしません。	ミディアム	ソフト2、 ソフト1、 ミディアム、 ハード1、 ハード2、 固定
	ペロシティ	(設定画面)	タッチを「固定」にした場合のペロシティー値(音量)を設定します。 NOTE ここでの設定は、MIDI録音されたりMIDI出力されたりしません。	64	1~127

各項目の呼び出し方： [設定]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[^]/[v]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
鍵盤	デュオ	(設定画面)	鍵盤を2つの領域に分けて、同じ音域でデュオ演奏ができるよう設定します(30ページ)。	Off (オフ)	On/Off (オン/オフ)
	タイプ	—	デュオのとき、左右のスピーカーから鳴らす音のバランスを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・セバレート: 鍵盤の左側領域の音を左側のスピーカーから、右側領域の音を右側のスピーカーから鳴らします。 ・バランス: 両奏者の演奏音を両方のスピーカーから自然なバランスで鳴らします。 	セバレート	セバレート、バランス
	スプリットポイント*	(設定画面)	デュオをオンにしたときのスプリットポイント(鍵盤の右手領域と左手領域の境め)を設定します。	E3 (デュオ)	A-1~C7
ペダル	ハーフペダルの位置	(設定画面)	ペダル機能が「サステイン連続」に設定されている場合のみ有効な項目で、右ペダルを、どのくらい踏み込めば「サステイン連続」(81ページ)の効果が効き始めるのかを設定します。	0	-2 (浅い位置で効く)~0~+4 (深い位置で効く)
	ソフトペダルの深さ	(設定画面)	機能として「ソフト」(81ページ)が割り当てられたペダルにつき、そのかかり具合を設定します。	5	1~10
	ピッチベンドの範囲	(設定画面)	機能として「バンドアップ」または「バンドダウン」(81ページ)が割り当てられたペダルにつき、ピッチ(音の高さ)を連続的に変化させる幅を、半音単位で設定します。 NOTE 一部の音色では、ピッチベンドの範囲の設定どおりに音の高さが変化しない場合があります。	2	0~+12 (ペダルを踏むと12半音<1オクターブ>上がる/下がる)
	再生/一時停止	(設定画面)	パネル上の[▶/■](スタート/一時停止)ボタンの機能をいずれかのペダルに割り当てます。ここで[▶/■]ボタンの機能を割り当てられたペダルにつき、音色メニューで割り当てられた機能(80ページ)は無効になります。	Off (オフ)	Off (オフ)、左ペダル、中ペダル
音響	プリリアンス	(設定画面)	鍵盤演奏音の明るさ(プリリアンス)を設定します。「ユーザー」を選んでオリジナルのEQを設定します。詳しくは28ページをご覧ください。	標準	メロ- 1~3、標準、フライト1~3、ユーザー
	IAC	—	IACのオン/オフを設定します。IACについて詳しくは17ページをご覧ください。	On (オン)	On/Off (オン/オフ)
	IACの深さ	(設定画面)	IACの効果のかかり具合を設定します。値が大きいほど、音量が小さいときの低音や高音がよりしっかりと聞こえるように補正されます。	0	-3~+3
	バイノーラル	—	ヘッドホン接続時の動作を設定します。オンの場合は、ヘッドホン接続時にバイノーラルサンプリングおよびステレオフォニックアップティマイザーによる臨場感のある音が楽しめます(18ページ)。	On (オン)	On/Off (オン/オフ)
MIDI	MIDI出力	(設定画面)	楽器本体の鍵盤演奏を、USB [TO HOST]端子およびMIDI [OUT]端子から送信するときのチャンネルを設定します。デュオがオンの場合は以下チャンネルにてMIDI送信されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・右側の音色による演奏 = n (設定値) ・左側の音色による演奏 = n+1 	チャンネル1	チャンネル1~チャンネル16、オフ(送信しない)
	MIDI入力	(設定画面)	MIDI [IN]端子およびUSB [TO HOST]端子から受信したMIDIメッセージの各チャンネルにつき、楽器本体のどのパートの演奏をコントロールするかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲: 曲パートをコントロールします。 ・鍵盤: 鍵盤演奏をコントロールします。 ・R: 右側の音色による鍵盤演奏をコントロールします。 ・L: 左側の音色による鍵盤演奏をコントロールします。 ・オフ: 受信しません。 	全チャンネルにつき、「曲」	各チャンネルにつき、 <ul style="list-style-type: none"> ・曲 ・鍵盤 ・R ・L ・Off (オフ)

各項目の呼び出し方： [設定]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[^]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
MIDI	ローカル コントロール	—	通常、鍵盤を弾くと楽器本体の「音源部」から音が鳴ります。この状態を、ローカルコントロール=オンといいます。ローカルコントロールをオフにすると「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いても本体から音が出なくなります。ただし、鍵盤演奏の情報はMIDI送信されるので、本体では音を鳴らさずにMIDI接続した外部MIDI音源の音が鳴ります。	On (オン)	On/Off (オン/オフ)
	受信 パラメーター	(設定画面)	外部から受信するMIDIメッセージにつき、その種類ごとに、受信する(オン)かしない(オフ)かを設定します。 ■ MIDIメッセージの種類 ノート、コントロールチェンジ、プログラムチェンジ、ピッチベンド、システムエクスクルーシブ	全メッセージ につき 「On (オン)」	各メッセージに つき、 • On (オン) • Off (オフ)
	送信 パラメーター	(設定画面)	楽器本体での演奏で発生するMIDIメッセージの種類ごとに、外部に送信する(オン)かしない(オフ)かを設定します。 ■ MIDIメッセージの種類 ノート、コントロールチェンジ、プログラムチェンジ、ピッチベンド、システムリアルタイム、システムエクスクルーシブ	全メッセージ につき 「On (オン)」	各メッセージに つき、 • On (オン) • Off (オフ)
	初期設定送信	中止 実行	楽器本体に接続した外部MIDI機器/コンピューターなどへ、音色選択などのパネル設定データを送信します。外部MIDI機器やコンピューターにMIDI録音する前にこの機能を実行しておけば、録音データの先頭にパネル設定が記録され、あとで再生するときに録音時のサウンドが正確に再現されます。 ■ 操作： 「実行」にカーソルを合わせ、[>]ボタンを押すと、パネル設定がMIDI送信されます。	—	—
バック アップ	バックアップ 設定	—	本体設定のバックアップやリストア(復元)、初期化を行ないます。これらの説明は、91～92ページをご覧ください。	—	—
	バックアップ	—			
	リストア	—			
	ファクトリー リセット	—			
ユーティリ ティ	USB フォーマット (初期化)	中止	USB [TO DEVICE]端子に接続したUSBフラッシュメモリーをフォーマット(初期化)します。 注記 フォーマットを実行すると、USBフラッシュメモリーに保存されているデータがすべて消去されます。大切なデータはコンピューターなど、他の記憶装置に保存しておいてください。 NOTE USBフラッシュメモリーによっては、USB [TO DEVICE]接続したときに、フォーマットを促すメッセージが表示されます。その場合は、フォーマットを実行してください。 ■ 操作： 「実行」にカーソルを合わせ、[>]ボタンを押すとフォーマットが開始されます。フォーマットが完了したらメッセージが表示され、数秒後にユーティリティ画面に戻ります。	—	—
		実行	USBフラッシュメモリーによっては、USB [TO DEVICE]接続したときに、フォーマットを促すメッセージが表示されます。その場合は、フォーマットを実行してください。 ■ 操作： 「実行」にカーソルを合わせ、[>]ボタンを押すとフォーマットが開始されます。フォーマットが完了したらメッセージが表示され、数秒後にユーティリティ画面に戻ります。 注記 「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外したりしないでください。データの破損の原因になります。	—	—
	USBプロパティ	—	USB TO DEVIEC端子に接続されているUSBフラッシュメモリーの空き容量や全体容量を表示します。 	—	—

各項目の呼び出し方： [設定]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[^]/[v]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
ユーティリティ	USB自動ロード	—	この項目を「オン」に設定することにより、USB [TO DEVICE]端子にUSBフラッシュメモリーを接続したと同時に、USBフラッシュメモリーのルートにある(フォルダーに入っていない)曲を自動で呼び出せます(画面に表示されます)。	Off (オフ)	On (オン)/ Off (オフ)
	スピーカー	(設定画面)	本体スピーカーを鳴らす(オン)/鳴らさない(オフ)を切り替えます。 <ul style="list-style-type: none"> 標準: ヘッドホンが接続されていないときだけスピーカーが鳴ります。 オン: 常にスピーカーが鳴ります。 オフ: スピーカーは鳴りません。 	標準	標準/On (オン)/ Off (オフ)
	コントラスト	(設定画面)	画面のコントラストを調整します。	0	-5~+5
	オート パワーオフ	(設定画面)	オートパワーオフ機能により電源が自動オフされるまでの時間を設定します。自動的に電源をオフにたくない場合は、「オフ」を選びます。 ■ オートパワーオフの簡単解除  左端の鍵盤を押したまま電源を入れると、オートパワーオフ解除を知らせるメッセージが表示され、オートパワーオフ機能が解除されます。	30 (分)	Off (オフ)、5、 10、15、30、 60、120 (分)
	オーディオ ループバック	—	コンピューターやスマートデバイスからのオーディオ入力音を、楽器での演奏音と一緒に、コンピューターやスマートデバイスに出力する(オン)/しない(オフ)を設定します。詳しくは65ページをご覧ください。	On (オン)	On (オン)/ Off (オフ)
	バージョン	—	この楽器のモデル名とファームウェアのバージョンを表示します。	—	—
	無線LAN、 無線LANオプ ション		別売の無線LANアダプター接続時に各種設定を行いません。これらの項目については、72ページをご覧ください。		

■ 使用できる文字一覧

0~9	A~Z	a~z	ア~ン	ア~オ	ヤ	ユ	ヨ	ツ	°	—	。								
[]	,	.	!	#	\$	%	&	'	()	+	-	;	=	@	[]	^
_	{	}	~	.															

■ 音律リスト

平均律	1オクターブを12の間隔で等分した音律。現在もっともポピュラーなピアノの調律法。
純正律「長調」/「短調」	自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特徴。現在でも合唱のハーモニーなどで見られる。
ピタゴラス音律	ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律。3度はうなりが生じるが4度と5度の音程が美しく、旋律の演奏に向いている。
中全音律	ピタゴラス音律の3度のうなりをなくすために改良された音律。16世紀後半から18世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用した。
ヴェルクマイスター /キルンベルガー	中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせかたが異なる。転調により曲想が変化するのが特徴。バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハーブシコード (= チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられる。

■ バックアップ設定

(電源をオフしても設定が消えない項目を選ぶ)

この機能により、バックアップ設定(下記)の一部の設定が、電源が切れても記憶されるかどうかを設定します。バックアップ設定は、「音色」(音色選択などさまざまな関連設定)と「その他」(繰り返し再生やチューニングなどの設定)の2グループに分かれており、それぞれ個別に記憶されるかどうかを設定できます。

電源をオフにしても消えないデータ/設定

- 本体内部メモリーの「ユーザー」カテゴリに保存されるMIDI曲
- システムメニュー
Bluetooth On/Off
鍵盤(デュオタイプのみ)
ユーティリティ
- バックアップ設定(本項で説明)

1. [設定] ボタンを何回か押して、システムメニュー画面を選びます。
2. [△]/[▽] ボタンを押して「バックアップ」を選び、[>] ボタンで次の画面を呼び出したあと、[△]/[▽] ボタンで「バックアップ設定」を選びます。
3. [>] ボタンと[△]/[▽] ボタンで「音色」を選び、[>] ボタンで「オン」または「オフ」を選びます。

「音色」には下記項目があります。

- 音色メニューの全項目(移調以外)

4. [△]/[▽] ボタンで「その他」を選択し、[>] ボタンで「オン」または「オフ」を選びます。

「その他」には下記項目があります。

- 曲メニュー：曲リピート、曲 - 鍵盤、クイックプレイ、再生トラック
- メトロノーム/リズムメニュー：音量、BPM、ベル、イントロ、エンディング、ベース
- システムメニュー：チューニング、鍵盤(デュオを除く)、ペダル、音響、MIDI

5. [戻る] ボタンでシステムメニュー画面を抜けます。

■ バックアップ

(バックアップファイルを保存する)

この機能により、本体内部に作られたデータ/設定をUSBフラッシュメモリーにバックアップファイル(ファイル名：「SCLP-***.bup」)として保存できます。このバックアップファイルは、あとで楽器本体に呼び戻すことができます。

注記

- この機能の実行には1~2分の時間がかかります。
- 実行中(「操作を実行しています」が表示されている間)は電源を切らないでください。データ損失の原因になります。
- すでに同じバックアップファイル(SCLP-***.bup)がUSBフラッシュメモリーに保存されている場合、この機能の実行によりファイルは書き換えられます。

1. USBフラッシュメモリーをUSB [TO DEVICE] 端子に接続します。
2. [設定] ボタンを何回か押して、システムメニュー画面を選びます。
3. [△]/[▽] ボタンを押して「バックアップ」を選び、[>] ボタンで次の画面を呼び出したあと、[△]/[▽] ボタンで「バックアップ」を選びます。
4. [>] ボタンで次の画面を呼び出したあと、[△]/[▽] ボタンで「実行」を選びます。
5. [>] ボタンでバックアップを実行します。
6. [戻る] ボタンでシステムメニュー画面を抜けます。

NOTE

バックアップファイル内の設定を呼び戻したい場合は、リストア機能(92ページ)を実行します。

■ リストア

(バックアップファイルを読み込んで再起動する)

この機能により、バックアップ機能(91ページ)で保存したバックアップファイル(ファイル名:「SCLP-***.bup」)を楽器本体に読み込むことができます。

注記

- この機能の実行には1~2分の時間がかかります。
- 実行中(「操作を実行しています」が表示されている間)は電源を切らないでください。データ損失の原因になります。
- 重要なデータが本体内部メモリーにある場合は、リストアを実行する前に、60ページの操作に従って必ずUSBフラッシュメモリーなど本体外部へ移してください。リストア実行により、これら重要なデータが消えてしまうので十分ご注意ください。

1. バックアップファイルが入っているUSBフラッシュメモリーを、USB [TO DEVICE]端子に接続します。
2. [設定]ボタンを何回か押して、システムメニュー画面を選びます。
3. [∧]/[∨]ボタンを押して「バックアップ」を選び、[>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[∧]/[∨]ボタンで「リストア」を選びます。
4. [>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[∧]/[∨]ボタンで「実行」を選びます。
5. [>]ボタンでリストアを実行します。

リストアが終わるとメッセージが表示され、数秒後に楽器が再起動されます。

■ ファクトリーリセット

(工場出荷時の状態を呼び出して再起動する)

この機能により、楽器本体を工場出荷時の状態に戻せます。以下の点にご注意ください。

- バックアップ設定(91ページ)は初期設定に戻ります。
- 「ユーザー」カテゴリーに保存されている曲は消去されません。
- (SCLP-7450) Bluetooth (74ページ)のペアリング情報は消去されません。

注記

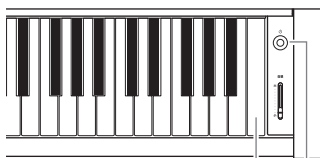
この機能の実行中(「楽器を初期化しています」が表示されている間)は電源を切らないでください。データ損失の原因になります。

1. [設定]ボタンを何回か押して、システムメニュー画面を選びます。
2. [∧]/[∨]ボタンを押して「バックアップ」を選び、[>]ボタンで次の画面を呼び出したあと[∧]/[∨]ボタンで「ファクトリーリセット」を選びます。
3. [>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[∧]/[∨]ボタンで「実行」を選びます。
4. [>]ボタンでファクトリーリセットを実行します。

ファクトリーリセットが終わるとメッセージが表示され、数秒後に楽器が再起動されます。

● 工場出荷時の状態に戻す他の方法

右端の白鍵(C7)を押したまま電源をオン([⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押す)にしても、初期設定に戻すことができます。ユーザーに保存した曲は消去されません。Bluetooth (SCLP-7450)のペアリング情報も消去されません。



C7
【⏻】(スタンバイ/オン)スイッチ

音色一覧

音色グループ	音色名	ステレオ サンプリング	タッチ 感度	キーオフ サンプリング	VRM	音色 デモ	音色紹介
ピアノ (CFX& ベゼン ドルファー)	CFX グランド	○	○	○	○	○	ヤマハのコンサートグランドピアノCFXです。弱く弾いた音から強く弾いた音までのダイナミックレンジが広く、表情豊かな演奏ができます。あらゆるジャンルの演奏に最適です。ヘッドホンを接続したときは、ヘッドホン専用にサンプリングされた音に自動で切り替わります。
	ベゼンドルファー	○	○	○	○	○	ウィナーートンで有名なベゼンドルファー社のコンサートグランドピアノ、インベリアルです。ピアノの大きさを感ぜさせる広がりある音の特徴で、曲の優しさを表現するのに最適です。ヘッドホンを接続したときは、ヘッドホン専用にサンプリングされた音に自動で切り替わります。
ピアノ コレクション	コンサート グランド 1	○	○	○	○	○	ホールで使用するコンサート用のグランドピアノです。明るく華やかで、速くまで音がよく届きます。コンサート グランド 1ははっきりとした音色、2は少し柔らかい音色です。
	コンサート グランド 2	○	○	○	○	○	
	グランド ピアノ 1	○	○	○	○	○	学校やピアノ教室でよく弾かれているグランドピアノです。フランスのとれたハーモニーが特徴です。グランドピアノ 1は少しはっきりとした音色、2は丸みのある音色です。
	グランド ピアノ 2	○	○	○	○	○	
	アップライト ピアノ 1	○	○	-	○	○	家庭でも弾かれることの多いアップライトピアノの音です。アップライト ピアノ 1はヤマハのSU7の音、特有の軽快な響きをお楽しみください。アップライト ピアノ 2は1よりも柔らかい音色です。
	アップライト ピアノ 2	○	○	-	○	○	
	ジャズ ピアノ	○	○	○	○	○	個性的なキャラクターをもつピアノです。ジャズに最適です。
	ホンキートンク ピアノ	○	○	-	○	○	調律がずれたアップライトピアノの音です。コミカルなキャラクターをお楽しみください。
	モダン ピアノ 1	○	○	○	○	-	様々なスタイルの音楽が生まれた近現代期の作曲家の曲や、ポップスやロックなどの曲調にも合うピアノの音です。モダン ピアノ 1は明るく抜けのある音色、2はキレのある明るい音色です。
	モダン ピアノ 2	○	○	○	-	○	
	ロマンティック ピアノ 1	○	○	-	-	○	ロマンティック ピアノ 1は19世紀にパリのピアノメーカーが作った、ロマン派のクラシック曲によく合うピアノの音です。ショパンは繊細なタッチを表現してくれるこのメーカーのピアノをとて愛しました。甘く時に切ない歌声のような音の特徴です。2は、深い余韻が特徴的で、色鮮やかなニュアンスが表現できます。
	ロマンティック ピアノ 2	○	○	-	-	○	
	クラシカル ピアノ 1	○	○	-	-	○	クラシカル ピアノ 1は18世紀後半にウィーンの楽器製作者が作った古典派のクラシック曲によく合うピアノの音です。モーツァルトやベートーヴェンは、この製作者のピアノを高く評価し、演奏していました。輪郭のはっきりとした軽やかな音の特徴です。2は、丸みのあるアタックとキレの良い余韻で、速いパッセージの粒立ちがはっきりと聞こえます。
	クラシカル ピアノ 2	○	○	-	-	○	
	パロック ピアノ 1	○	○	○	-	○	ピアノが発明された1700年代から、18世紀前半にかけてのピアノをイメージさせる音で、西洋音楽史のはじまりとも言われているパロック時代のクラシック曲によく合います。パロック ピアノ 1はハーブシコードに近い音色、2はより太い音が出ます。
	パロック ピアノ 2	○	○	○	-	○	
サウンド コレクション	ステージ エレピ	-	○	○	-	○	音叉をハンマーでたたいて発音させる仕組みの電気ピアノです。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
	DX エレピ	-	○	-	-	○	FMシンセサイザーによる電子ピアノです。タッチの強弱に応じて音色の変化も楽しめます。ポップスに最適です。
	ピンテージ エレピ	-	○	○	-	-	薄い金属片をハンマーでたたいて発音させる仕組みの電気ピアノです。ロック、ポップスによく使われています。
	ソフト エレピ	-	○	○	-	-	電気ピアノの独特なバッキング効果を持つ音です。静かなバラードの曲に合います。
	フェイザー エレピ	-	○	○	-	-	個性的なフェイザー効果で、フュージョンにマッチする電気ピアノです。
	トレモロ ピンテージ	-	○	○	-	-	ピンテージ エレピにトレモロ効果を付加した音です。ロック音楽によく使われます。
	ピアノ & DX	○	○	-	-	-	ピアノにDX エレピを重ねた音です。クリスマスのイルミネーションのようなキラキラ輝く音をお楽しみください。
	ピアノ & シンセパッド	○	○	-	-	-	ピアノにシンセパッドを重ねた音です。ゆったりとした幻想的な曲に合います。

音色グループ	音色名	ステレオ サンプリング	タッチ 感度	キーオフ サンプリング	VRM	音色 デモ	音色紹介
サウンド コレクション	ハーブシコード 8'	○	—	○	—	○	バロック音楽でよく使われるハーブシコードです。タッチによる音量変化はなく、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。
	ハーブシコード 8'+4'	○	—	○	—	—	オクターブ上の音がミックスされたハーブシコードです。より華やかさが感じられます。
	オルガン プリンシパル	○	—	—	—	○	プリンシパル系/パイプオルガンの混合音栓(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽に適しています。
	オルガン トットティ	○	—	—	—	—	バッハの「トッカータとフーガ」の冒頭で有名な、パイプオルガンのフルカブラーの音です。
	ジャズ オルガン スロー	—	—	—	—	○	電気オルガンのロータリースピーカーがゆっくり回転している時の音です。ジャズ、ロックなどの音楽でよく用いられます。
	ジャズ オルガン ファスト	—	—	—	—	—	電気オルガンのロータリースピーカーが速く回転している時の音です。ジャズ オルガン スローとファストを切り替えると、曲の変化を持たせることができます。
	メロー オルガン	—	—	—	—	—	落ち着いた曲にあう電気オルガンです。左のペダルで、ロータリースピーカーの回転の速い/遅いを切り替えることができます。
	ストリングス	○	○	—	—	—	立ち上がり鋭い弦楽合奏です。
	スロー ストリングス	○	○	—	—	—	立ち上がりの緩やかな弦楽合奏です。
	クワイア	—	○	—	—	—	空間に広がる心和む合唱です。スローな曲で和音の広がりが得られます。
	シンセ パッド	—	○	—	—	—	温かく広がりのあるシンセ音色です。アンサンブルのバックの通奏音に最適です。
	ピブラフォン	○	○	—	—	—	広がりがあり澄んだ音色の鉄琴です。左のペダルでピブラートのオン/オフを切り替えることができます。

キーオフサンプリングとは

鍵盤を離れたときの微妙な発音をサンプリングしたものです。

NOTE

「CFXグランド」と「ベーゼンドルファー」の音色はグランド・エクスプレッション・モデリングに対応しています。グランド・エクスプレッション・モデリングについて詳しくは26ページをご覧ください。

曲一覧

音色デモ曲

No.	音色名	曲名	作曲者
1	CFX グランド	演奏会用アレグロ	E. グラナドス
2	ペーゼンドルファー	献呈	F. リスト/ R. シューマン
3	コンサート グランド 1	華麗なる大円舞曲	F. F. ショパン
4	コンサート グランド 2	アラバスク 第1番	C. A. ドビュッシー
5	グランド ピアノ 1	即興曲 op.90-2	F. P. シューベルト
6	グランド ピアノ 2	オリジナル	—
7	アップライト ピアノ 1	ソナチネ ヘ長調 Anh.5(2) 第1楽章	L. v. ベートーヴェン
8	アップライト ピアノ 2	炉端で(子供の情景)	R. シューマン
9	ジャズピアノ	Someday My Prince Will Come (いつか王子様が)	F. チャーチル
10	ホンキートンク ピアノ	メイプル・リーフ・ ラグ	S. ジョプリン
11	ロマンティック ピアノ 1	ノクターン 第8番 op.27-2	F. F. ショパン
12	ロマンティック ピアノ 2	ユーモレスク	A. ドヴォルザーク
13	クラシカル ピアノ 1	ソナタ 第16(15)番 ハ長調 K.545 第1楽章	W. A. モーツァルト
14	クラシカル ピアノ 2	6つのソナチネ 第1 番 ト長調 op.19/ 20-1 第1楽章	J. L. ドゥシーク
15	バロック ピアノ 1	ソナタ ト長調 K.14 L.387	G. D. スカルラッティ
16	バロック ピアノ 2	ガヴォット(フランス 組曲 第5番)	J. S. バッハ
17	ステージ エレピ	オリジナル	—
18	DX エレピ	オリジナル	—
19	ハーブシコード 8'	チェンバロ協奏曲 第7番 ト短調 BWV 1058 第1楽章	J. S. バッハ
20	オルガン プリンシパル	神のひとり子なる主 キリスト (オルガン 小曲集)	J. S. バッハ
21	ジャズ オルガン スロー	オリジナル	—

クラシック50選

No.	曲名	作曲者
アレンジ曲		
1	カノン	J. パッヘルベル
2	G線上のアリア	J. S. バッハ
3	主よ、人の望みの喜びよ	J. S. バッハ
4	きらきら星	トラディショナル
5	ピアノソナタ 第17番「テンペスト」 第3楽章	L. v. ベートーヴェン
6	歓喜の歌	L. v. ベートーヴェン
7	子守唄	F. P. シューベルト
8	華麗なる大円舞曲	F. F. ショパン
9	英雄ポロネーズ	F. F. ショパン
10	ラ・カンパネラ	F. リスト
11	愛のあいさつ	E. エルガー
12	家路	A. ドヴォルザーク
13	シシリエンヌ	G. U. フォーレ
14	月の光	C. A. ドビュッシー
15	木星(組曲「惑星」)	G. ホルスト
連弾曲		
16	メヌエット (アイネ・クライネ・ナハトムジーク)	W. A. モーツァルト
17	メヌエット ト長調	L. v. ベートーヴェン
18	トルコ行進曲	L. v. ベートーヴェン
19	ピアノ協奏曲 第1番 第2楽章	F. F. ショパン
20	くるみ割り人形メドレー	P. I. チャイコフスキー
原曲		
21	前奏曲(平均律第1巻第1番)	J. S. バッハ
22	メヌエット ト長調	J. S. バッハ
23	ピアノソナタ 第15番 第1楽章	W. A. モーツァルト
24	トルコ行進曲	W. A. モーツァルト
25	ピアノソナタ 第8番「悲愴」第2楽章	L. v. ベートーヴェン
26	エリーゼのために	L. v. ベートーヴェン
27	ピアノソナタ 第14番「月光」第1楽章	L. v. ベートーヴェン
28	即興曲 作品90 第2番	F. P. シューベルト
29	春の歌	J. L. F. メンデルスゾーン
30	幻想即興曲	F. F. ショパン
31	別れの曲	F. F. ショパン
32	革命のエチュード	F. F. ショパン
33	小犬のワルツ	F. F. ショパン
34	ノクターン 第2番 変ホ長調	F. F. ショパン
35	ノクターン 第20番 嬰ハ短調 [遺作]	F. F. ショパン
36	トロイメライ	R. シューマン
37	舟歌	P. I. チャイコフスキー
38	乙女の祈り	T. バダジェフスカ
39	愛の夢 第3番	F. リスト
40	花の歌	G. ランゲ
41	ユーモレスク	A. ドヴォルザーク
42	アリエッタ	E. H. グリーク
43	タンゴ(スペインより)	I. アルベニス
44	エンターテイナー	S. ジョプリン
45	メイプル・リーフ・ラグ	S. ジョプリン
46	亜麻色の髪の乙女	C. A. ドビュッシー
47	アラバスク 第1番	C. A. ドビュッシー
48	ケーキウォーク	C. A. ドビュッシー
49	ジユトゥヴ	E. サティ
50	ジムノペディ 第1番	E. サティ

名曲セレクション

No.	曲名	作曲者
ジャズ		
1	Someone to Watch over Me (やさしき伴侶を)	G. ガーシュウィン
2	Someday My Prince Will Come (いつか王子様が)	F. チャーチル
3	Smoke Gets in Your Eyes (煙が目にしみる)	J. D. カーン
4	My Foolish Heart (愚かなりわが心)	V. ヤング
5	How Long Has This Been Going On (いつからこんなに)	G. ガーシュウィン
モダン		
6	プレリュード (ベルガマスク組曲)	C. A. ドビュッシー
7	パスピエ (ベルガマスク組曲)	C. A. ドビュッシー
8	レントより遅く (ワルツ)	C. A. ドビュッシー
9	グラドゥス・アド・バルナッサム博士 (子供の頃分)	C. A. ドビュッシー
10	夢	C. A. ドビュッシー
11	夢のあとに (3つの歌)	G. フォーレ
12	亡き女王のためのパヴァーヌ	M. ラヴェル
13	水の戯れ	M. ラヴェル
14	3つの無言歌 第3番 op.17-3	G. フォーレ
15	愛の挨拶	E. W. エルガー
ロマンティック		
16	ワルツ 第1番 「華麗なる大円舞曲」	F. F. ショパン
17	練習曲 op.10-5 「黒鍵」	F. F. ショパン
18	練習曲 op.25-1 「エオリアンハーブ」	F. F. ショパン
19	前奏曲 第15番 「雨だれ」	F. F. ショパン
20	ノクターン 第1番 op.9-1	F. F. ショパン
21	見知らぬ国と人々 (子供の情景)	R. シューマン
22	鬼ごっこ (子供の情景)	R. シューマン
23	炉端で (子供の情景)	R. シューマン
24	アラベスク 八長調 op.18	R. シューマン
25	メロディ (子供のためのアルバム)	R. シューマン
26	小さな曲 (子供のためのアルバム)	R. シューマン
27	人形の夢と目覚め	T. エステン
28	アルプスの鐘	T. エステン
29	すみれ	J. L. ストリーボック
30	朝の祈り	J. L. ストリーボック
31	ラ・カンパネラ	F. リスト
32	コンソレーション 第3番	F. リスト
33	10月 秋の歌 (四季 12の性格的描写)	P. I. チャイコフスキー
34	ひばりの歌 (子供のアルバム)	P. I. チャイコフスキー
35	紡ぎ歌	A. エルメンライヒ
36	勿忘草	H. リヒナー
37	蝶々 (抒情小品集 第3集)	E. H. グリーグ
38	春に寄す (抒情小品集 第3集)	E. H. グリーグ
39	ノクターン (抒情小品集 第5集)	E. H. グリーグ
40	野ばらに寄す (森のスケッチ)	E. A. マクダウェル
クラシカル		
41	きらきら星変奏曲	W. A. モーツァルト
42	ロンド 二長調 K.485	W. A. モーツァルト
43	6つのメヌエット 第2番 ト長調 WoO.10	L. v. ベートーヴェン
44	ソナチネ ト長調 Anh.5(1) 第1楽章	L. v. ベートーヴェン
45	ソナチネ 第1番 八長調 op.20-1 第1楽章	F. D. R. クーラウ

No.	曲名	作曲者
バロック		
46	メヌエット イ短調	J. P. クリーガー
47	メヌエット ト短調 BWV Anh.115	J. S. バッハ
48	インヴェンション 第4番	J. S. バッハ
49	アリア (ゴルトベルク変奏曲)	J. S. バッハ
50	イタリア協奏曲 第1楽章	J. S. バッハ

レッスン曲

曲集名	No./作品名	作曲者
バイエルピアノ 教則本	第1~106番	F. バイエル
ブルグミュラー 25の練習曲	1 素直な心	J. F. ブルグミュラー
	2 アラベスク	
	3 牧歌	
	4 子供の集会	
	5 無邪気	
	6 進歩	
	7 清い流れ	
	8 優美	
	9 狩猟	
	10 やさしい花	
	11 せきせい	
	12 さようなら	
	13 なぐさめ	
	14 スティリアの女	
	15 バラード	
	16 小さな嘆き	
	17 おしゃべり	
	18 心配	
	19 アベ マリア	
	20 タランテラ	
	21 天使の声	
	22 舟歌	
	23 帰途(かえりみち)	
	24 つばめ	
	25 貴婦人の乗馬	
チェルニー 100番 練習曲	第1~100番	C. チェルニー
チェルニー 30番 練習曲	第1~30番	C. チェルニー
ハノンピアノ教本	第1部 第1~20番、 第1番の変奏 第1~22番	C-L. ハノン

連弾曲について

以下の曲は連弾曲です。

・クラシック50選 No.16~20

・バイエルピアノ教則本 第1~11、32~34、41~44、63~64、86~87

これらの曲では、右手パートが第1奏者右手用、左手パートが第1奏者左手用、その他パートが第2奏者用です。

リズム一覧

カテゴリー	No.	リズム名
ポップ&ロック	1	8ビート
	2	16ビート
	3	シャッフル1
	4	シャッフル2
	5	シャッフル3
	6	ゴスペル
	7	8ビートバラード
	8	6-8スローロック
ジャズ	9	ファストジャズ
	10	スロージャズ
	11	スイング
	12	ジャズワルツ
ラテン	13	サンバ
	14	ボサノバ
	15	ルンバ
	16	サルサ
キッズ&ホリデイ	17	キッズポップ
	18	6-8マーチ
	19	クリスマススイング
	20	クリスマス3-4

メッセージ一覧

メッセージ	内容
オーディオ曲への変換や、再生 / 録音に失敗しました	録音や削除を繰り返し行なったUSBフラッシュメモリーをお使いの場合に、表示されず。USBフラッシュメモリーに必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットし(89ページ)、操作をし直してください。
オーディオに変換します	オーディオ変換中に表示されます。
オーディオへの変換を中止しました	オーディオ変換が中止されました。
お待ちください	データを処理していますので、このメッセージが表示されている間はほかの操作ができません。しばらくお待ちください。
書き込みできないUSBメモリーです	ライトプロテクト機能の付いたUSBフラッシュメモリーに、ファイル操作(57ページ)、録音、保存などをしようとしています。USBフラッシュメモリーを書き込み可にして操作し直してください。書き込みを可にしてもこのメッセージが表示される場合は、USBフラッシュメモリーに内部的なプロテクトがかかっている可能性があります。その場合は、書き込みできません。
楽器を初期化しています。「ユーザー」内の曲は消去されません	初期設定に戻していることを知らせています。楽器の「ユーザー」内の曲は消去されません。
楽器を初期化しました	この楽器の設定を、初期設定に戻しました。
曲データに不具合が発見されました	曲の選択時や再生中に、曲データに不具合が発見されたことを知らせています。もう一度曲を選択し、再生してください。それでもこのメッセージが表示される場合は、曲データが壊れている可能性があります。
曲データ(MIDI/オーディオ)のサイズが制限を超えています	以下の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> 再生しようとした曲のサイズが制限を超えています。サイズの制限は、MIDI: 約500KB、オーディオ: 80分までです。 録音中に、曲のサイズが制限を超えました。サイズの制限は、MIDI: 約500KB、オーディオ: 80分までです。そこで自動的に録音を終了されます。そこまでに録音したデータは保存されます。 MIDI → オーディオ曲の変換中に、曲のサイズが制限を超えました。
曲名が不適切です	曲名の変更(61ページ)の際、以下の原因で表示されます。名前を付け直してください。 <ul style="list-style-type: none"> 入力文字がありません。 曲名の先頭/後尾にピリオドやスペースが入っています。
現在のテンポに変更します	曲のテンポを書き換えようとしています。
現在の音色に変更します	曲の音色を書き換えようとしています。
サポートされていないUSB機器が接続されています	動作確認済みのUSB機器をお使いください(64ページ)。
接続したUSB機器と通信できません	USB機器を接続し直してください(64ページ)。正しく接続してもこのメッセージが表示される場合は、USB機器が壊れている可能性があります。
接続したUSB機器の消費電力が規定値を超えました	通常はバスパワーのUSBハブの使用を推奨していますが、お使いのUSB機器の消費電力が規定値を超えました。電源付き(セルフパワー)のUSBハブをお使いになるか、動作確認済みのUSB機器をお使いください(64ページ)。
接続したUSB機器の数が、この楽器での制限を超えました	同時に使用できるUSB機器は、2台までです。詳しくは、64ページを参照してください。
選択したUSBメモリーへの、ファイル操作はできません	以下の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> フォーマットされていないUSBフラッシュメモリーです。フォーマット(89ページ)してから操作してください。 ファイル数が保存できる数の制限を超えました。楽器の「ユーザー」内やUSBフラッシュメモリーに保存できるファイル数は、1フォルダーに、ファイルとフォルダーを併せて250までです。その制限を超えて保存しようとしたため、表示されました。不要なファイルを削除/移動してから、保存してください。

メッセージ	内容
前回、不正に電源を切ったため、楽器の内部をチェックしています	曲ファイルの操作時(57ページ)や、データのバックアップ中(91ページ)に電源を切り、もう一度電源を入れた場合に表示されます。内部をチェックした結果、楽器の設定が破損している場合は、初期設定に戻ります。楽器の「ユーザー」内の曲が破損している場合は、削除されます。
操作を完了しました	操作の完了を知らせています。「操作を実行しています」メッセージに続いて表示されます。このメッセージが表示されたあと、次の操作へ進めます。
操作を実行しています	操作を実行していますので、このメッセージが表示されている間はほかの操作ができません。しばらくお待ちください。
操作を実行できません	以下の原因が考えられます。原因を解決してから、操作し直してください。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵曲ではできないファイル操作です。操作の制限は、57ページでご確認ください。 空の曲ファイル(47ページ)へはファイルの操作はできません。
操作/録音先の容量やファイル数がいっぱいです	楽器の「ユーザー」内やUSBフラッシュメモリ内の容量やファイル数がいっぱい、操作/録音ができません。「ユーザー」内やUSBフラッシュメモリ内の曲を削除するか、別のUSBフラッシュメモリに移動してから(59~60ページ)、改めて操作/録音してください。
対応していないデータフォーマットです	読み込もうとした曲が、この楽器では対応していないフォーマットです。34ページで対応の曲フォーマットを確認してください。
同名ファイルが存在します	曲ファイルの操作時(57ページ)、同名のファイルが存在することを知らせています。上書きする場合は「上書き」、キャンセルする場合は「中止」を[Λ]/[V]ボタンで選び、[>]ボタンを押します。
バックアップデータの復元が完了しました。楽器を再起動します	リストア(92ページ)が完了したことを知らせています。このメッセージのあと、楽器は再起動されます。
ファイルアクセスに失敗しました	以下の原因が考えられます。以下に該当しない場合は、操作しようとしているファイルが壊れていることが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> ファイルの操作方法が間違っています。「曲ファイルを操作する」(57ページ)や「バックアップ(91ページ)」、「リストア(92ページ)」で操作方法をご確認ください。 接続中のUSBフラッシュメモリは、この楽器では使用できません。使用できるUSBフラッシュメモリについては、64ページをご確認ください。
ファイル数、またはファイルパス長が上限を超えています	楽器の「ユーザー」やUSBフラッシュメモリに保存できるファイル数は、1フォルダーに、ファイルとフォルダーを併せて250までです。その制限を超えて保存しようとしたため、表示されました。不要なファイルを削除/移動して、保存し直してください。
ファイル名が重複しています	曲ファイルの操作時(57ページ)、同名のファイルが存在することを知らせています。ファイル名を変更してください(61ページ)。
フォーマットされていないUSBメモリです	フォーマットされていないUSBフラッシュメモリを使おうとしたため、表示されました。フォーマット(89ページ)してから操作してください。
読み取り専用のファイルです	読み取り専用のファイルは、コンピューターで読み取り専用を解除してからお使いください。
Bluetoothのペアリング中です	Bluetoothのペアリング待機状態です。74ページの説明をご覧ください。
USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました	USB機器をUSB [TO DEVICE]端子から抜き、楽器の電源を入れ直してください。
USBハブが2階層以上になって接続されました	USBハブは1台のみ使用可能です。
USBメモリが楽器本体から外されました	USBフラッシュメモリが外されたことを知らせています。
USBメモリが接続されていません	USBフラッシュメモリを接続し、操作をし直してください。
USB/USER FILES/に移動しました	「ユーザー」内の曲ファイルを、USBフラッシュメモリ内の「USER FILES」フォルダーへ移動したことを知らせています。
USB/USER FILES/にオーディオ変換しました	MIDI曲を、USBフラッシュメモリ内の「USER FILES」フォルダーへオーディオ変換したことを知らせています。
USB/USER FILES/にコピーしました	「ユーザー」内の曲ファイルを、USBフラッシュメモリ内の「USER FILES」フォルダーへコピーしたことを知らせています。

メッセージ	内容
「ユーザー」内に移動しました	USBフラッシュメモリーの曲を、楽器の「ユーザー」へ移動したことをお知らせしています。
「ユーザー」内にコピーしました	USBフラッシュメモリーの曲を、楽器の「ユーザー」へコピーしたことをお知らせしています。
「ユーザー」内/USBメモリーの残り容量が少なくなりました	楽器の「ユーザー」内や USBフラッシュメモリー内の不要なファイルを削除(59ページ)してから、録音を始めてください。
この楽器に異常が発生しました	巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

困ったときは

画面にメッセージが表示された場合は、メッセージ一覧(98ページ)をご参照ください。

現象	原因と解決法
電源が入らない。	プラグが差し込まれていません。DCプラグを本体のDC IN端子に、電源プラグを家庭用(AC 100V)コンセントに、確実に差し込んでください(14ページ)。
電源スイッチを押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。異常ではありません。
電源が勝手に切れる。	故障ではありません。オートパワーオフ機能が働いたためです。オートパワーオフの設定を変更してください(90ページ)。
画面に「USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました」と表示される。また、USB機器が動作しない。	USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました。USB機器をUSB [TO DEVICE]端子から抜き、本体の電源を入れ直してください。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	この楽器の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。異常ではありません。
この楽器から雑音が出る。	この楽器の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。この楽器の近くに携帯電話を置かないでください。
iPhone/iPadなどのスマートデバイスと楽器と一緒に使っているとき、本体スピーカーやヘッドホンから雑音(ノイズ)が出る。	スマートデバイスと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるため機内モードをオンにしてからWi-Fi/Bluetoothをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
全体的に音が小さい。または、まったく音が出ない。	音量が下がっています。[音量]スライダーで音量を上げてください(17ページ)。
	手弾き音の音量が下がっています。曲メニュー画面の「音量」→「曲 - 鍵盤」で調節してください(43ページ)。
	スピーカーの設定が「標準」で(90ページ)、ヘッドホンを接続しているとスピーカーからは音が出ません。ヘッドホンのプラグを抜いてください。
	スピーカーの設定が「オフ」になっています。スピーカーの設定を「標準」または「オン」にしてください。システムメニュー画面の「ユーティリティ」→「スピーカー」(90ページ)。
ヘッドホンを[PHONES]端子に差ししてもスピーカーから音が出る。	スピーカーの設定が「オン」になっています。スピーカーの設定を「標準」にしてください。システムメニュー画面の「ユーティリティ」→「スピーカー」(90ページ)。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[PEDAL]端子にしっかり差し込まれていません。本体の電源を切った状態で、ペダルコードのプラグを[PEDAL]端子に確実に差し込んでください。その際、プラグの金属部分が見えなくなるまで、しっかり差し込んでください(105ページ)。
鍵盤で弾く音が曲の再生音に比べて小さい。	手弾き音の音量が下がっています。曲メニュー画面の「音量」→「曲 - 鍵盤」で調節してください。
ボタンを押しても動作しない。	ほかの機能の動作中にはできない操作がいくつかあります。曲の再生中は曲の再生を止めて、その他の場合は[戻る]ボタンを押して音色画面や曲画面に戻ってから操作してください。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。異常ではありません。
移調やオクターブを設定したときに、高い方や低い方の音がおかしい。	移調やオクターブを設定したときに、発音できる音域はC -2~G8です。C -2より低くなる音は1オクターブ上の音で、G8より高くなる音は1オクターブ下の音で鳴ります。
思わぬパートのデータが消えてしまった。	デュオの左側の録音パートは自動的に決められます(49ページ)。したがって、そのパートに既存のデータがあった場合は、上書きされて消えてしまいます。

現象	原因と解決法
デュオのとき、音が片方のスピーカーからしか聞こえない。	音色により、パンの設定が違うためです。必要に応じて、音色メニュー画面の「音色編集」→「音色名」→「パン」(79ページ)で、設定を切り替えてください。
曲名表示がおかしい。	ほかの楽器で録音した曲の場合は、正しく表示されないことがあります。曲名に使用できない文字が含まれている場合は、使用できる文字一覧(90ページ)を参考に曲名を変更してください(61ページ)。
メニュー画面が表示されない。	曲再生中は、音色メニュー、曲メニュー以外のメニュー画面は表示されません。[▶/■](スタート/一時停止)ボタンを押して曲をストップしてください。また録音モード時は、録音メニュー画面しか表示されません。
リズムがスタートしない。	シンクロ再生が「オン」になっています。メトロノーム/リズムメニュー画面のシンクロ再生の設定を「オフ」にしてください(85ページ)。
鍵盤を弾くと、再生中のメトロノーム、MIDI曲、リズムのテンポがわずかに乱れる。	グランド・エクスプレッション・モデリングが「ダイナミック」の場合に、ごくまれに起きる現象です。このような場合には、「スタティック」に変更してください(26ページ)。
USB無線LANアダプターが接続されているにもかかわらず、画面に無線LANの項目が表示されない。	USB無線LANアダプターを接続し直してください。
Bluetooth対応のスマートデバイスがペアリングまたは接続できない。	スマートデバイスのBluetooth機能が有効か確認してください。Bluetoothでペアリングまたは接続するには、この楽器とスマートデバイス両方のBluetooth機能を有効にする必要があります。
	Bluetooth経由で接続するには、はじめに機器同士をペアリングする必要があります(74ページ)。
	2.4GHz帯の電磁波を発するもの(電子レンジ、無線LAN機器など)が近くにある場合は、電磁波を発するものからこの楽器を離してください。
音色デモと同じリズムが選べない。	音色名「グランドピアノ2」「ステージ エレピ」「DX エレピ」「ジャズ オルガンスロー」の音色デモ曲は、デモ用に特別なドラムやベースのパターンを使っているため、これらのパターンを選んで演奏することはできません。

楽器を組み立てる

組み立て時の注意

⚠ 注意

- 硬くて平らな場所で組み立ててください。
- 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ネジは付属の指定サイズ以外のは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- 解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

ネジのサイズに合ったプラス(+)のドライバーを用意してください。



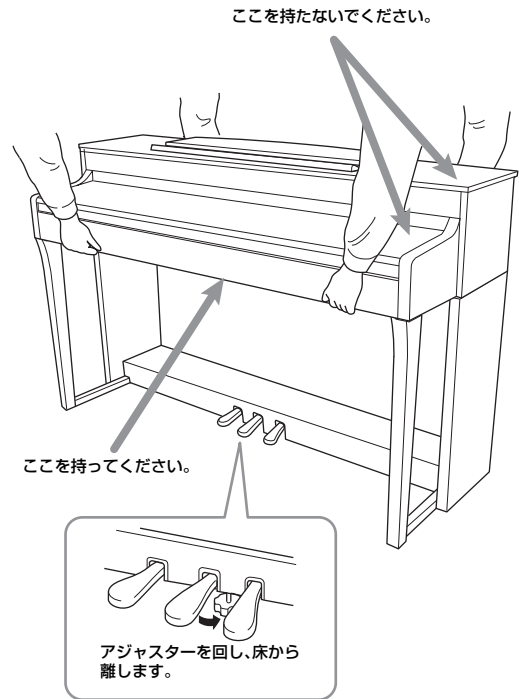
本体を移動するとき

⚠ 注意

- 組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。
- 本体上部の板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

注記

ペダル下のアジャスターを回し、床から離してから移動してください。床を傷つける原因になります。



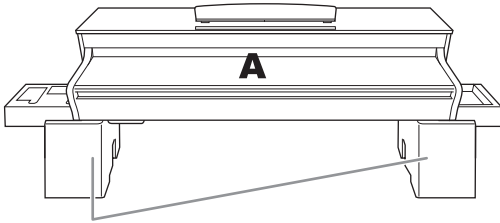
引っ越し時の運搬方法

通常の荷物と一緒に運べます。組み立てた状態でも、組み立て前の部品に解体した状態でも問題ありませんが、本体は立てかけたりせず、必ず水平に置いてお運びください。また、大きな振動、衝撃を与えないでください。組み立てた状態でお運びいただいた場合は、設置の際、各部のネジのゆるみを確認し、ゆるんでいる場合は締め直してください。

⚠ 注意

使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

すべての部品を取り出し、部品がそろっているか確かめてください。



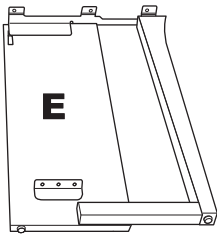
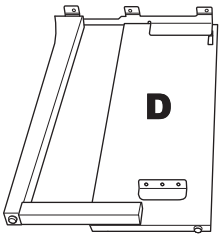
スチロールパッド

スチロールパッドを取り出し、その上にAを置きます。
スチロールパッドは、A底面の端子を避けて配置します。



裏側にペダルコードが束ねてあります。

ペダルには、工場出荷時にビニール袋をかぶせてあります。必ず組み立て前にビニール袋を外してください。



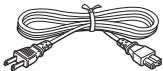
太いネジ(6×20mm)×10



細いネジ(4×12mm)×2



先のとがったネジ(4×20mm)×4



電源コード



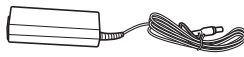
コードホルダー×2



細いネジ(4×10mm)×2

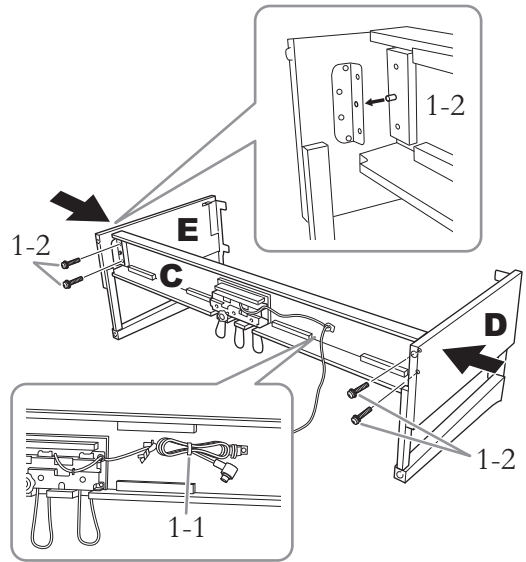


ヘッドホンハンガー



電源アダプター

1. DとEをCに固定します。



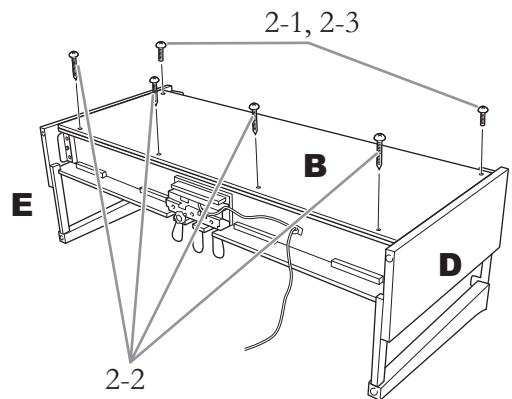
1-1. ペダルコードをほどきます。外したビニールひもは、手順5で使用します。

1-2. 突起を金具に挿入し、太いネジ(6×20mm) 4本できつく締め固定します。

2. Bを固定します。

モデルによっては、Bの裏表で色が違う場合があります。

この場合は、演奏者側から見たときにBの色とD、Eの色が同じになる向きで、Bを取り付けます。



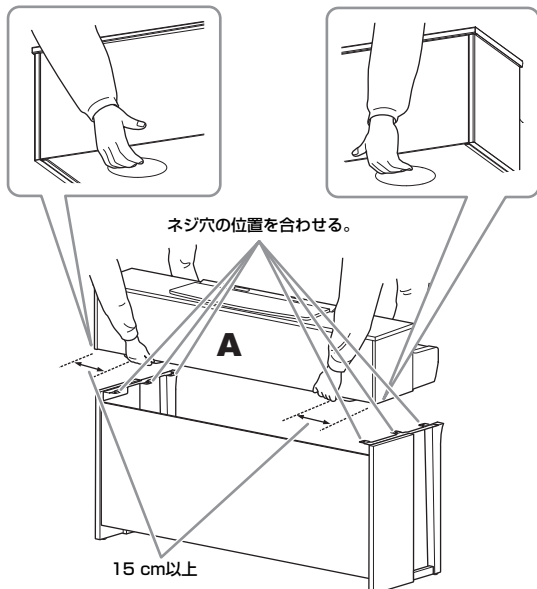
2-1. Bのネジ穴とD、Eのネジ穴の位置を合わせ、上側を細いネジ(4×12mm) 2本で仮留めします。

2-2. 下側を先のとがったネジ(4×20mm) 4本で締め固定します。

2-3. 仮留めした上側のネジ(手順2-1)をきつく締め直します。

3. Aを載せます。

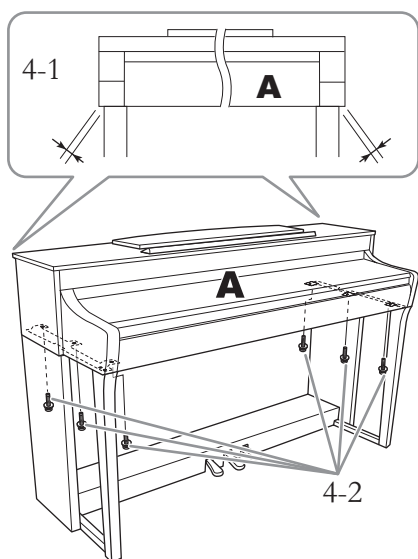
必ず本体底面の端から15cm以上内側を持って載せます。



⚠ 注意

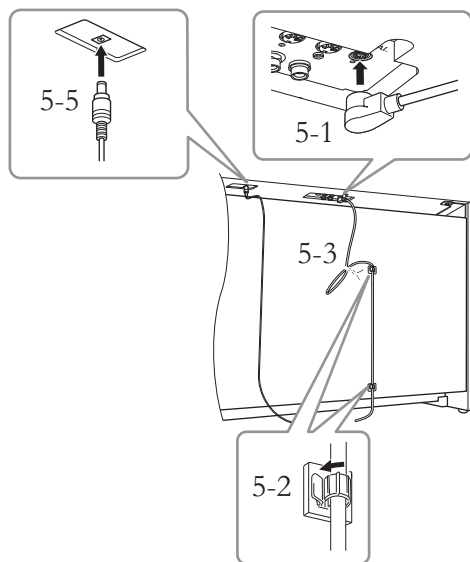
- 指をはさんだり、本体を落としたりしないよう十分ご注意ください。
- 指定した位置以外を持たないでください。

4. Aを固定します。



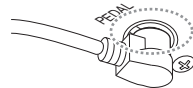
- 4-1. 前面から見て、Aの張り出し部分が左右均等になるように調整します。
- 4-2. 前面から、太いネジ(6×20mm) 6本で固定します。

5. ペダルコードと電源アダプターを接続します。

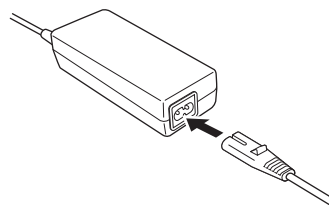


- 5-1. ペダルコードのプラグを[ペダル PEDAL]端子に差し込みます。

プラグの金具部分が見えなくなるまでしっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていない場合、ペダルが機能しない原因になります。



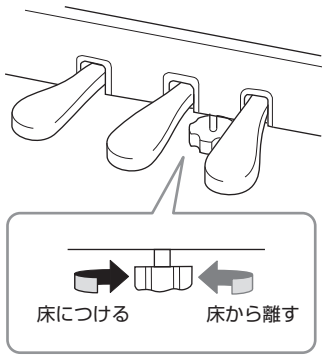
- 5-2. コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定します。
- 5-3. ペダルコードを、ビニールひもで束ねます。
- 5-4. 電源コードの一方の端を電源アダプターに差し込みます。



- 5-5. 電源アダプターのDCプラグを[DC IN]端子に差し込みます。

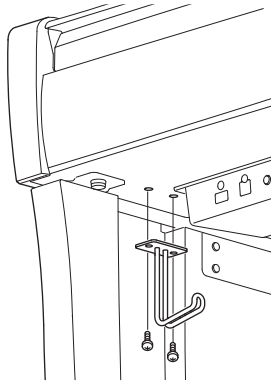
6. アジャスターを回して調節します。

アジャスターを回して、床にぴったりつけます。



7. ヘッドホンハンガーを固定します。

細いネジ(4×10mm) 2本で、図のように取り付けます。



組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？
→ 組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどが楽器にあたりませんか？
→ 楽器を移動してください。
- 楽器がぐらぐらしませんか？
→ ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか？
→ アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源アダプターのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→ 確認してください。

仕様

項目		SCLP-7450	SCLP-7350	
品名		電子ピアノ		
サイズ/質量	寸法	幅×奥行×高さ		
		1461 mm × 459 mm × 927 mm		
	質量	1096 mm	1081 mm	
操作子	鍵盤	鍵盤数	88	
		鍵盤種	グランドタッチ-エス鍵盤 木製(白鍵)、象牙調・黒檀調仕上げ、 エスケープメント付き	グランドタッチ-エス鍵盤 象牙調・黒檀調仕上げ、 エスケープメント付き
		タッチ感度	ハード2、ハード1、ミディアム、ソフト1、ソフト2、固定	
	ペダル	ペダル数	3：ダンパー(ハーフペダル対応)、ソフト、ソステヌート	
		割当可能な機能	サステイン(スイッチ)、サステイン(連続)、ソステヌート、ソフト、 ピッチベンドアップ、ピッチベンドダウン、ロータリースピード、 パイプローター、曲スタート/一時停止	
	ディスプレイ	タイプ	フルドットLCD	
		サイズ	128 x 64 ドット	
		言語	日本語	
	パネル	言語	日本語	
	本体	キーカバー(鍵盤蓋)	スライド式	
譜面立て		○		
譜面止め		○		
音源/音色	音源	ピアノ音	ヤマハ CFXサンプリング、ベーゼンドルファー インベリアルサンプリング	
		パイノールサンプリング	○(「CFXグランド」「ベーゼンドルファー」のみ)	
	ピアノ音源の 効果	VRM	○	
		グランド・エクスプレッション・ モデリング	○	
		キーオフサンプリング	○	
		スムーズリリース	○	
	最大同時発音数	256		
プリセット	音色数	38(ピアノ18)		
効果	タイプ	リバーブ	6種類	
		コーラス	3種類	
		プリリアンス	7種類 + ユーザー	
		エフェクト	12種類	
		インテリジェント・ アコースティック・ コントロール(IAC)	○	
		ステレオフォニック オプティマイザー	○	
	ファンクション	デュオ	○	
録音/再生 (MIDI曲)	プリセット	内蔵曲数	音色デモ曲：21曲、クラシック50選：50曲、名曲セレクション：50曲、 レッスン：303曲	
	録音	曲数	250	
		トラック数	16	
		データ容量	1曲 約500 KB	
	再生	データ容量	1曲 約500 KB	
	フォーマット	録音	SMF(フォーマット0)	
再生		SMF(フォーマット0、フォーマット1)		
録音/再生 (オーディオ)	録音時間(最大)	80分/曲		
	フォーマット	録音	WAV(44.1 kHz、16 bit、ステレオ)	
再生		WAV(44.1 kHz、16 bit、ステレオ)		

項目		SCLP-7450	SCLP-7350	
ファンクション	リズム	プリセット	20	
	全体設定	メトロノーム	○	
		テンポ	5~500	
		移調	-12~0~+12	
		チューニング	414.8~440.0~466.8 Hz (約0.2Hz単位)	
	全体設定	スケール(音律)	7種類	
		USBオーディオインターフェース機能	44.1 kHz、24 bit、ステレオ	
その他	ピアノルーム	○		
Bluetooth 接続	オーディオ	対応プロファイル	A2DP	—
		対応コーデック	SBC	—
	MIDI	Bluetooth Low Energy MIDI Specificationに準拠	—	
	Bluetoothバージョン	4.2	—	
	無線出力	Bluetooth Class 2	—	
	最大通信距離	約10 m	—	
	無線周波数(動作周波数)	2402~2480 MHz	—	
	最大出力電力	4 dBm	—	
変調方式	FHSS	—		
メモリー/ 接続端子	メモリー	内蔵メモリー	約1.4 MB	
		外付けメモリー	USBフラッシュメモリー	
	接続端子	DC IN	24 V	16 V
		ヘッドホン	ステレオ標準フォーン端子(×2)	
		MIDI	[IN] [OUT] [THRU]	
		AUX IN	ステレオミニ端子	
		AUX OUT	[L/L+R] [R]	
		USB TO DEVICE	○	
USB TO HOST	○			
音響	アンプ出力	(50 W + 50 W) × 2	30 W × 2	
	スピーカー	(16 cm + 8 cm) × 2	16 cm × 2	
電源	電源アダプター	PA-500	PA-300C	
	消費電力	40 W	18 W	
	オートパワーオフ	○		
付属品	<ul style="list-style-type: none"> • 取扱説明書 • 保証書 • ヘッドホン • 楽譜集 • 製品登録のご案内 • イス • [SCLP-7450] 電源コード/電源アダプター: PA-500 • [SCLP-7350] 電源コード/電源アダプター: PA-300C 			
別売品	<ul style="list-style-type: none"> • ヘッドホン HPH-150, HPH-100, HPH-50 • [SCLP-7450] 電源アダプター: PA-500 • [SCLP-7350] 電源アダプター: PA-300C • USB無線LANアダプター UD-WL01 • ワイヤレスMIDIアダプター MD-BT01, UD-BT01 			

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

Apache License 2.0

Copyright (c) 2009-2018 Arm Limited. All rights reserved.

SPDX-License-Identifier: Apache-2.0

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the License); you may not use this file except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an AS IS BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.

See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

Modified BSD license

COPYRIGHT(c) 2016 STMicroelectronics

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of STMicroelectronics nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

別売ミュージックデータ紹介

ミュージックデータのご使用にあたって

ミュージックデータをご使用の際は、下記ウェブサイト以案内している動作確認済みのUSBフラッシュメモリーをお使いください。

サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>

*「その他のドキュメント」からモデル名で検索してください。

ヤマハミュージックデータショップ

MIDI形式の曲データ、および楽譜データなどのミュージックデータを、インターネットで購入できるサービスです。J-POPからジャズ、クラシックまで幅広いラインナップをとりそろえており、試聴しながら1曲ずつ簡単に購入できます。

下記のURLからアクセスしてください。

<https://yamahamusicdata.jp/>

「ピアノ演奏用」データ

右手、左手パートなど個別再生して練習したり、お好みのテンポに調整して演奏したりすることができます。

「リスニングピアノソロ」データ

好きな曲の鑑賞やBGM再生を楽しめます。弾き方やアレンジの参考としても活用できます。

Mumaソフト

Muma (ミューマ)とは、ヤマハのお店にあるミュージックデータ販売システムです。お好きなミュージックデータを選び、その場でUSBフラッシュメモリーに収録できます。

* USBフラッシュメモリーはご持参ください。購入前には試聴も可能です。

ミュージックデータの詳細やMuma設置店については、ヤマハミュージックメディアホームページにてご確認ください。

<https://www.ymm.co.jp/muma/>

ヤマハのミュージックデータのほかにも、34ページで説明したフォーマットに該当する、市販の多くのソフトがご利用いただけます。

NOTE

Mumaとヤマハミュージックデータショップで購入できるミュージックデータは、異なります。

索引

A

ABリピート41

B

Bluetooth9, 74

I

IAC17

M

MIDI88

MIDI曲34

MIDIリファレンス2

MIDI録音46

U

USB自動ロード90

USBフラッシュメモリー64

USBフラッシュメモリーの容量89

V

VRM25, 26

W

WPS69

ア

アクセスポイント70

アリコート26

アリコートレゾナンス25

イ

移調(曲)82

移調(鍵盤)78

移動60

インテリジェント・アコースティック・コントロール
(IAC)17

イントロ45

エ

エフェクト79

エフェクトタイプリスト81

エンディング45

オ

オーディオ変換60

オーディオ録音46

オートパワーオフ16

大屋根の開閉25

オクターブ79

音の高さ(マスターチューニング)25, 87

音響88

音色27

音色一覧93

音色デモ曲35, 95

音色編集79

音色メニュー78

音律87, 90

音量17

音量(音色)79

音量(メトロノーム)85

音量バランス43

カ

画面20

キ

キーカバー14, 15

曲34, 57

曲一覧95

曲カテゴリ36

曲の種類57

曲名変更61

曲メニュー82

ク

組み立て103

クラシック50選36, 95

グランドエクスプレッション26

繰り返し再生40

コ

コーラス29

コーラスタイプリスト81

コピー59

困ったときは101

コントラスト90

コンピューター65

コンピューターとつなぐ2

サ

再生(曲)36

再生(パート)39

再生(リズム)45

削除59

シ

システムメニュー87

手動接続69

詳細設定77

初期化(USBフラッシュメモリー)89

初期化(楽器)92

ス

ステレオフォニックオプティマイザー18

ストリングレゾナンス25

スピーカー	90	ファクトリーリセット	92
スマートデバイス	67	譜面立て	16
スマートデバイス接続マニュアル	2	譜面止め	16
セ		ブライトネス	25
接続	62	ブリリアンス	28
ソ		へ	
ソステヌートペダル	19	ペアリング	74
ソフトペダル	19	ペダル	19, 88
タ		ペダル機能リスト	81
タッチ	25, 87	ヘッドホン	17
ダンパーノイズ	25	ヘッドホンハンガー	18
ダンパーペダル	19	ベル	85
ダンパーレゾナンス	25	変換	60
チ		編集(音色)	79
チューニング	87	編集(曲)	83
テ		ホ	
デモ曲	35	保存(バックアップファイル)	91
デュオ	30	ボディレゾナンス	25
電源	14	メ	
電源アダプター	14	名曲セレクション	36, 96
電源コード	14	メッセージ一覧	98
テンポ	32	メトロノーム	32
テンポ(曲)	38	メトロノーム/リズムメニュー	85
ト		ユ	
トラック オン/オフ	39	ユーザー	36
トラック録音	49	ユーティリティ	89
ネ		ラ	
ネットワーク	68	ランダム(再生)	42
ハ		リ	
バージョン	90	リストア	92
パート	39	リズム	45
ハーフペダル	19	リズム一覧	97
ハーフペダルの位置	26, 88	リバーブ	25, 29
バイノーラルサンプリング	18	リバーブタイプリスト	80
バックアップ	91	リピート再生	42
バックアップ設定	91	レ	
早送り	38	レッスン曲	96
早戻し	38	連続再生	42
ヒ		ロ	
ピアノ設定	78	ローカルコントロール	89
ピアノルーム	24	録音	47
ピッチベンド	88	録音メニュー	86
拍子	33		
フ			
ファイル操作	57		

MEMO

■ 保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

● 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター



ナビダイヤル(全国共通番号)

0570-012-808

ナビダイヤル® ※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-4830 へおかけください。

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

FAX 東日本 (北海道/東北/関東/甲信越/東海)

03-5762-2125

西日本 (北陸/近畿/中国/四国/九州/沖縄)

06-6649-9340

● 修理品お持込み窓口

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006

東京都大田区平和島2丁目1-1

JMT京浜E棟A-5F

FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011

大阪市浪速区難波中1丁目13-17

ナンバ辻本ビル7F


FAX 06-6649-9340

*名称、住所、電話番号、営業時間などは変更になる場合があります。

◆電子ピアノの仕様や取り扱いに関するお問い合わせ

ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター
電子ピアノ・キーボードご相談窓口

 ナビダイヤル(全国共通番号)
0570-006-808

※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-5272 へおかけください。

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

<https://jp.yamaha.com/support/>

◆ウェブサイトのご案内

ヤマハ株式会社ホームページ
<https://jp.yamaha.com/>

ヤマハピアノ・電子ピアノサイト
<https://jp.yamaha.com/piano/>

ヤマハサポート・お問い合わせ
<https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハミュージックデータショップ
<https://yamhamusicdata.jp/>

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中央区中沢町 10-1

* 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

© 2020 Yamaha Corporation

2024年7月 発行 MWMA-W-CO

VFD9140